

第6章 縄文時代の遺物

第1節 出土遺物の概要

本調査における出土遺物は木製コンテナ（10×40×60cm）180箱、総数は小破片まで含めると約27,000点あまりにのぼる。縄文時代を中心とするが、弥生時代から中世までの遺物も比較的多く出土しており、その多くは土器である。縄文時代においては、早期から後期末までの幅広い時期の土器が出土しており、なかでも轟式や阿高式、鐘崎式、北久根山式など縄文時代前期から後期までの土器が大半を占める。これらについては、器面調整や施文技法、文様などにより本章第2節のとおり分類した。

また、石器や骨角器、貝製品も豊富に出土している。石器は石鎌、石匙、削器、磨石・敲石、磨製石斧、石錘などで、骨角器は簪やヤス、貝製品はフネガイ科のアカガイやサルボウなど二枚貝の貝類遺体を利用した貝輪である。

以下では、これら出土遺物について出土層位ごとに記述するが、道路を隔てて対峙するA～DトレンチとEトレンチは、前述のとおり堆積土の様相や貝層の形成時期などが異なることから区別して報告する。なお、出土地点が不明な土器のなかには、残存状況が比較的良好なものも含まれているため、これについてもあわせて記述したい。

第2節 土器・土製品

（1）出土土器の分類

出土した縄文土器は大きくⅠ～Ⅶ類に分類され、このうちの多くで細分を行った（第21・22図）。以下では分類した土器群について概観し、さらに細かな特徴については出土層位ごとに掲載した個々の土器について具体的に論述することにした。

Ⅰ類 押型文系土器群

原体の円周に鋸歯状の三角波状文を彫刻し、山形押型文を回転施文したⅠa類と、この山形押型文だけでなく、交差する格子目状の刻みを施した原体を回転施文した格子目押型文の2種の原体を用いたⅠb類に細分した。

Ⅱ類 貝殻文系土器群

貝殻条痕は施さず、口縁部外面に貝殻腹縁による連続する刺突文や押引文を施文して帯状の文様を構成するもので、その下位に沈線文などの文様を施すものもある。口縁部がまっすぐに上方にのびるⅡa類と、口縁部がラッパ状に開くⅡb類に分けられる。塞ノ神式土器に相当する。

Ⅲ類 轟式系土器群

深鉢形を呈し、地文にハイガイなどのフネガイ科の貝殻腹縁を用いた貝殻条痕を施すものや、その系譜上に位置づけられる土器群。これらは施文技法や文様などからⅢa～Ⅲg類に分けられ、さらに細分できる。

Ⅲa類：内外の器壁に強い条痕を施す。貝殻腹縁で斜めや横方向などの不定方向の条痕を施すⅢa1類と、綾杉状や曲線状の文様、一定方向の規則的な条痕を施すⅢa2類に分けられる。また、胎土にやや大きめの砂粒混じり、他のⅢ類の土器にくらべてやや器壁が厚い。轟A式土器に相当する。

Ⅲ b 類：器外面に隆起帯文が施されるもの。隆起帯文の太さや施文技法より細分が可能である。本調査で出土したⅢ b 類は器形を考慮した分類は困難であるため、以下では隆起帯文に着目して分類した。

Ⅲ b 1 類：横位や縦位、斜位の微隆起帯文を器外面に多数貼り付けるもの。

Ⅲ b 2 類：口縁端部に近い部分に、やや高く突出する隆起帯文を一ないし二条並行にめぐらせるもの。貝殻腹縁による横・縦位、曲線状の強い貝殻条痕を伴うものが多い。

Ⅲ b 3 類：口縁部を中心に隆起帯文を数条貼り付けるもの。

Ⅲ b 4 類：口縁部を中心に微隆起帯文を数条貼り付けるもの。

Ⅲ b 5 類：隆起帯文上に刻み目や刺突文を施すもの。

Ⅲ b 6 類：粘土貼り付け手法を用いず、器表面の摘み上げで微隆起帯文を施文するもの。いわゆる轟B式土器に相当するが、Ⅲ b 1 類はアカホヤ火山灰層以下より出土する微隆起帯文土器の可能性はある。

Ⅲ c 類：地文の浅い貝殻条痕が残り、波状文を主体とする文様を施す。その他に直線文が施されるものもある。二本単位のヘラ状工具で施文するものが多い。震幅が比較的大きなⅢ c 1 類と、震幅が小さいⅢ c 2 類に分けられる。轟C式土器に相当する。

Ⅲ d 類：平口縁と山形口縁のものがあり、外面や口縁部内面に短直線文や二本単位の波状沈線、列点文などの文様をもつもので、文様状の条痕を施すものが多い。地文の浅い条痕が残るものと条痕の痕跡がないものがある。次のとおり細分が可能である。

Ⅲ d 1 類：列点文を施さず、外面や口縁部内面に短直線や波状沈線を施す。これらの沈線は二本単位のものが多い。

Ⅲ d 2 類：Ⅲ d 1 類のような細めのヘラ状施文具を用いず、幅広の施文具でやや浅めの沈線ないし条痕状の沈線を施すもの。

Ⅲ d 3 類：沈線は施されず、列点文だけの文様構成のもの。

本類は轟D式土器に該当する。

Ⅲ e 類：隆起帯文と沈線を組み合わせたⅢ e 1 類や、隆起帯文がなく直線と弧状の細い沈線を組み合わせたⅢ e 2 類がある。器形は丸底で砲弾形を呈し、器壁は総じて薄い。野口式土器に相当する。

Ⅲ f 類：外面全面に列点文や縦列横線文、菱形文などが組み合わされ、幾何学的な文様が施される。胎土中に滑石を含むものがある。曾畑式土器に相当する。

Ⅲ g 類：外面や口縁部内面にフネガイ科貝類の貝殻腹縁を利用して、押引文を帯状に施文するものや、これに細い粘土紐を貼り付けるものである。粘土紐を貼り付けるものをⅢ g 1 類、貼り付けないものをⅢ g 2 類とする。尾田式土器に相当する。

IV類 阿高式系土器群

外面に凹線文を主体とする文様を施す土器群。沈線文を施すものもあるが、これは凹線文から沈線文へと変化した土器群で、系譜的に連なるものである。また、Ⅲ f 類と同様に胎土中に多量の滑石を混入するものもある。IV a～IV d 類に分類できる。

IV a 類：凹線文間に押引文を加えた文様を主体とし、胎土に滑石を混入する。並木式土器に相当する。

IV b 類：平底の深鉢形の器形を呈し、口縁部を中心に凹線文や凹点文を施す。文様の種類には縦・横・

斜位の直線文や入組文、渦巻文などがあり、口唇部に凹点文を施すことで、口縁部が波状を呈するものが多い。胎土中に滑石を混入するものもある。阿高式土器に相当し、文様帯の幅から以下のように細分できる。

IV b 1 類：文様帯が口縁部から胴部上位にまで施され、凹点や横位の凹線文で文様帯と無文部が明確に区別される。縦・横位、斜位の直線文や入組文などが施される。口縁部は肥厚しない。

IV b 2 類：文様帯が口縁部に限られ、胴部に比べて口縁部が肥厚するもの。

IV c 類：口縁部に細めの凹線文や太めのヘラで施文する土器群で、逆S字形状文や縦・斜位の直線文などを施す。南福寺式土器に相当する。口縁部が肥厚しないIV c 1 類と、肥厚するIV c 2 類に細分できる。

IV d 類：深鉢形で口縁部文様帯にヘラ状の施文具を用い、直線的な短沈線文を主に施文する土器群である。出水式土器に相当する。

V 類 市来式系土器群

口縁部が突帯状に肥厚する貝殻条痕文系の土器群。本口縁部外面に短沈線や爪形文、貝殻文を施す。深鉢がほとんどで、口縁部は外反する。

V a 類：山形口縁のもの。口縁部に粘土帯を貼り付けるV a 1 類と、粘土帯を貼り付けずに肥厚するV a 2 類に分類できる。

V b 類：平口縁のもの。口縁部に粘土帯を貼り付けるV b 1 類と、粘土帯を貼り付けずに肥厚するV b 2 類に分けられる。

VI 類 磨消縄文系土器群

器面に縄文を施した後、一部を磨り消して文様を表現する磨消縄文の土器群である。VI a～VI d 類に分類した。

VI a 類：口縁部が強く外反し、胴部から頸部を中心に左右対称に斜線や平行する沈線文を施文するとともに、沈線による渦巻文で胴部を飾る。文様帯は口縁部、頸部、胴部に区分される。器種には鉢や浅鉢がある。鐘崎式土器に相当する。

VI b 類：口縁部が外反し、胴部が丸く膨らみをもちながら平底の底部にいたる器形をなす。深鉢を主体とする。口縁部はやや肥厚し、その部分にW字状の貼付文や短直線文、疑似縄文などを施文する。北久根山式土器に相当する。

VI c 類：3本の沈線によって区画された細い帯部に縄文が残る。福田K 2 式土器に相当する。

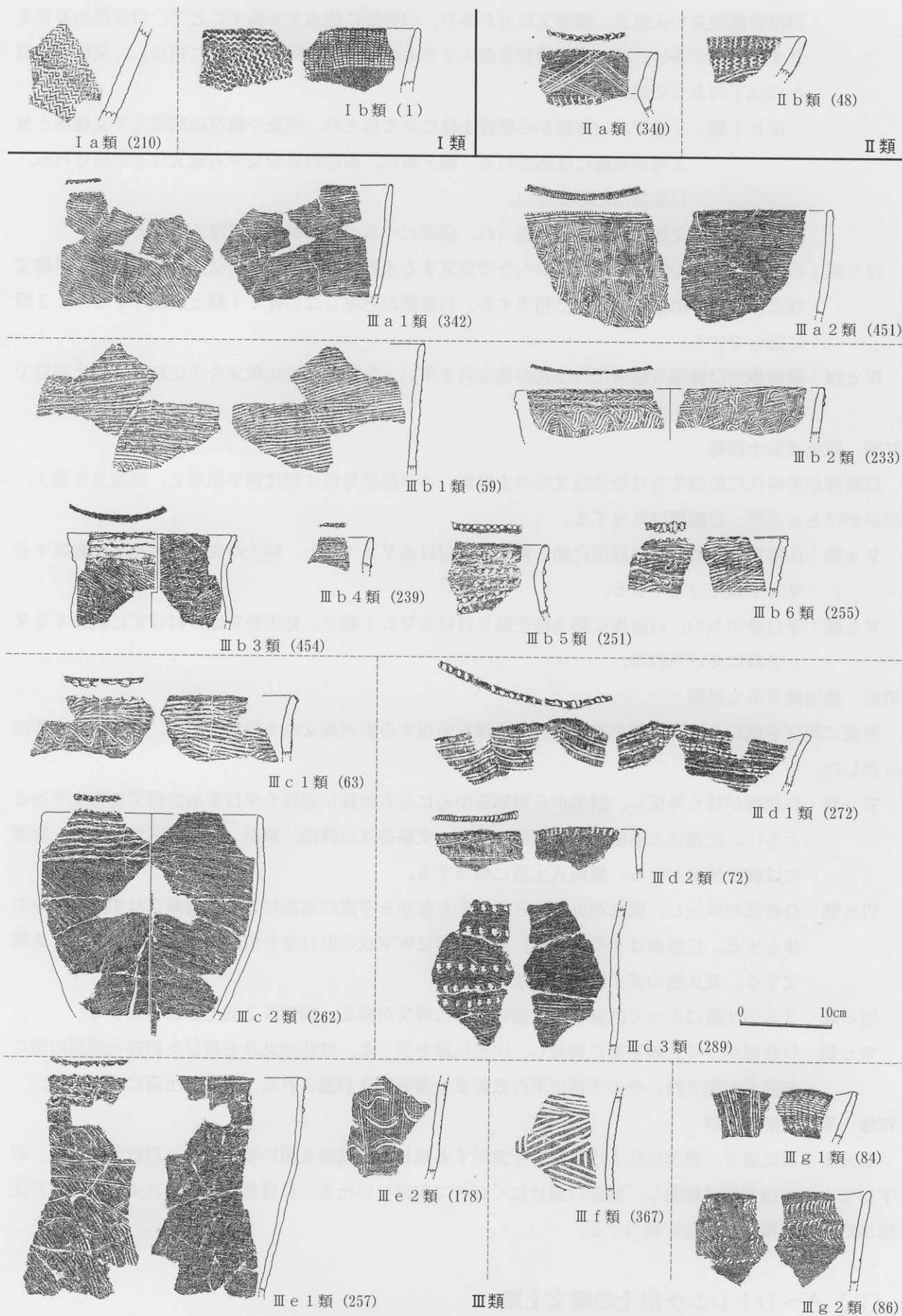
VI d 類：口縁部が「く」の字形に屈曲し、山形口縁を呈する。球状の丸みを帯びた胴部と頸部の境に列点文が配され、その下部に平行直線文や磨消縄文が施される。西平式土器に相当する。

VII 類 黒色磨研土器群

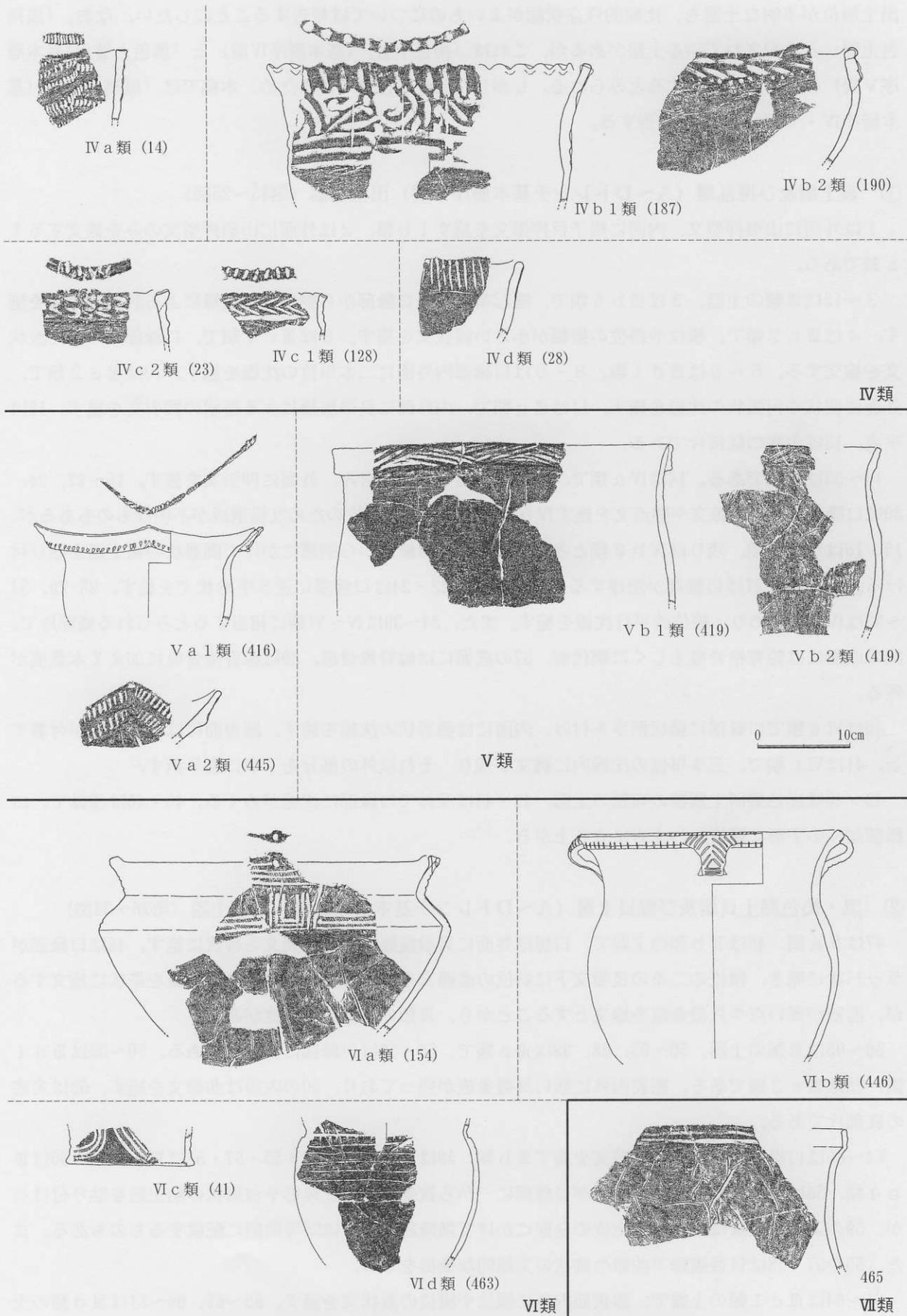
器面を丁寧に磨き、黒色に仕上げることが意図する黒色磨研技法を用いる土器群。口縁部が「く」の字形でやや内傾気味に屈曲し、頸部は弧状にくびれて胴部にいたる。口縁部に二から三条程度の平行沈線がめぐる。御領式土器に相当する。

(2) A～D トレンチ出土の縄文土器

基本層序 I～V 層に分け、出土した縄文土器の形態的特徴や施文手法などについて詳述する。また、



第21図 出土縄文土器分類図1 (1/6、数字は遺物番号を示す)



第22図 出土縄文土器分類図2 (1/6、数字は遺物番号を示す)

出土層位が不明な土器も、比較的残存状態がよいものについては報告することにしたい。なお、「黒褐色土層」と注記されている土器があるが、これは「褐色土層」（基本層序Ⅳ層）と「黒色土層」（基本層序Ⅴ層）のいずれかに属するとみられる。しかし、区分为困難であるため、本稿では「黒褐色土層（基本層序Ⅳ・Ⅴ層）」として報告する。

① 表土層及び攪乱層（A～Dトレンチ基本層序Ⅰ層）出土土器（第23～25図）

1は外面に山形押型文、内面に格子目押型文を施すⅠb類、2は外面に山形押型文のみを施文するⅠa類である。

3～13はⅢ類の土器。3はⅢb5類で、隆起帯文上や口縁部から胴部に貝殻縁による刺突列点文を施す。4はⅢc2類で、横位や斜位の振幅が小さい波状文を施す。5はⅢc1類で、口縁部内外面に波状文を施文する。6～9はⅢd1類。8・9は口縁部内外面に二本単位の沈線を施す。10はⅢe2類で、外面に波状や円弧状の沈線を施す。11はⅢg類で、内外面に貝殻腹縁による帯状の押引文を施す。12は平底、13は尖底の底部片である。

14～33はⅣ類である。14はⅣa類で、胎土に滑石を多量に含み、外面に押引文を施す。15～22、26、30は口縁部外面に凹線文や凹点文を施すⅣb類で、口縁部の破片のため文様構成が不明なものもあるが、15・16はⅣb1類、残りはⅣb2類とみられる。15は口縁部から胴部にかけて渦巻状の粘土紐を貼り付ける。23～25、27は口縁部が肥厚するⅣc2類で、23・24は口縁部に逆S字形状文を施す。28・29、31～33はⅣd類であり、縦位の平行沈線を施す。また、34～39はⅣ～Ⅵ類に相当するとみられる底部片で、34の底面には鯨脊椎骨痕もしくは網代痕、37の底面には鯨脊椎骨痕、39は鯨脊椎骨痕に加えて木葉痕が残る。

40はⅥa類で口縁部に橋状把手を付け、内面には渦巻状の沈線を施す。器表面には赤色顔料が付着する。41はⅥc類で、三本単位の沈線内に縄文が残り、それ以外の部分を丁寧に磨り消す。

42～46は黒色磨研土器群のⅦ類の土器。42～44は深鉢で口縁部に沈線がめぐる。45・46は浅鉢で、口縁部がくの字形に屈折し、上方に立ち上がる。

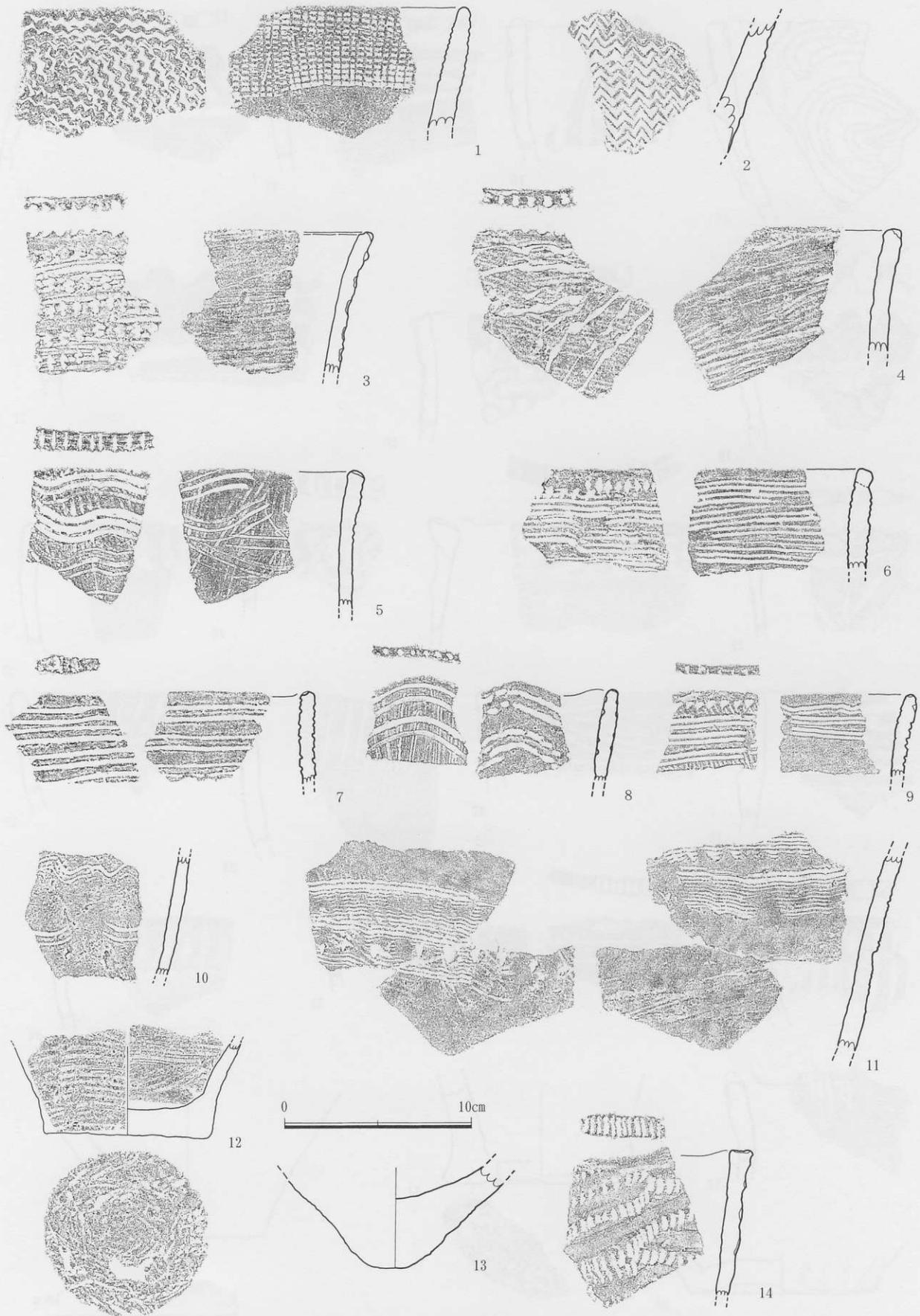
② 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土土器（第26～33図）

47はⅡa類、48はⅡb類の土器で、口縁部外面に貝殻腹縁による刺突文を帯状に施す。48は口縁部がラップ状に開き、横位の二条の貝殻文下に斜位の直線文を施す。49も外面に貝殻腹縁を帯状に施文するが、器壁が薄い点や貝殻条痕を地文とすることから、Ⅲ類の土器の可能性が高い。

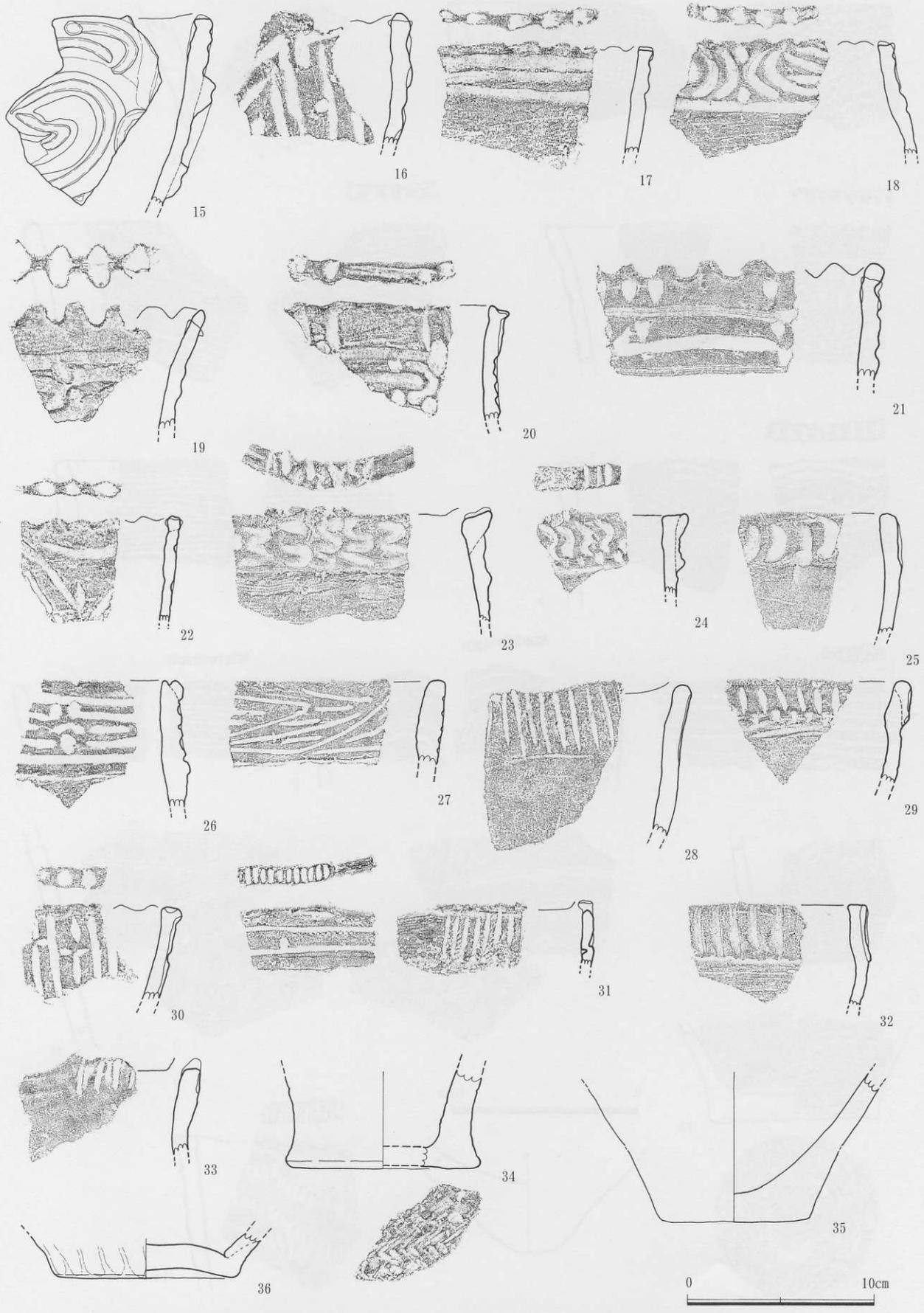
50～95はⅢ類の土器。50～53、68、93はⅢa類で、50・53は口縁部に刻み目がある。50～53はⅢa1類、68はⅢa2類である。器表内外に強い貝殻条痕が残っており、50の内面は曲線文を施す。52は尖底の底部片である。

54～60は口縁部や胴部に隆起帯文を施すⅢb類。59はⅢb1類、54・55・57・58はⅢb2類、60はⅢb4類、56はⅢb6類である。多くが口縁部に一から数条の断面三角形や台形状の粘土紐を貼り付けるが、59のように口縁部から胴部上位の全面にかけて微隆起帯文をほぼ等間隔に配置するものもある。また、55や57・58は貝殻腹縁で曲線や波状の文様の条痕をもつ。

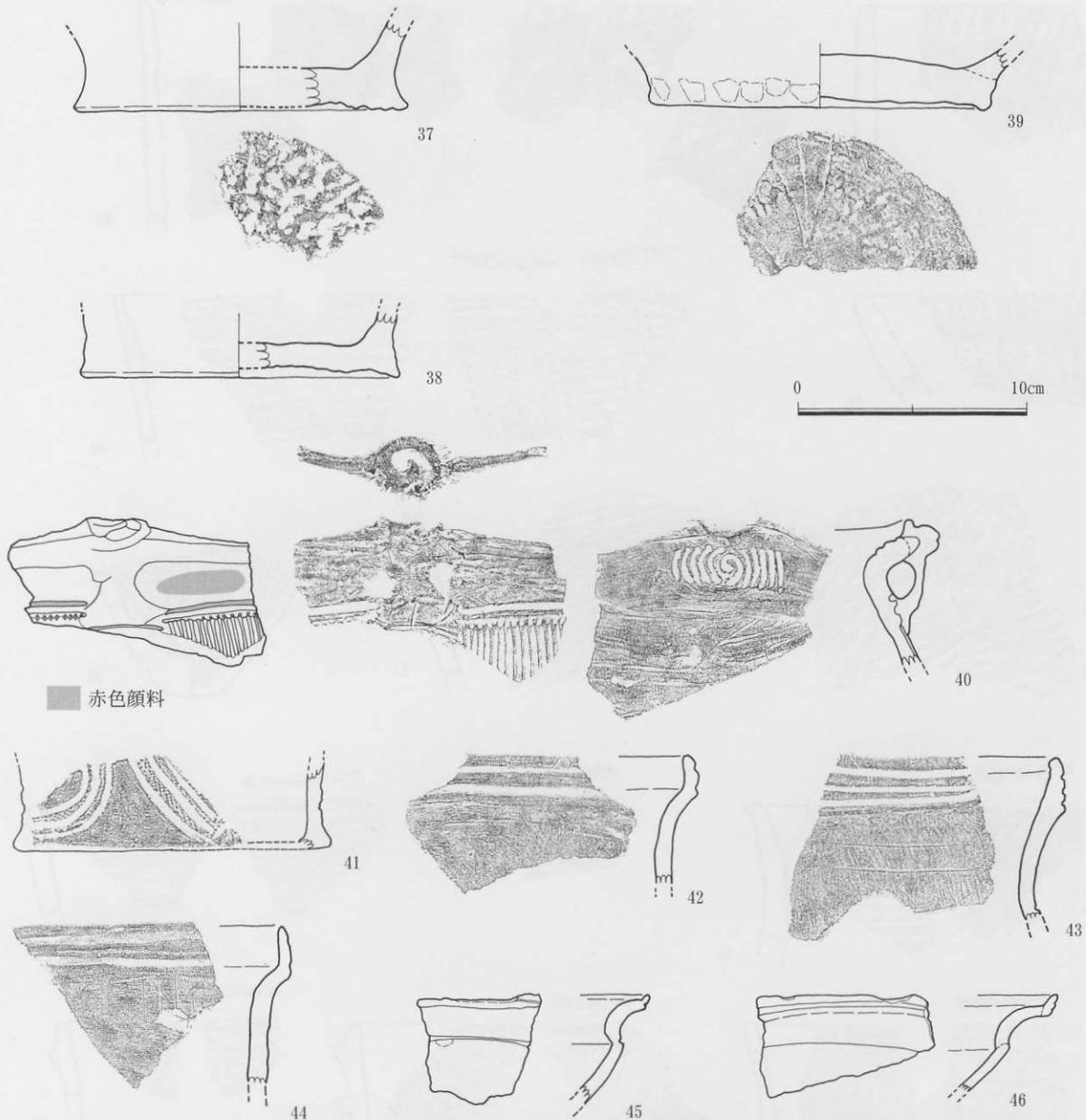
61～64はⅢc1類の土器で、器表面内外に横位や縦位の波状文を施す。65～67、69～81はⅢd類の土器で、71・74・75は山形口縁を呈する。また、67・70・78を除き口縁部に刻み目を有する。65・66・69・



第23図 表土層及び攪乱層（A～Dトレンチ基本層序I層）出土縄文土器1（1／3）



第24図 表土層及び攪乱層 (A~Dトレンチ基本層序I層) 出土縄文土器2 (1/3)

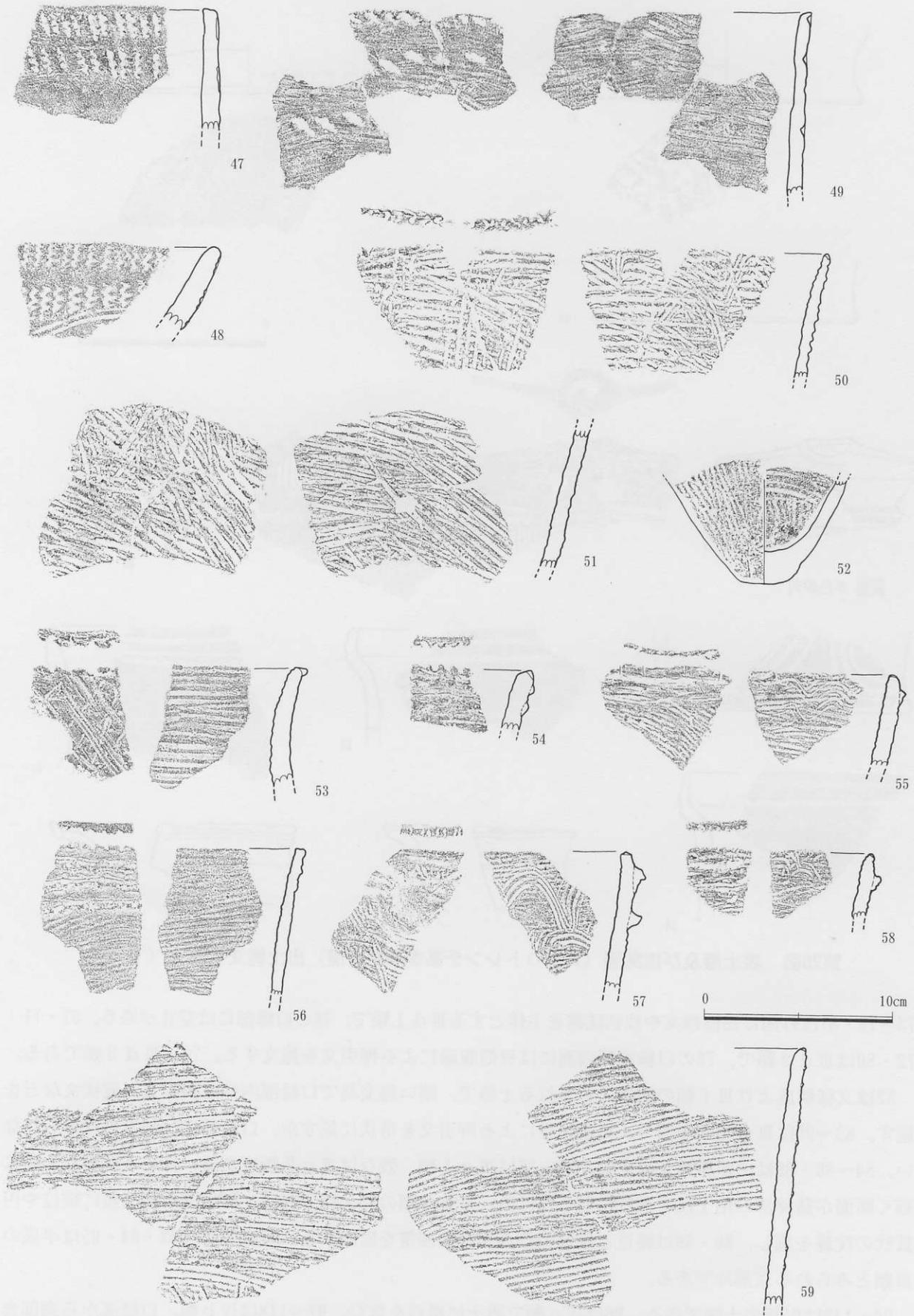


第25図 表土層及び攪乱層（A～Dトレンチ基本層序I層）出土縄文土器3（1/3）

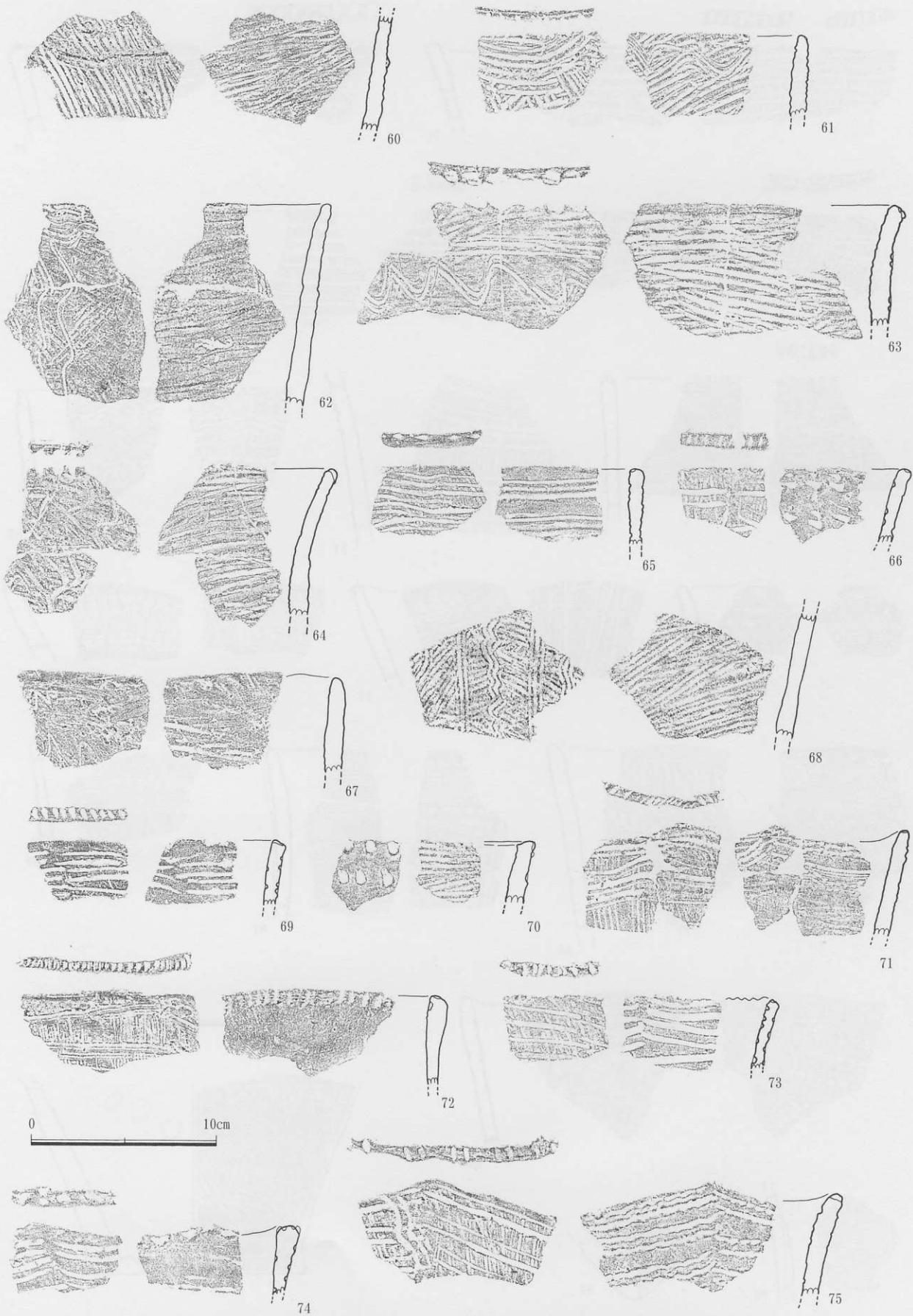
73～79・81は外面に短直線文や波状沈線を主体とするⅢd1類で、76の口縁部には穿孔がある。67・71・72・80はⅢd2類で、72の口縁端部内面には貝殻腹縁による押引文を施文する。70はⅢd3類である。

82は文様構成よりⅢf類の範疇に含まれる土器で、細い施文具で口縁部内外に刺突文、波状文などを施す。83～90はⅢg類の土器で、貝殻腹縁による押引文を帯状に施すが、口縁部には刻み目はみられない。84～86・89は山形口縁を呈する。84・87はⅢg1類、残りはⅢg2類である。Ⅲg1類の84・87は細く断面が蒲鉾形の粘土紐を縦位に貼り付ける。Ⅲg2類の83・88・90は、押引文の施文後に縦位や円弧状の沈線を施し、86・89は縦位と横位の列点文で文様帯を区画する。91は尖底、92・94・95は平底のⅢ類とみられる底部片である。

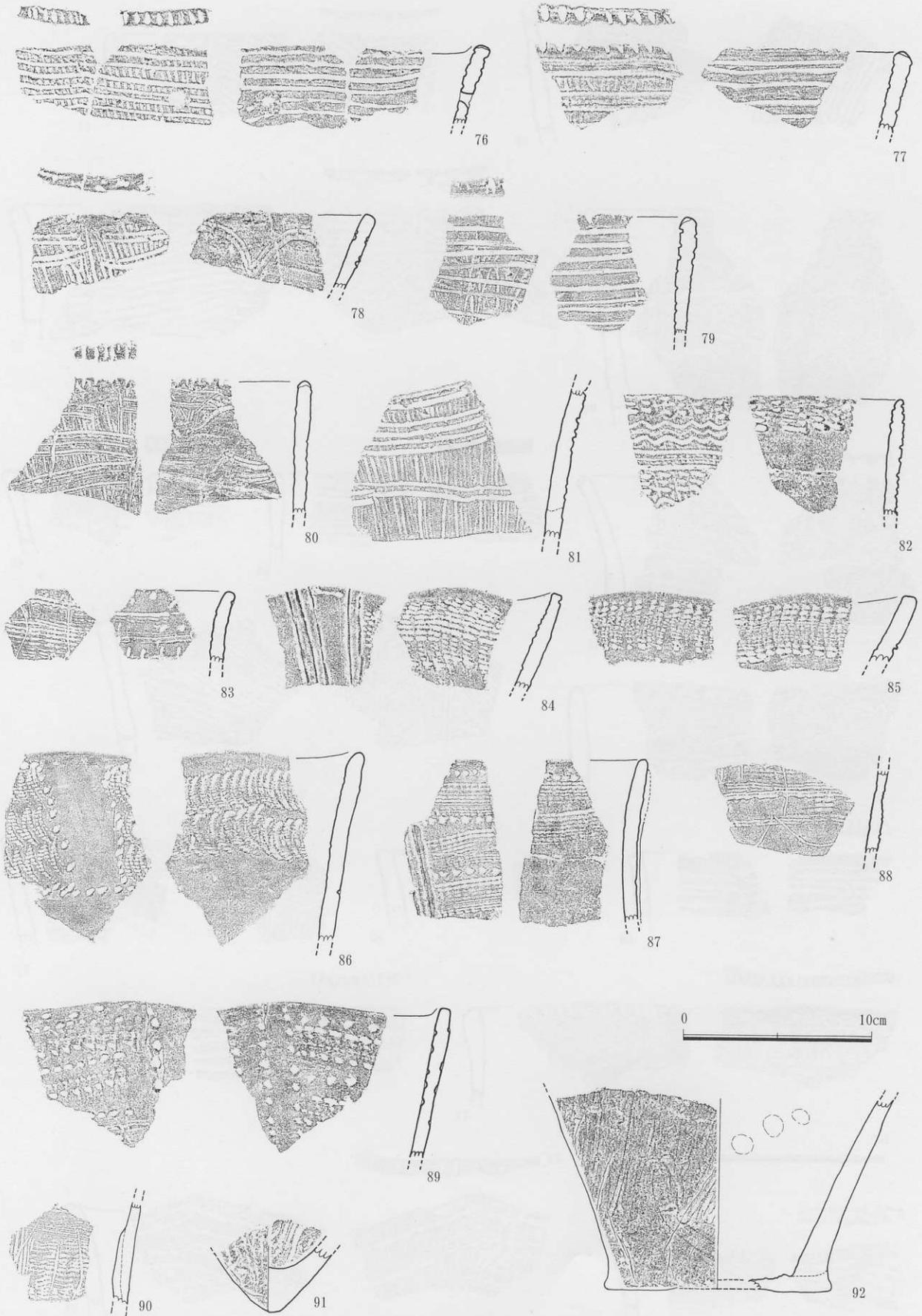
96～142はⅣ類の土器である。96はⅣa類で胎土に滑石を含む。97～118はⅣb類。口縁部から胴部まで残存している資料は少ないが、縦方向に文様が展開するとみられる99や、幅広の文様帯の106・107・



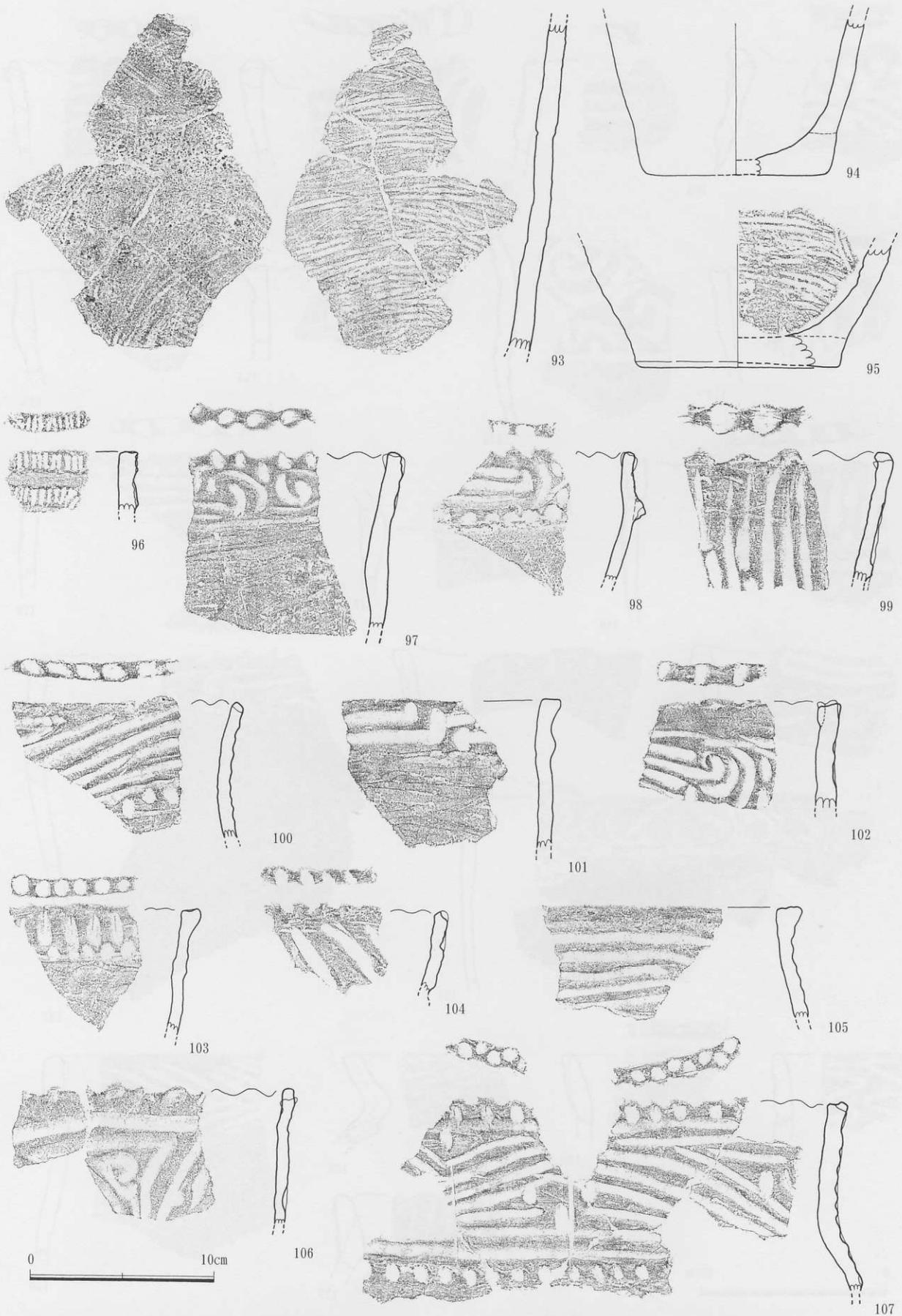
第26図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器1（1／3）



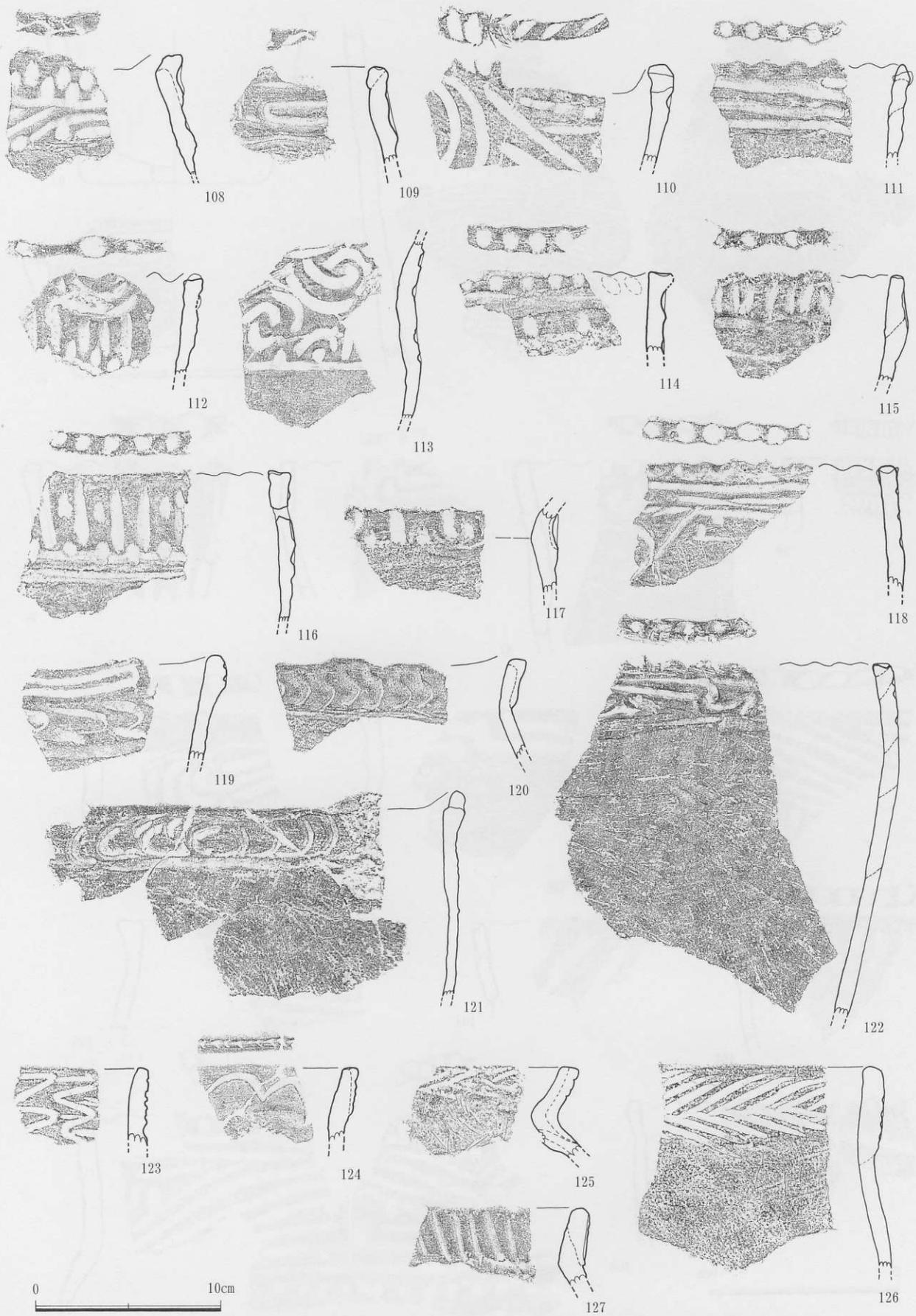
第27図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器2（1／3）



第28図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器3（1／3）



第29図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器4（1／3）



第30図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器5（1／3）

113を除き、総じて口縁部文様帯が狭く、文様が比較的簡略なものが多い。渦巻文を施す97・102のほか、凹点文によって区画された文様帯に縦位や横位、斜位に凹線文を施文する98・100・103・107・112・114・116・117などがある。IV b 1類は99・100・104～107・110・112・113、IV b 2類は97・98・101～103・108・109・111・114～118。

119～131はIV c類。細めの凹線やヘラを用いて逆S字状文やそれに類する文様を口縁部に施す120・122・123、羽状文の125・126・128などがあり、122・125・128・129はIV c 1類、残りはIV c 2類である。132・133はIV d類で、ヘラ描きの直線的な沈線でやや肥厚した口縁部に文様を描く。134～142はIV類に属するとみられる土器の底部片である。このうち、134・137・139の底面に鯨脊椎骨痕、136には縄状圧痕、140・141には木葉痕が残存する。

143～149はV類の土器で、143・148を除き口縁部に粘土帯貼り付け手法が用いられる。148・149は山形口縁で、149は半裁竹管状の文様やヘラ状工具で曲線が施される。148がV a 2類、149がV a 1類。143～147は平口縁で、斜位や横位の沈線を施す。143はV b 2類でそれ以外はV b 1類である。

150～164はVI類の土器である。150～156・158は鉢もしくは浅鉢のVI a類で、口縁部は外側に大きく肥厚し、胴部には数条の平行する沈線文をめぐらせ、その間に縄文が残る。151は口縁部に橋状把手が付き、上部には渦巻文を施す。また、154・155は口縁部に穿孔がある。157・159～161はVI b類で、159の口縁部にはW字状の粘土紐が貼り付けられ、160には赤色顔料が付着している。

③ 純貝層（A～Dトレンチ基本層序Ⅲ層）出土土器（第34～37図）

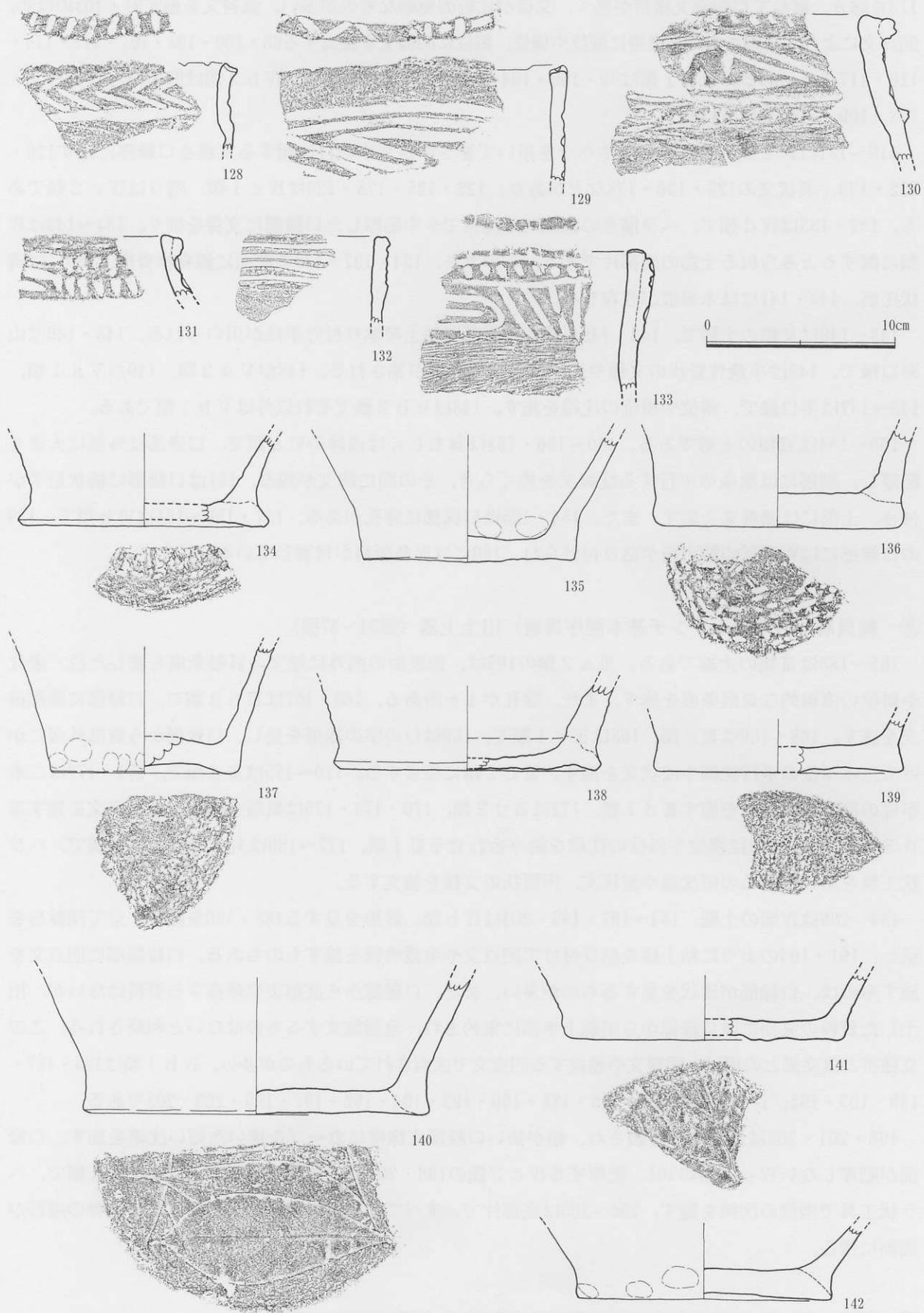
165～183はⅢ類の土器である。Ⅲ a 2類の165は、器表面の内外に地文の貝殻条痕を施した後、縦位や斜位の直線的な貝殻条痕を施す。また、穿孔が1ヶ所ある。166・167はⅢ b 3類で、口縁部に隆起帯文を施す。168・169はⅢ c類。168はⅢ c 1類で、169はUの字の器形を呈し、口縁部から底部外面にかけて三本単位の平行沈線や波状文を施す。Ⅲ c 2類に相当する。170～175はⅢ d類で、171・172は二本単位の施文具で沈線を施すⅢ d 1類、172はⅢ d 2類、170・174・175は貝殻条痕の後に列点文を施すⅢ d 3類である。176は横位や斜位の沈線を組み合わせるⅢ f類。177～180は丸底深鉢のⅢ e類で、ヘラ状工具を用いて細めの短沈線や波状文、円弧状の文様を施文する。

184～209はIV類の土器。184～197・199・203はIV b類。鉢形を呈する188・190を除き、全て深鉢形を呈し、191・194のように粘土紐を貼り付けて凹点文や半裁竹管を施すものもある。口縁端部に凹点文を施すものは、口縁部が波状を呈するものが多い。また、口縁部から底部まで残存する資料はないが、出土した資料の文様帯は口縁部から胴部上半部に集約され、全面施文するものはないと判断される。この文様帯と無文部との境は、凹線文や連続する凹点文で区画されているものが多い。IV b 1類は184・187・189・193・195、IV b 2類は185・186・188・190・192・194・196・197・199・200・203である。

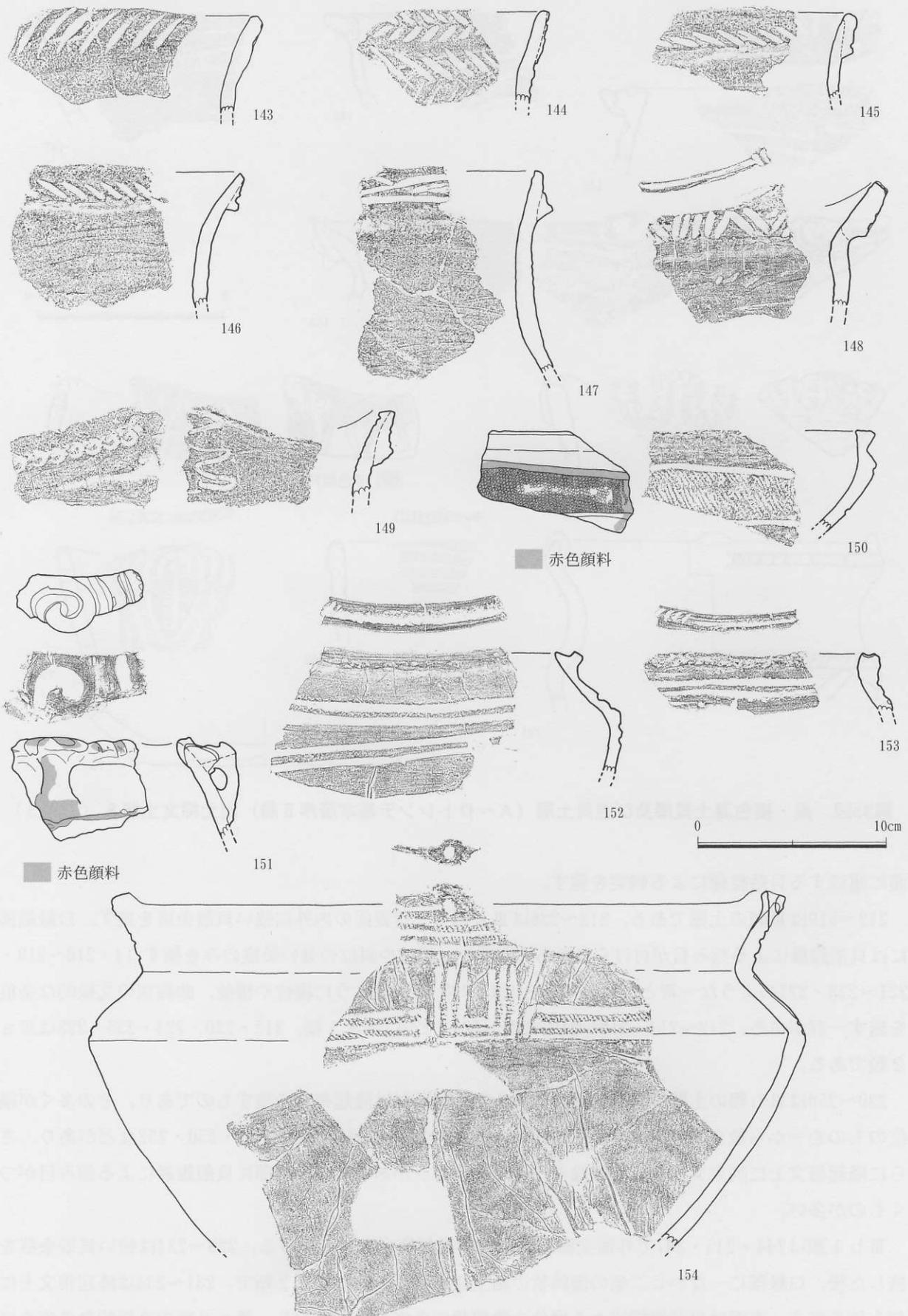
198・201・202はIV c類に分類され、幅が狭い口縁部文様帯にカーブを描いた短い沈線を施す。口縁部が肥厚しないIV c 1類の201、肥厚するIV c 2類の198・202に分けられる。204・205はIV d類で、ヘラ状工具で横位の沈線を施す。206～209は底部片で、すべて平底である。206・209は鯨脊椎骨の痕跡が底面に残る。

④ 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅳ層）出土土器（第38～47図）

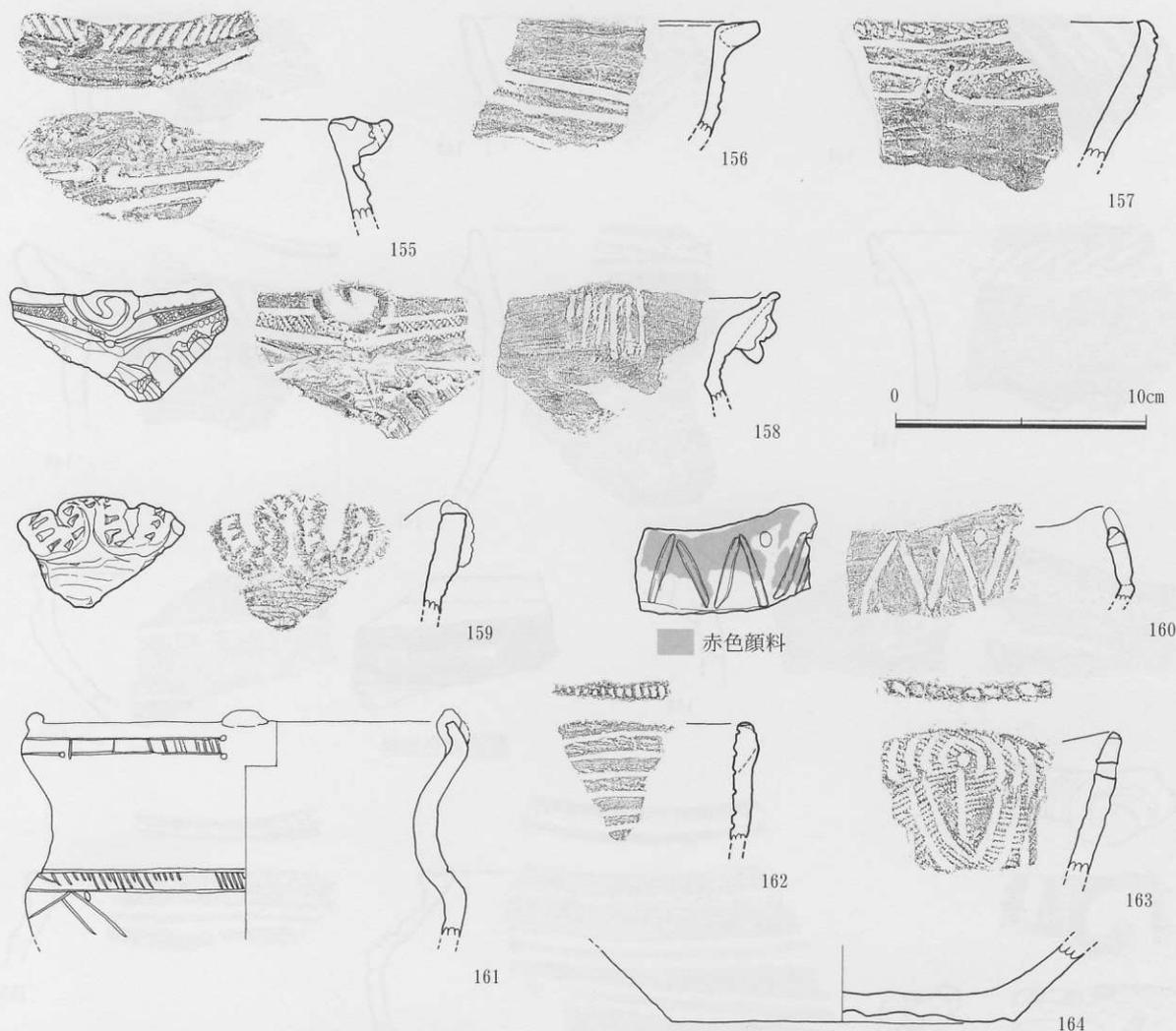
210はI a類の土器で外面に山形押型文を施す。211はII b類の土器で、口縁部がラッパ状に開き、外



第31図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器6（1／3）



第32図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層 (A~Dトレンチ基本層序II層) 出土縄文土器7 (1/3)



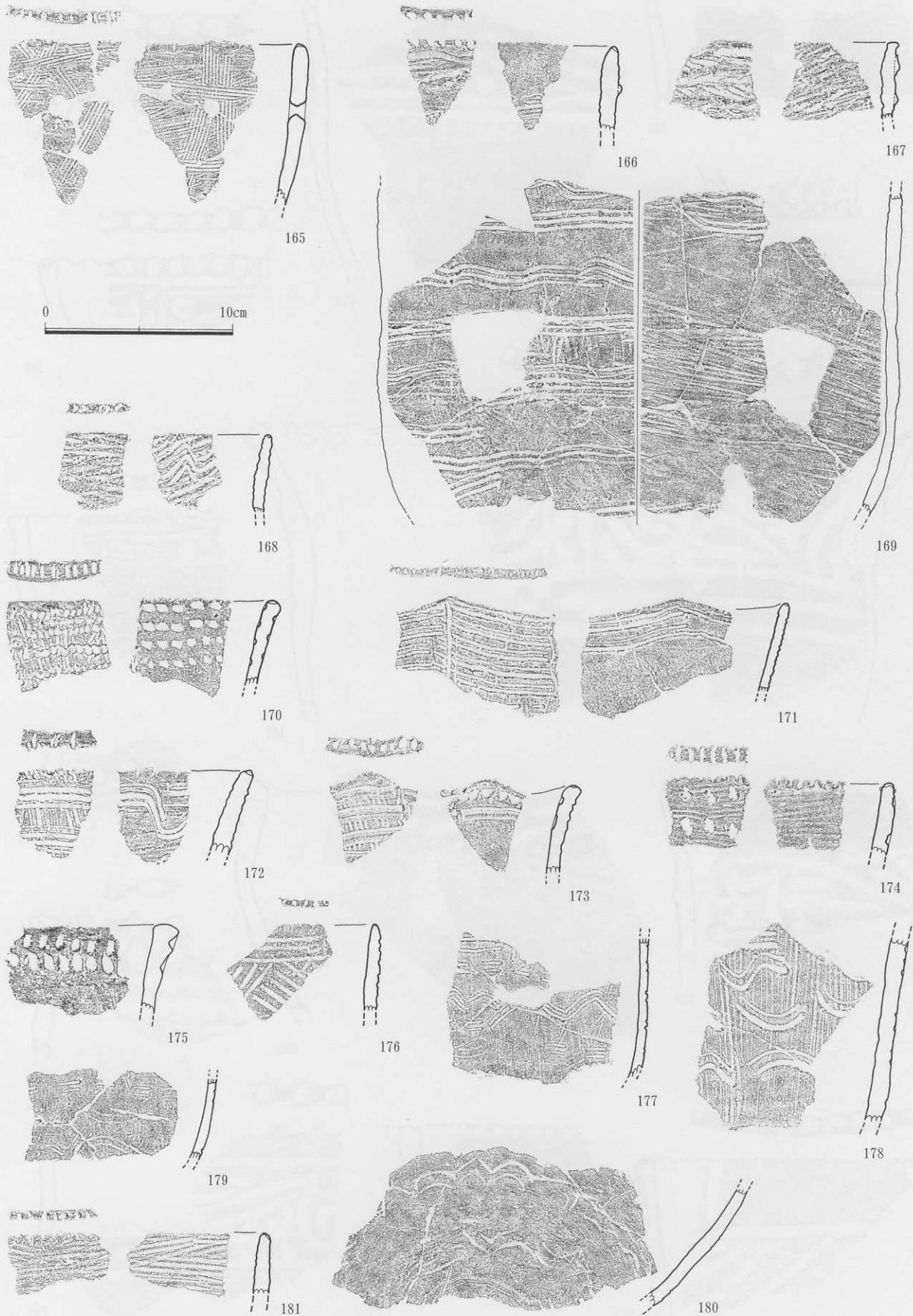
第33図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器 8（1／3）

面に連続する貝殻腹縁による刺突を施す。

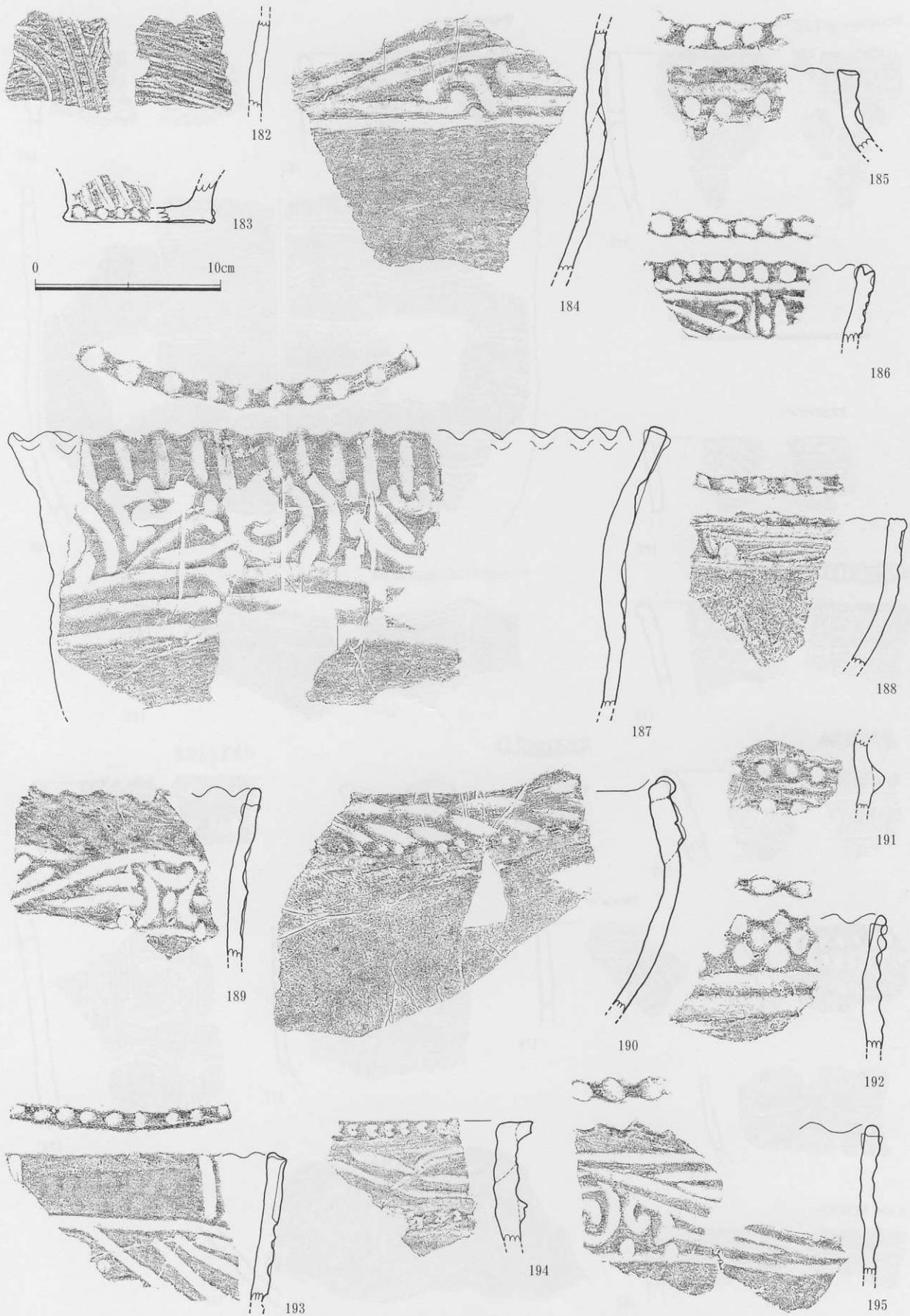
212～319はⅢ類の土器である。212～228はⅢ a類で、器表面の内外に強い貝殻条痕を施す。口縁端部には貝殻腹縁による刻み目が付けられたものが多い。横位や斜位の強い条痕のみを施す214・216～219・221～223・227のような一群と、215・220・224・225・228のように縦位や横位、曲線状の文様の条痕を施す一群がある。212～214・216～219・221～223・227はⅢ a 1類、215・220・224・225・228はⅢ a 2類である。

229～256はⅢ b類の土器である。器壁に粘土紐を貼り付け隆起帯文を施すものであり、その多くが横位のもを一から数条めぐらす、斜位や縦位に貼り付ける244・245・247・250・252などがあり、さらに隆起帯文上に列点文を施すものなどバリエーションがある。口縁端部に貝殻腹縁による刻み目がつくものが多い。

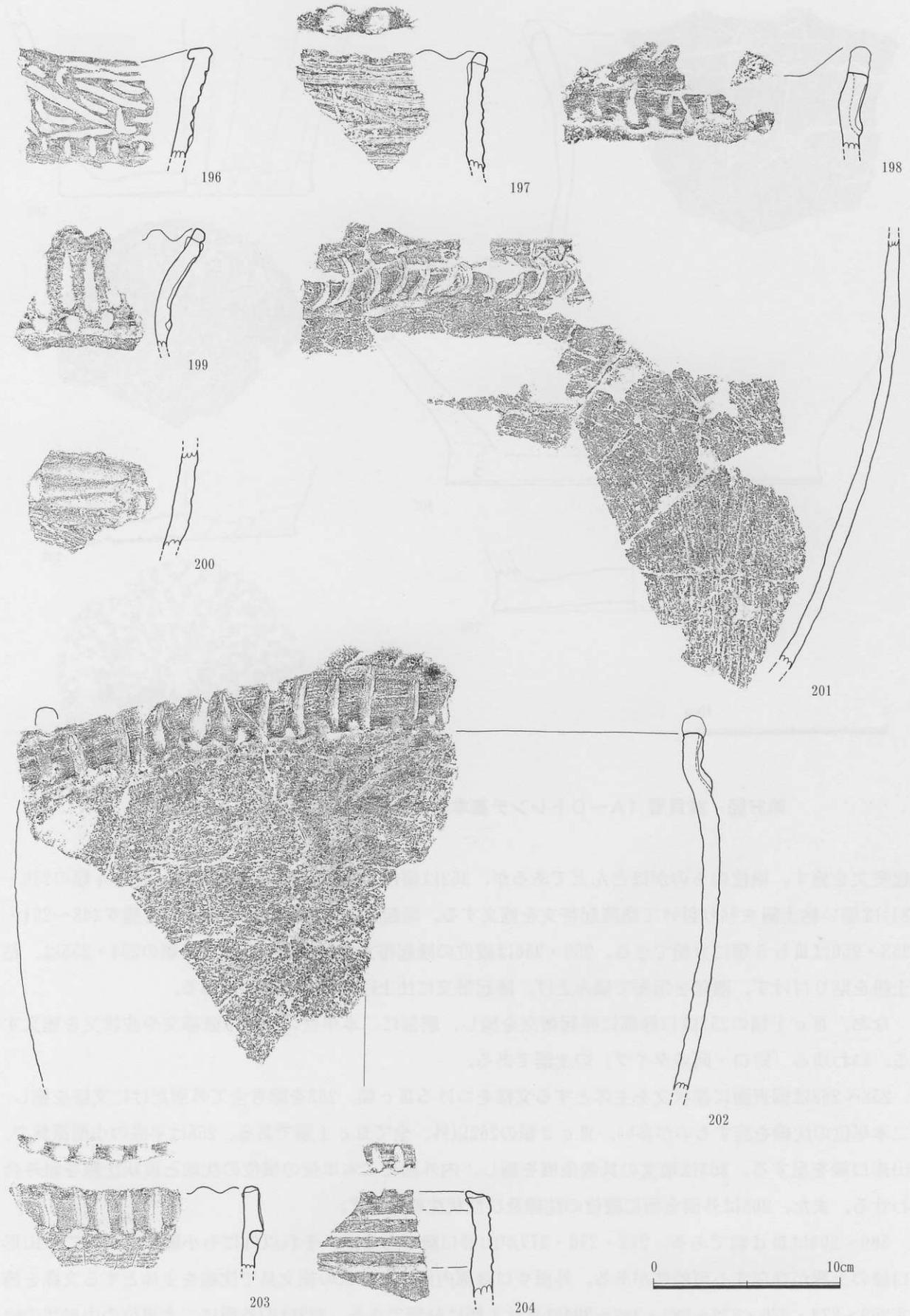
Ⅲ b 1類は244・245・247で外面全面に斜位の微隆起帯文を貼り付ける。229～234は強い貝殻条痕を施した後、口縁部に一ないし二条の蒲鉾状の粘土紐をめぐらせるⅢ b 2類で、231～234は隆起帯文上に刻み目を施す。表面は貝殻腹縁による縦位や曲線状の条痕を施しており、Ⅲ a 2類の文様の条痕をほどこすものと類似する。Ⅲ b 3類の235～238・240・242・243・246・252は口縁部から胴部にかけて隆



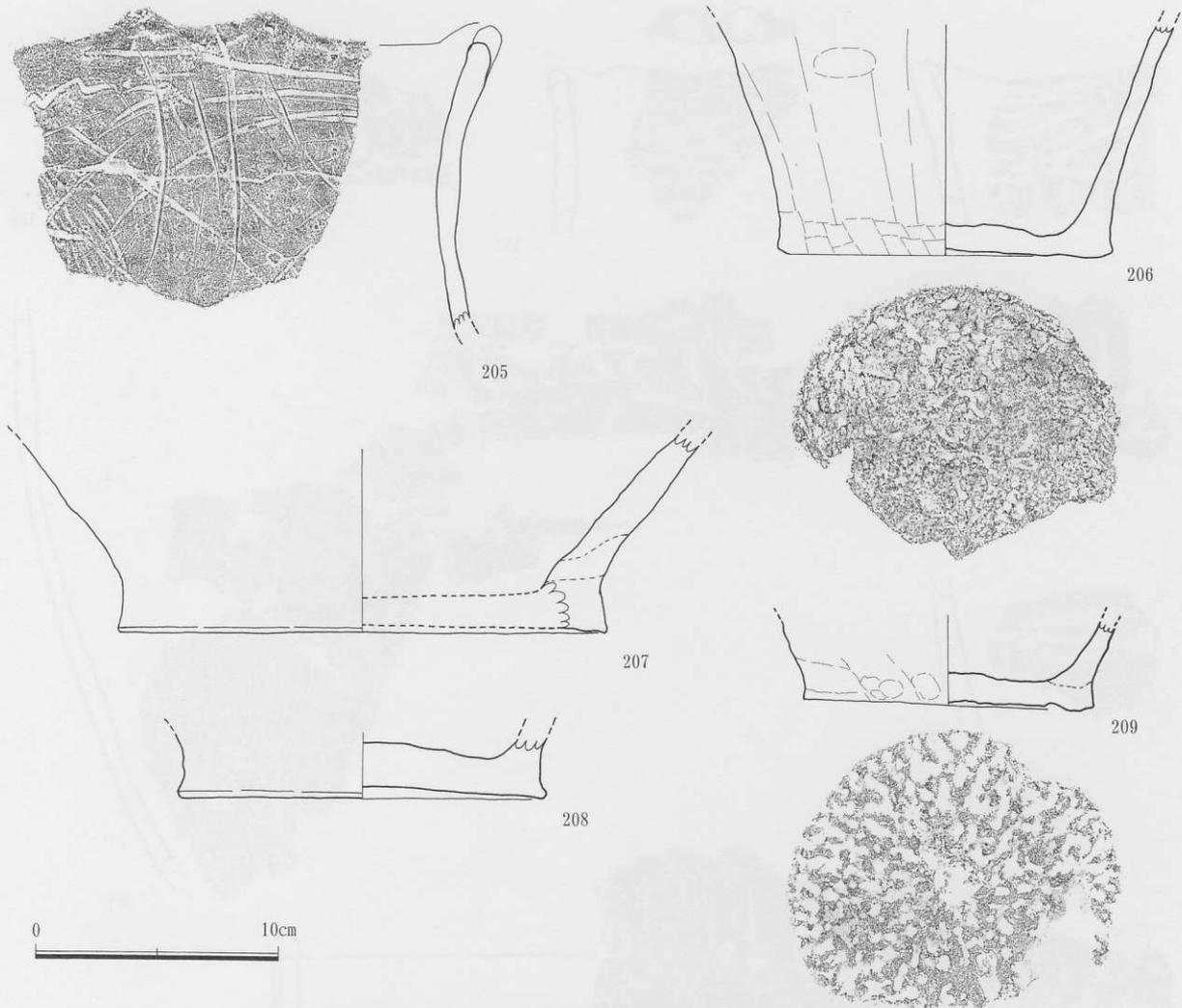
第34図 純貝層 (A~Dトレンチ基本層序Ⅲ層) 出土縄文土器 1 (1/3)



第35図 純貝層（A～Dトレンチ基本層序Ⅲ層）出土縄文土器2（1/3）



第36図 純貝層 (A~Dトレンチ基本層序Ⅲ層) 出土縄文土器 3 (1/3)



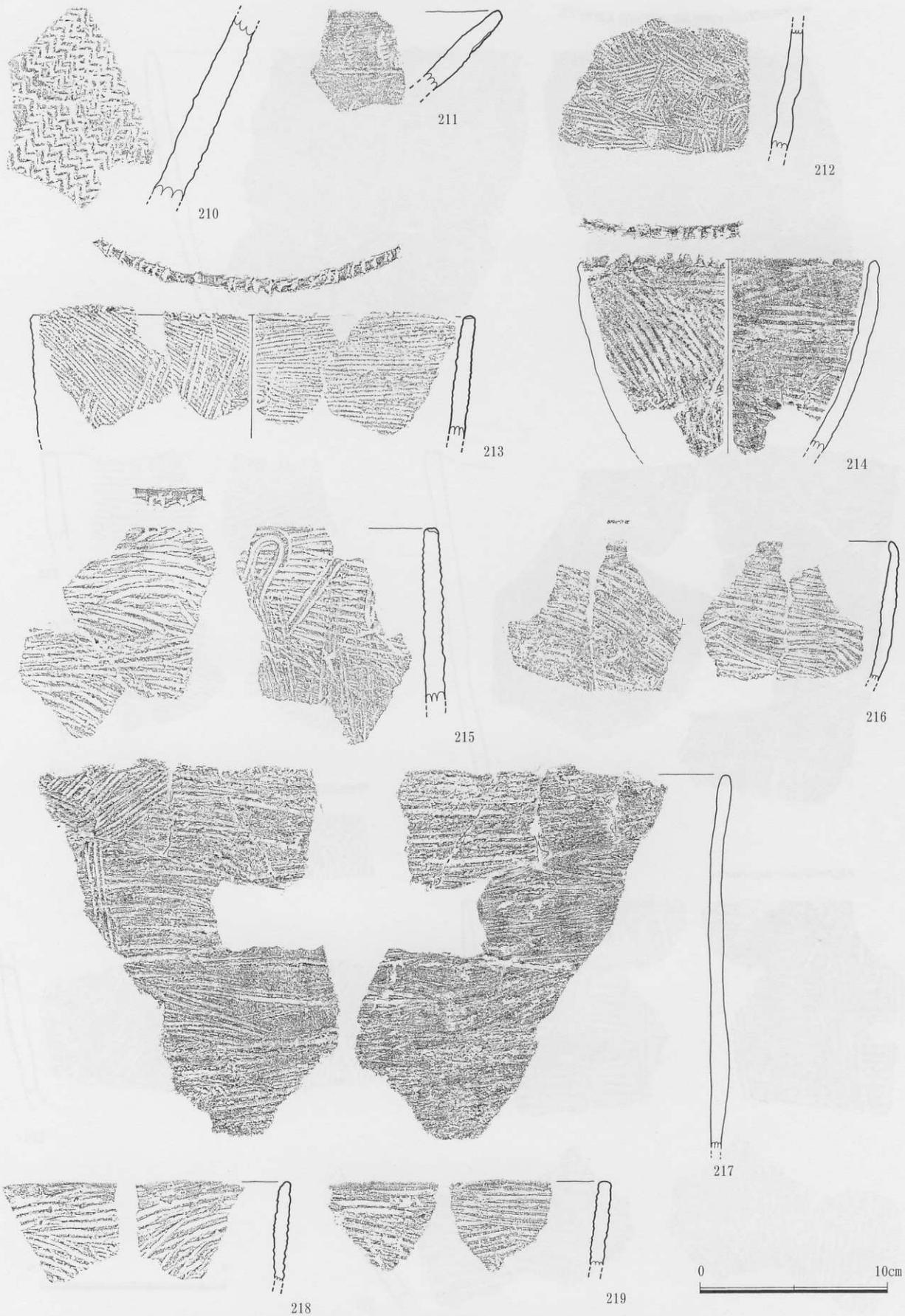
第37図 純貝層（A～Dトレンチ基本層序Ⅲ層）出土縄文土器4（1／3）

起帯文を施す。横位のものがほとんどであるが、252は縦位、246は曲線状を呈する。Ⅲ b 4 類の239・241は細い粘土紐を貼り付けて微隆起帯文を施文する。隆起帯文上に刻み目や刺突文を施す248～251・253・256はⅢ b 5 類に分類できる。250・256は縦位の隆起帯文を施文する。Ⅲ b 6 類の254・255は、粘土紐を貼り付けず、器壁を指先で摘み上げ、隆起帯文に仕上げる手法のものである。

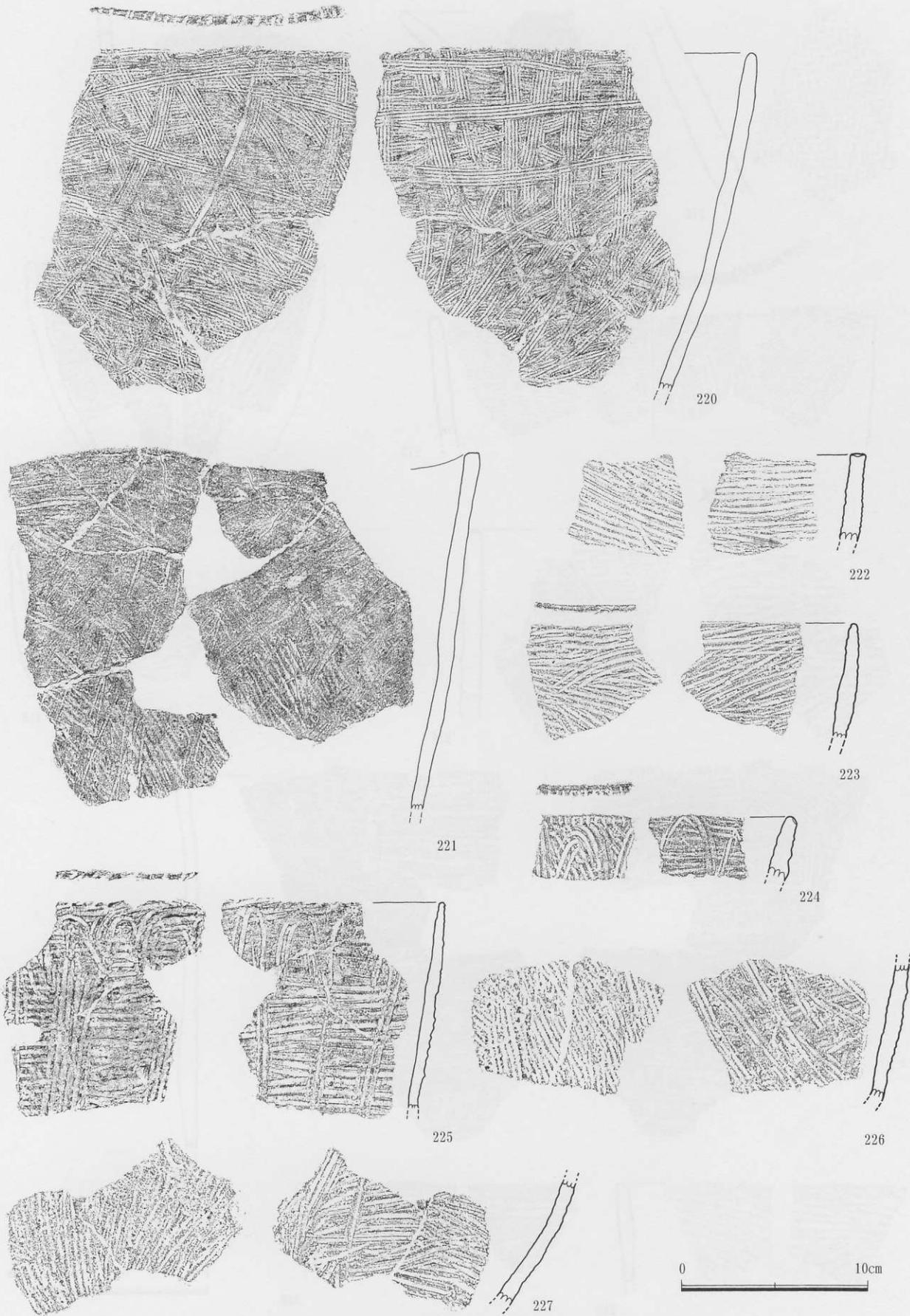
なお、Ⅲ e 1 類の257は口縁部に隆起帯文を施し、胴部に二本単位の沈線で直線文や波状文を施文する。いわゆる「野口・阿多タイプ」の土器である。

258～268は器表面に波状文を主体とする文様をつけるⅢ c 類。263を除き全て外面だけに文様を施し、二本単位の沈線を施すものが多い。Ⅲ c 2 類の262以外、全てⅢ c 1 類である。258は平底の小型深鉢で、山形口縁を呈する。263は地文の貝殻条痕を施し、内外面に二本単位の横位の沈線と波状沈線を組み合わせる。また、265は外面全面に縦位の沈線及び波状沈線を施す。

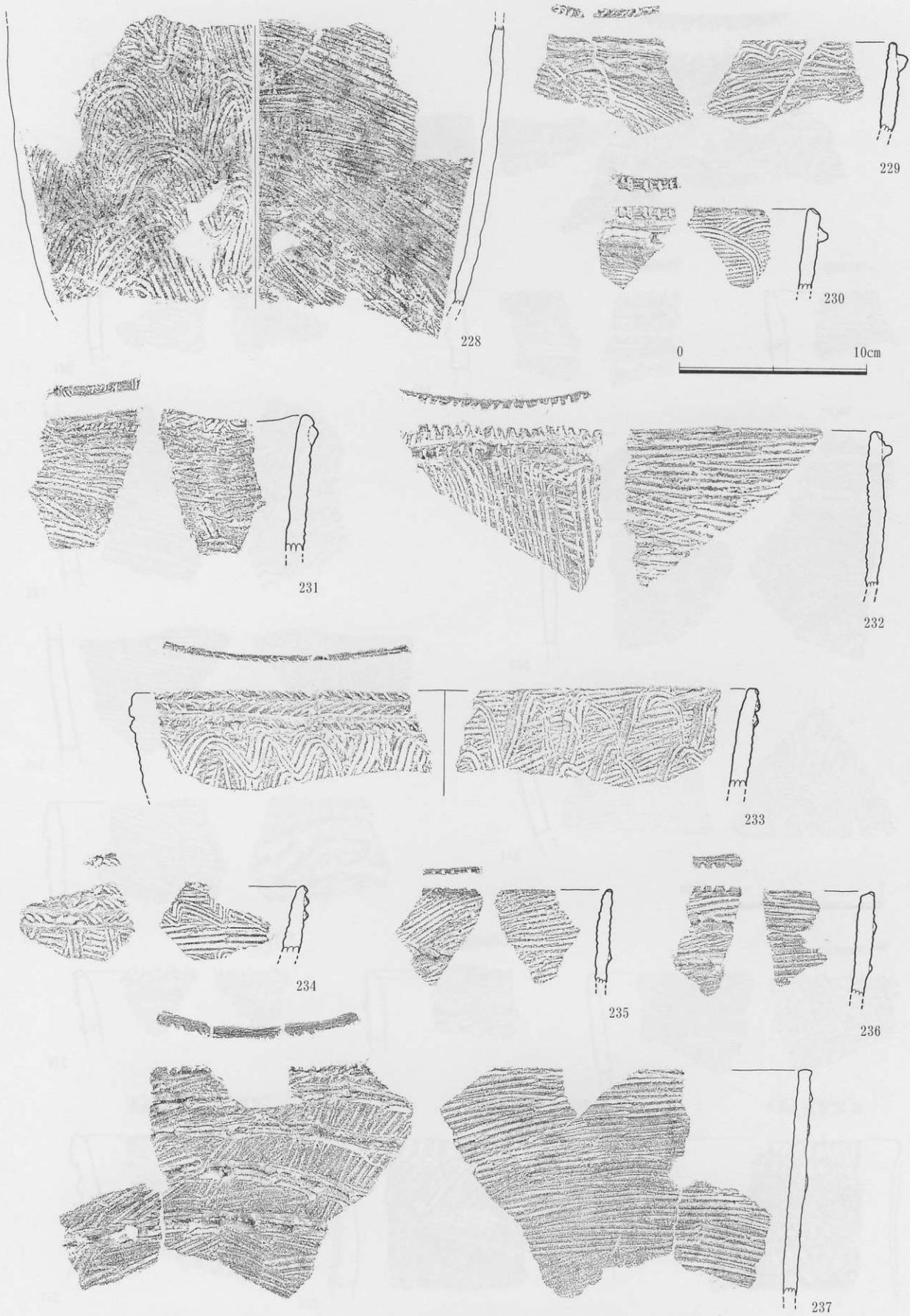
269～294はⅢ d 類である。272・276・277が山形口縁であるが、それ以外にも小破片のなかには山形口縁の土器が存在する可能性がある。外面や口縁部内面にヘラ状の施文具で沈線を主体とする文様を施す269～274・276・279～283・292～294はⅢ d 1 類に分類できる。272は内外面に二本単位の山形状の短沈線及び押引状の沈線を施す。270・273・281はこのような沈線に加えて外面に二、三本単位の沈線を



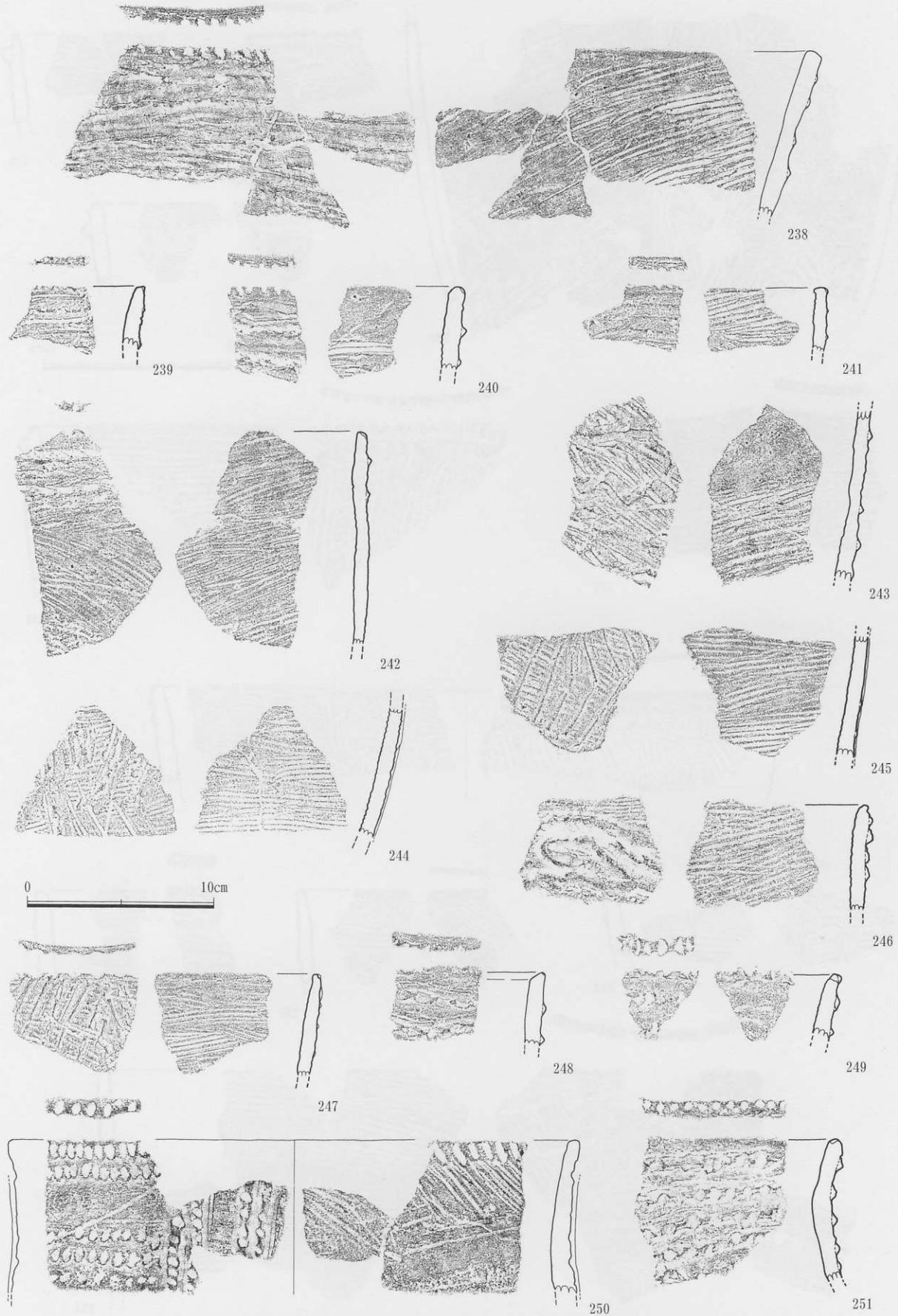
第38図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器 1（1／3）



第39図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土縄文土器 2 (1/3)



第40図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土縄文土器3 (1/3)



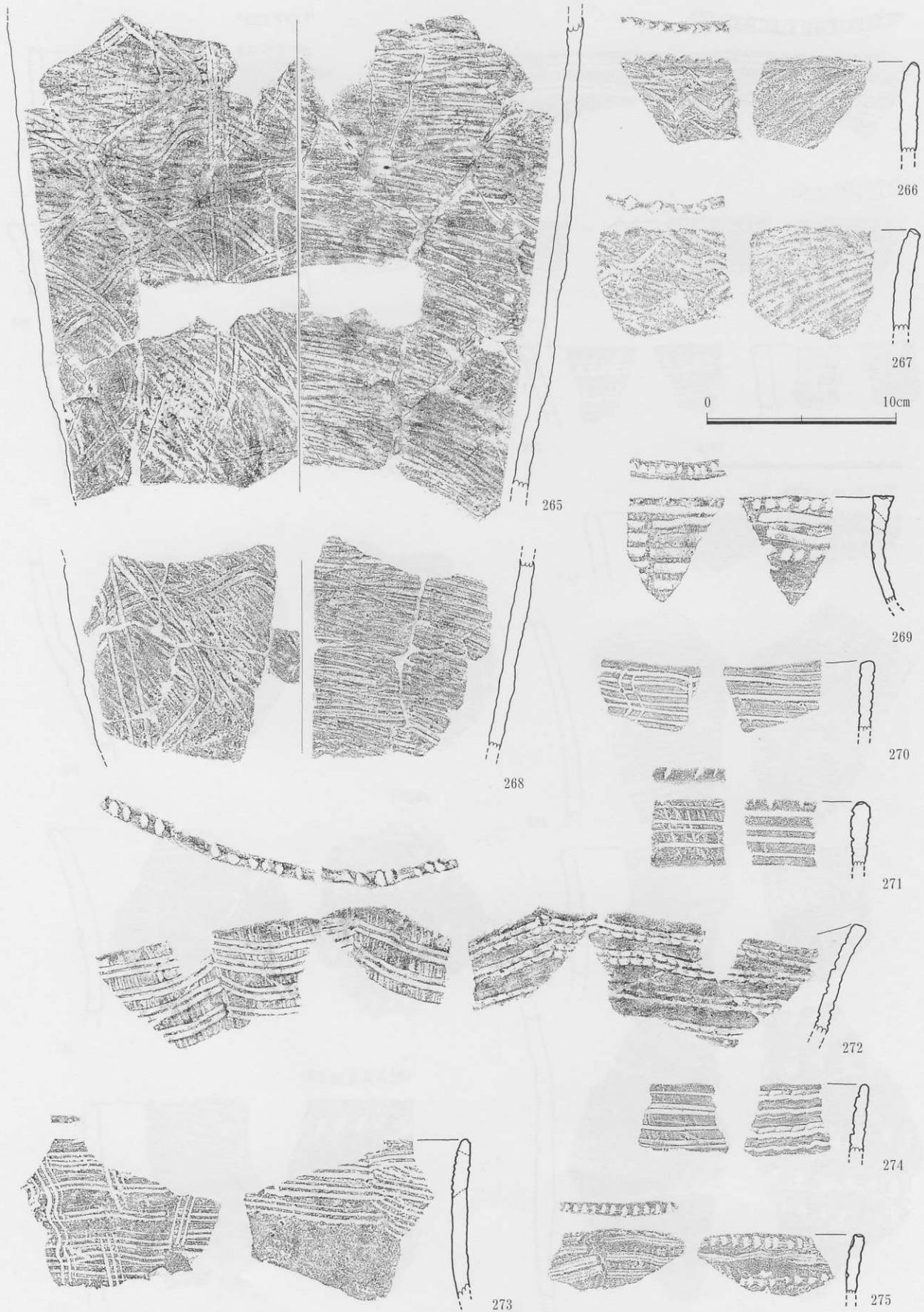
第41図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器4（1／3）



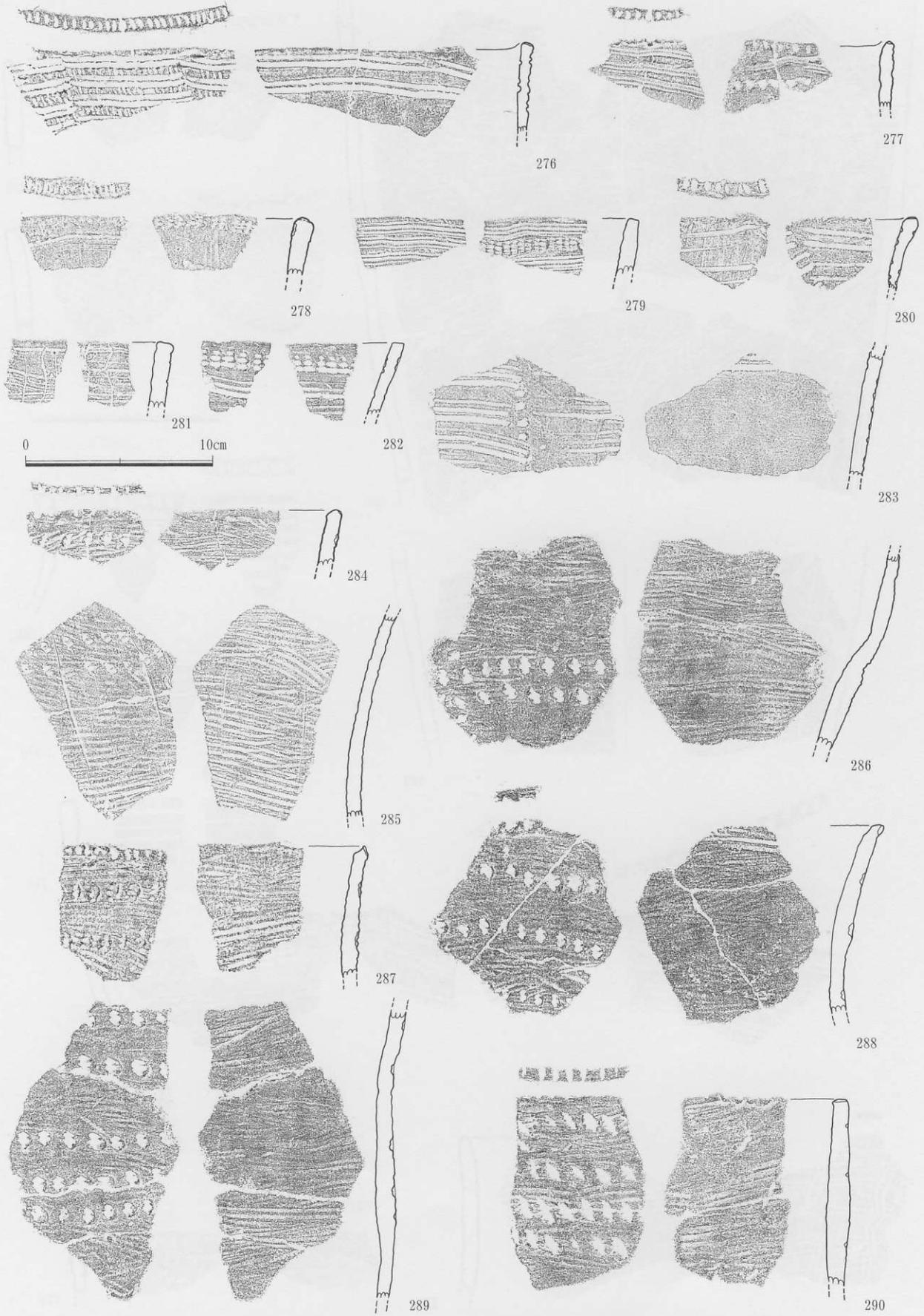
第42図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土縄文土器5 (1/3)



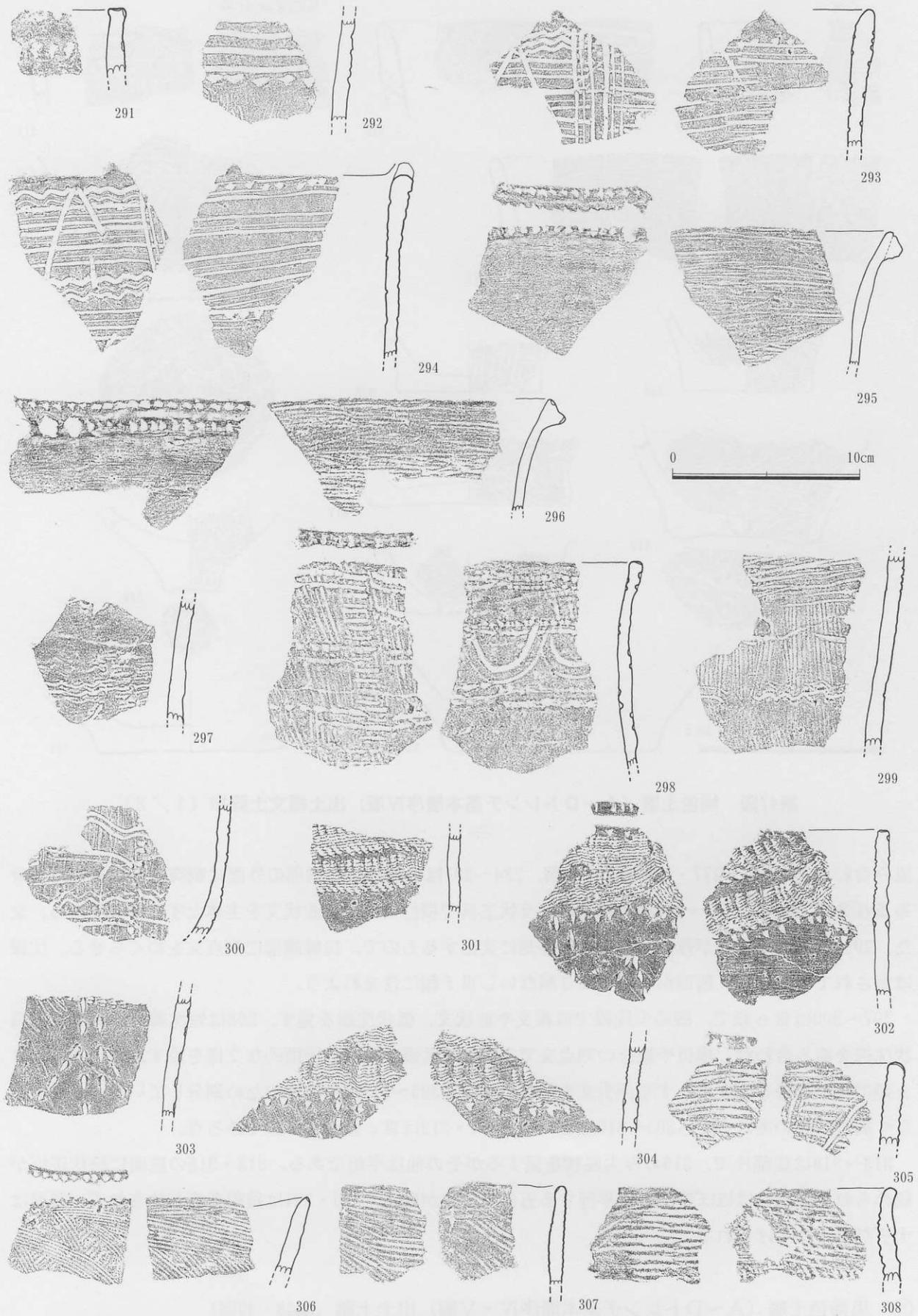
第43図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器6（1／3）



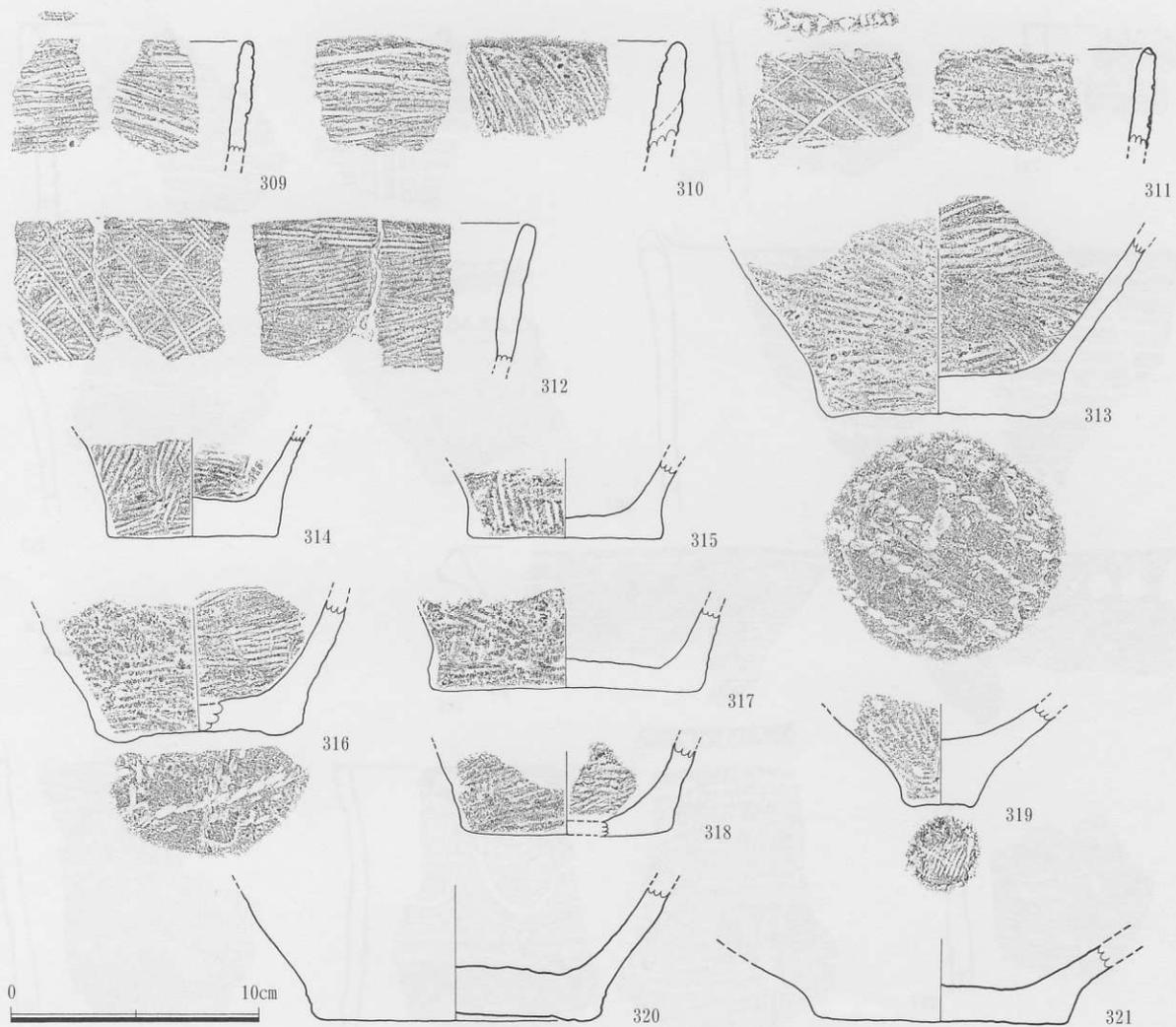
第44図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土縄文土器7 (1/3)



第45図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器8（1/3）



第46図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器9（1/3）



第47図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器10（1／3）

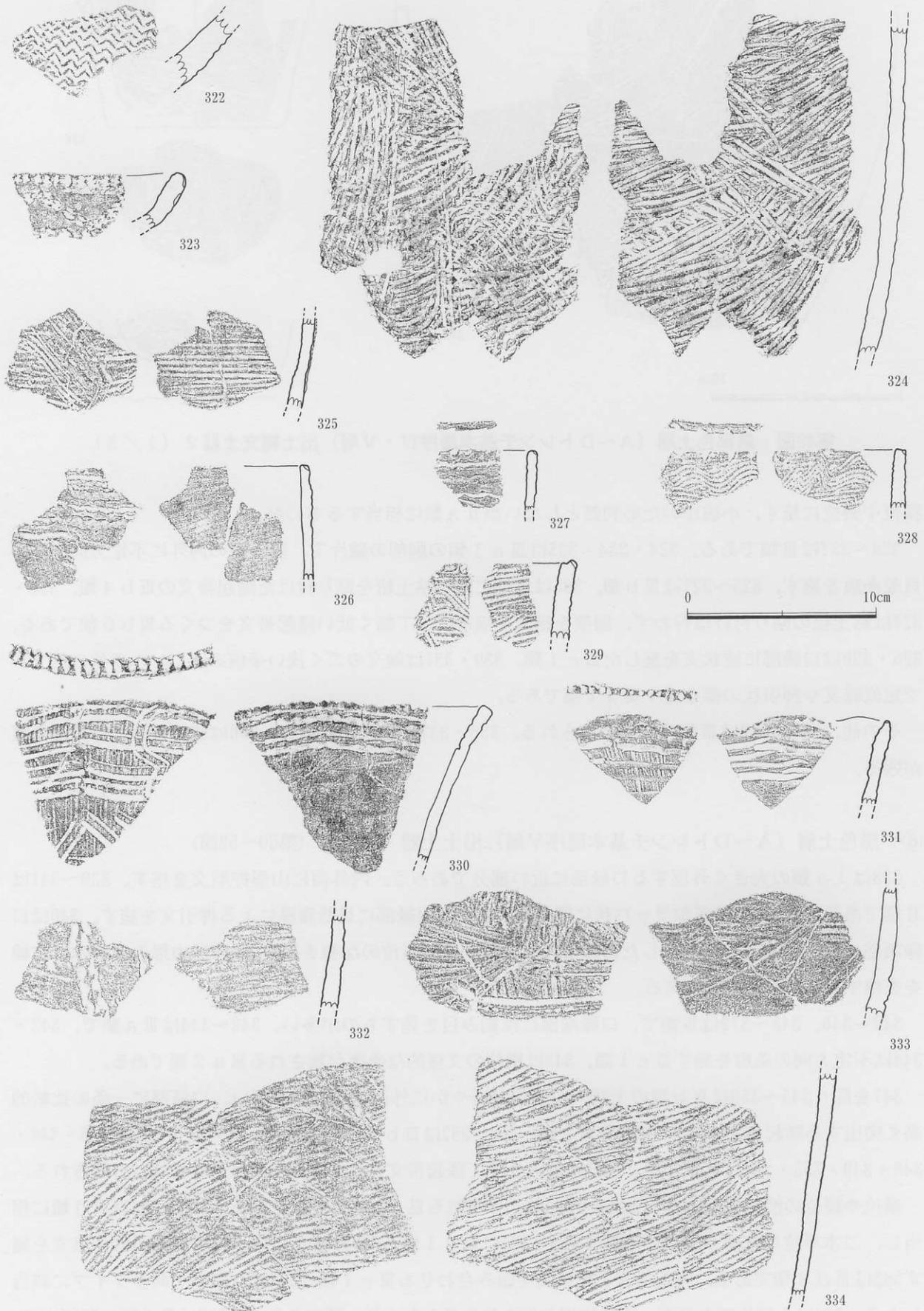
組み合わせる。275・277・278はⅢ d 2類、284～291は口縁部から胴部の外面に刺突文を数条めぐらせるⅢ d 3類である。292～294は内外面にヘラ状工具で横位の沈線と波状文を主体とするものである。また、295・296は口縁部が外反して端部が外側に突出するもので、口縁端部に列点文をめぐらせる。沈線は施されていないが、器形からみてⅢ d類ないしⅢ f類に含まれよう。

297～300はⅢ e類で、細めの沈線で直線文や波状文、弧状沈線を施す。298は短沈線及び刺突文、弧状沈線を組み合わせ、横位や縦位の列点文で文様帯を区画するなど規則的な文様を施す。301～304はⅢ g類で貝殻腹縁を施文具とする押引文を帯状に施す。305～312は小破片のため細分していないが、おそらく調整技法のあり方から305～310はⅢ a類、311・312はⅢ c類かⅢ d類であろう。

313～319は底部片で、319のみ尖底状を呈するがその他は平坦である。313・316の底面に紐状圧痕が認められ、前者にはほぼ等間隔に平行する五条の圧痕が残る。320・321は貝殻条痕が施されず、器壁はナデ調整で仕上げられる。

⑤ 黒褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV・V層）出土土器（第48・49図）

322は底部に近いⅠ a類の破片で、外面に山形押型文を施す。323は口縁部に貝殻腹縁の刺突列点文を



第48図 黒褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV・V層) 出土縄文土器1 (1/3)



第49図 黒褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV・V層）出土縄文土器2（1／3）

横位や斜位に施す。小破片のため判然としないがⅡ a類に相当するものか。

324～337はⅢ類である。324・334・335はⅢ a 1類の胴部の破片で、器表面の内外に不定方向の強い貝殻条痕を施す。325～327はⅢ b類。325は斜位に細い粘土紐を貼り付けた隆起帯文のⅢ b 4類、326・327は粘土紐の貼り付けは行わず、器壁を指先で摘み上げて細く低い隆起帯文をつくるⅢ b 6類である。328・329は口縁部に波状文を施したⅢ c 1類。330・331は地文のごく浅い条痕の上に、ヘラ状の施文具で短直線文や押引状の線を施すⅢ d 1類である。

その他、332・333はⅢ類の土器とみられる。336・337は底部片である。336は底部外面にも貝殻条痕が残る。

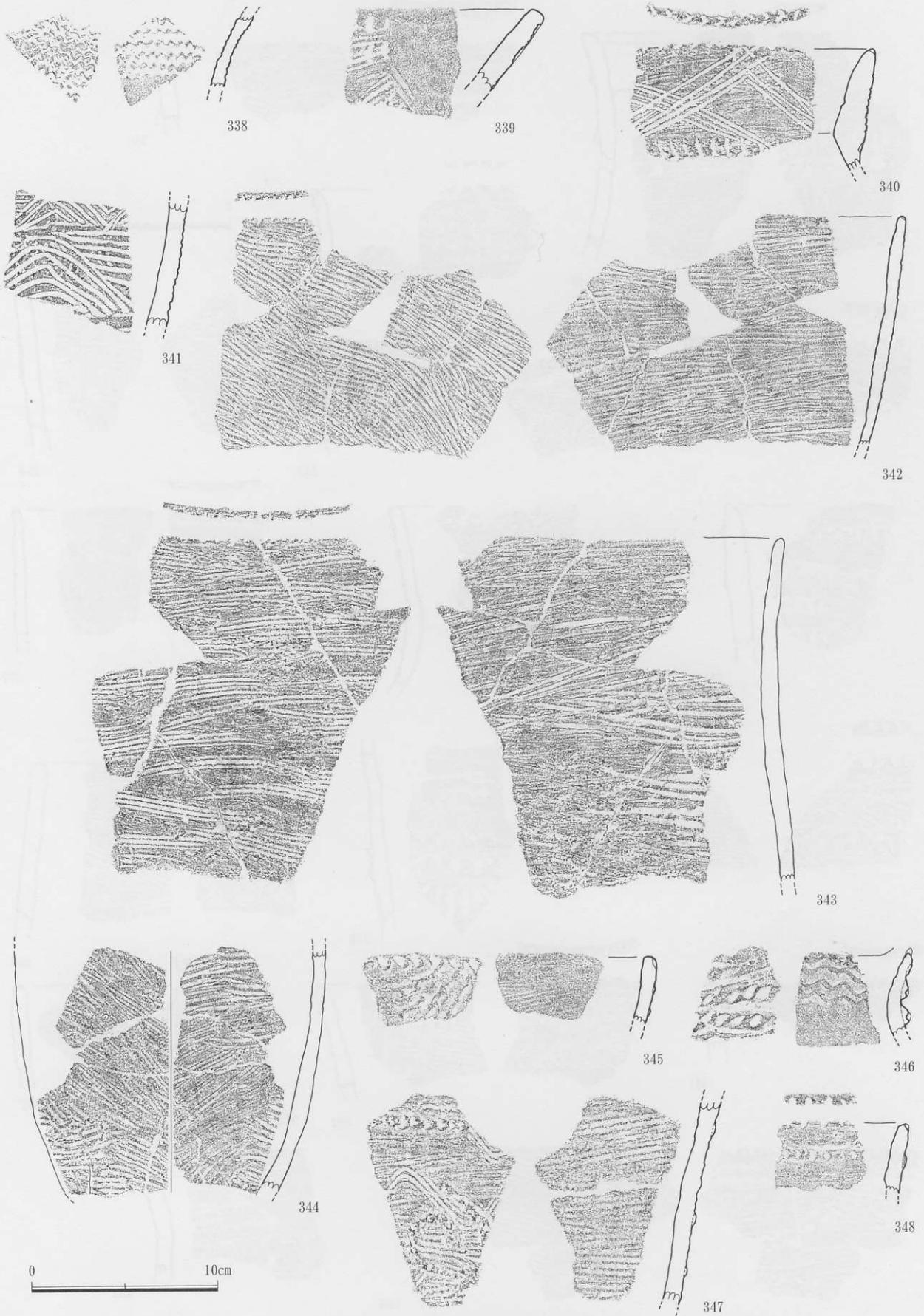
⑥ 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土土器・土製品（第50～52図）

338はⅠ a類の大きく外反する口縁部に近い部分であろう。内外面に山形押型文を施す。339～341はⅡ類であり、339は口縁部がラッパ状に開くⅡ b類で、口縁部に貝殻腹縁による押引文を施す。340は口縁端部に刻み目を有し、肥厚した口縁部にヘラ状工具で斜位の沈線を描く。341は山形の区画内に沈線を充填するⅡ類の胴部片である。

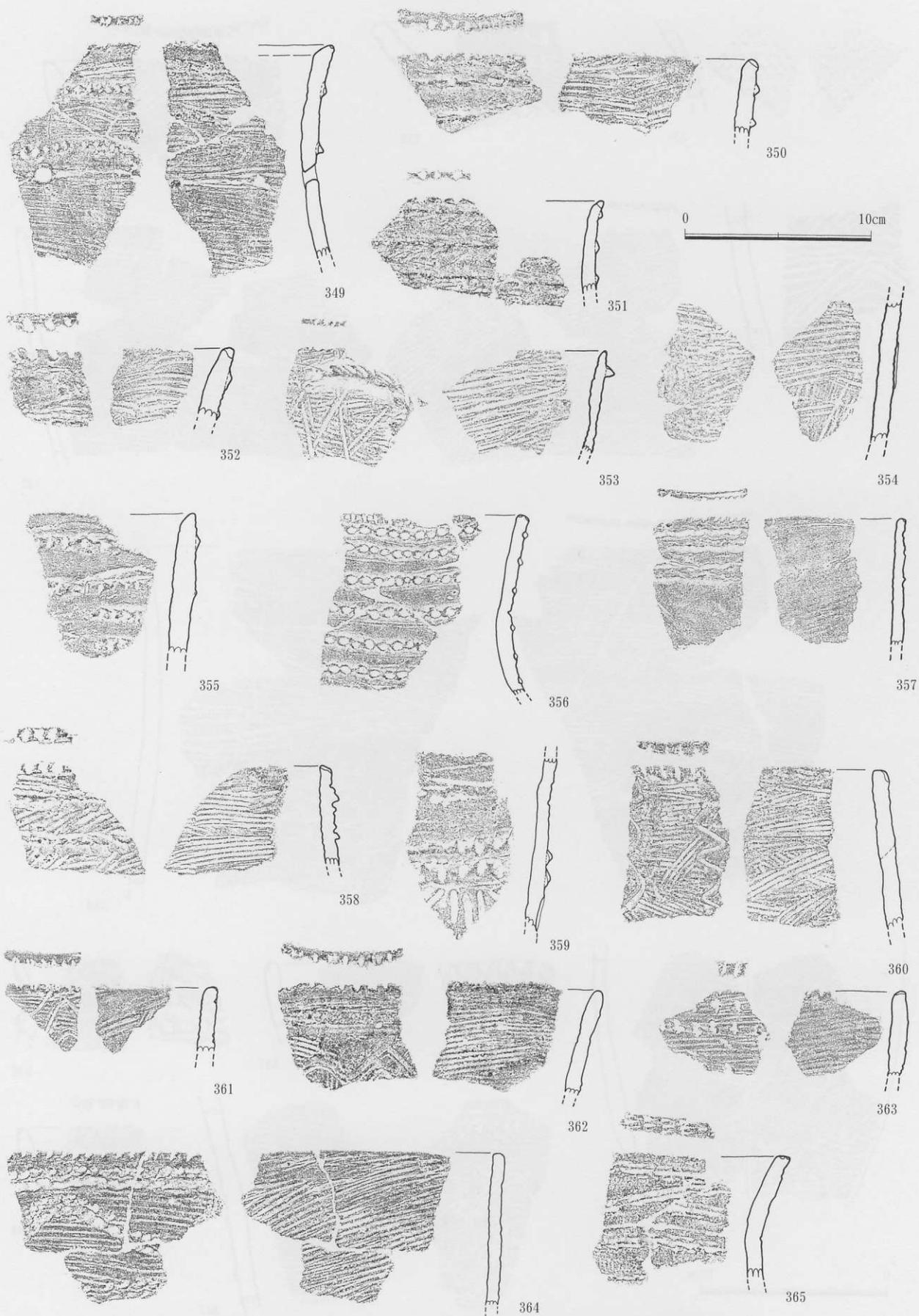
342～346、348～372はⅢ類で、口縁端部には刻み目を施すものが多い。342～344はⅢ a類で、342・344は不定方向の条痕を施すⅢ a 1類、343は横位の文様の条痕が施されるⅢ a 2類である。

347を除く345～359はⅢ b類の土器。口縁部が緩やかに外に開くものが多い。口縁部に一条の比較的高く突出する隆起帯文を施す353はⅢ b 2類、350～352はⅢ b 3類、隆起帯上に列点文を施す345・346・348・349・355・356はⅢ b 5類、器壁を摘み上げて隆起帯文を表す357・358はⅢ b 6類に分類される。

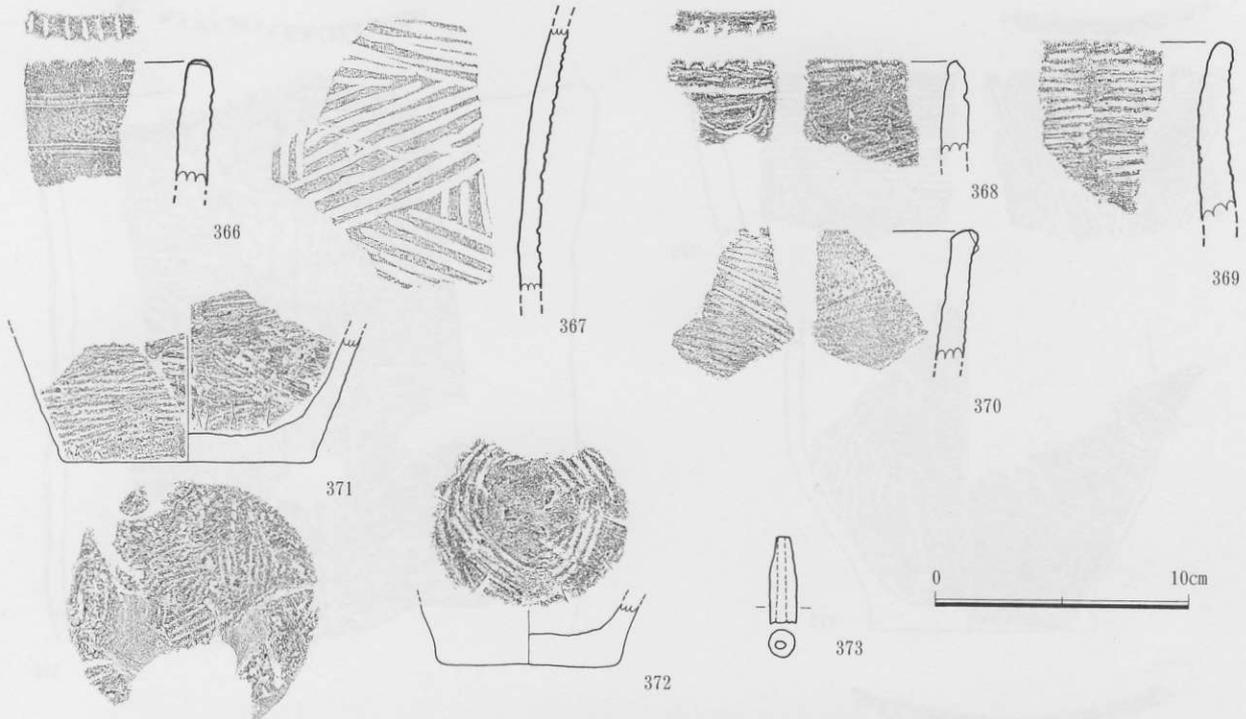
横位や縦位の波状文を施文する360～362は、いずれもⅢ c 1類に分類される。363～366はⅢ d類に相当し、二本単位の沈線や押引文を施す364・365はⅢ d 1類、366はⅢ d 2類、口縁部外面に列点文を施す363はⅢ d 3類である。隆起帯文と波状文を組み合わせるⅢ e 1類の347は、野口・阿多タイプに該当しよう。368は小破片であるが、弧状沈線がみられることからⅢ e類であろう。367はⅢ f類の胴部片で、外面に平行斜線文や縦横位の沈線を施す。



第50図 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土縄文土器1（1／3）



第51図 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土縄文土器2（1／3）



第52図 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土縄文土器・土製品（1／3）

371・372はⅢ類の底部片で、内外面に貝殻条痕が残る。373は細長の土錘で、端部は細くすぼまる。

⑦ 出土層位不明及び遺構埋土出土の土器（第53図）

A～Dトレンチで出土した縄文土器のうち、出土層位が不明であるが残存状態が比較的良好な土器について報告する。なお、380はAトレンチ8グリッドのピット埋土から出土したもののだが、本ピットの検出層位が不明であるため、本項で取り上げた。

374～379・381はⅢ類の土器で、口縁部には刻み目を施す。374は綾杉状の条痕を施すⅢ a 2類で、平底の375は内外面に不定方向の条痕を施すⅢ a 1類。376は丸底とみられる深鉢で、口縁は山形を呈し、縦位の隆起帯文を有するⅢ b 3類。377・378・381はⅢ d類で、377・381は口縁部に沈線を施すⅢ d 1類、378は幅広のへら状施文具で条痕状の沈線をめぐらせるⅢ d 2類である。379はⅢ類の底部片である。

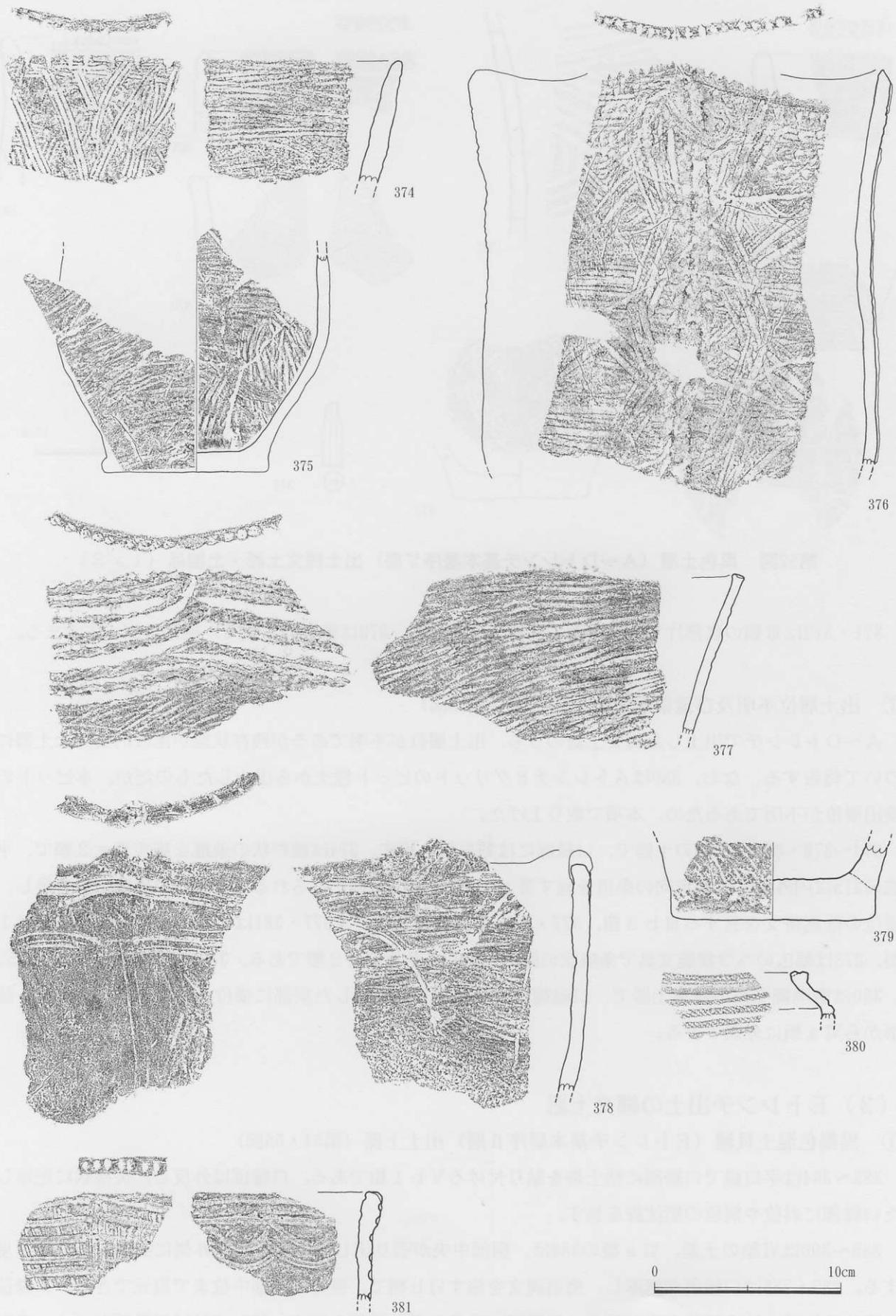
380は磨消縄文系の鉢形土器で、口縁端部が肥厚し、張り出した胴部に横位の沈線をめぐらせる。器形からⅥ a類に分類できる。

（3）Eトレンチ出土の縄文土器

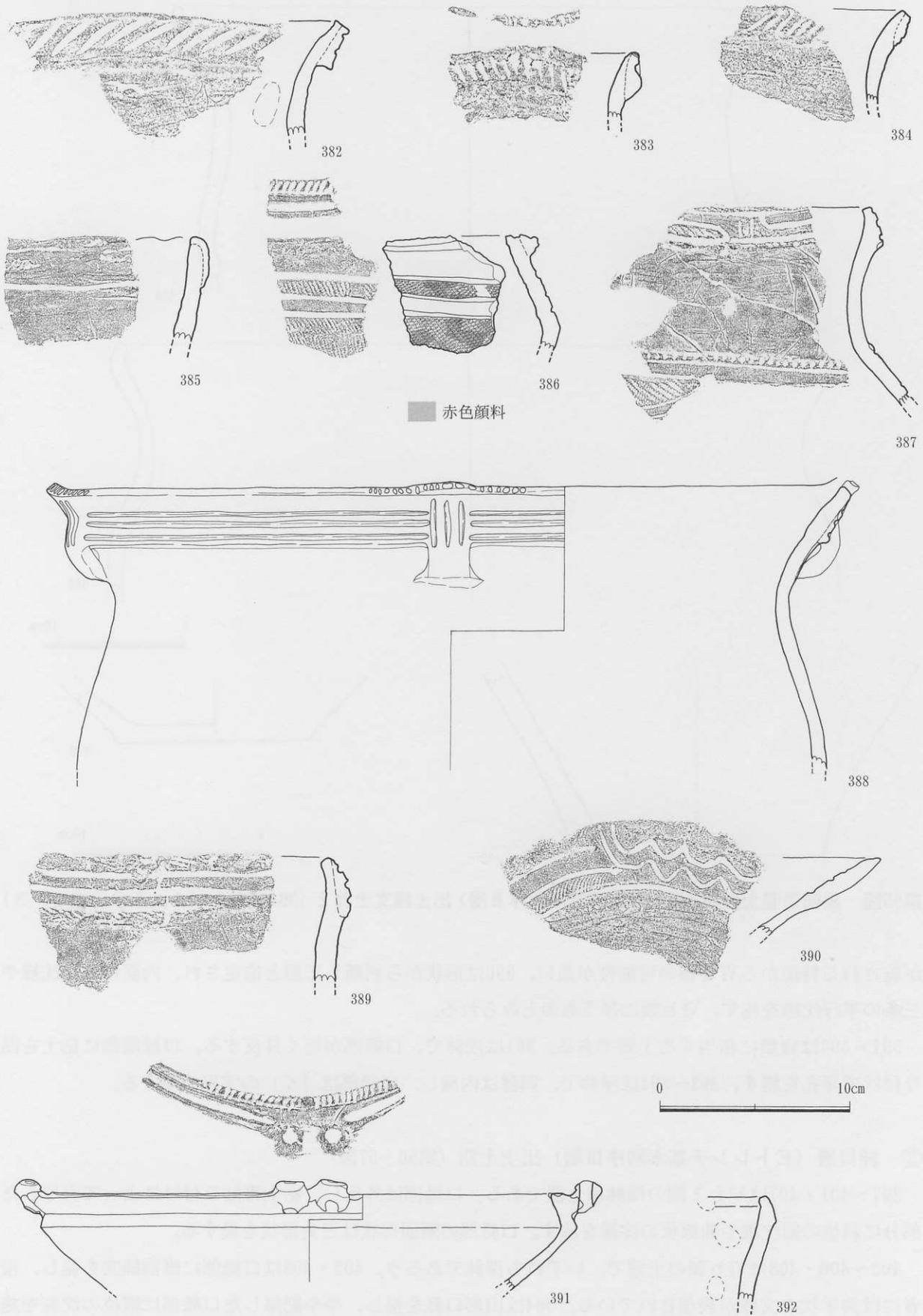
① 黒褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序Ⅱ層）出土土器（第54・55図）

382～384は平口縁で口縁部に粘土帯を貼り付けるⅤ b 1類である。口縁部は外反し、突帯状に肥厚した口縁部に斜位や縦位の短沈線を施す。

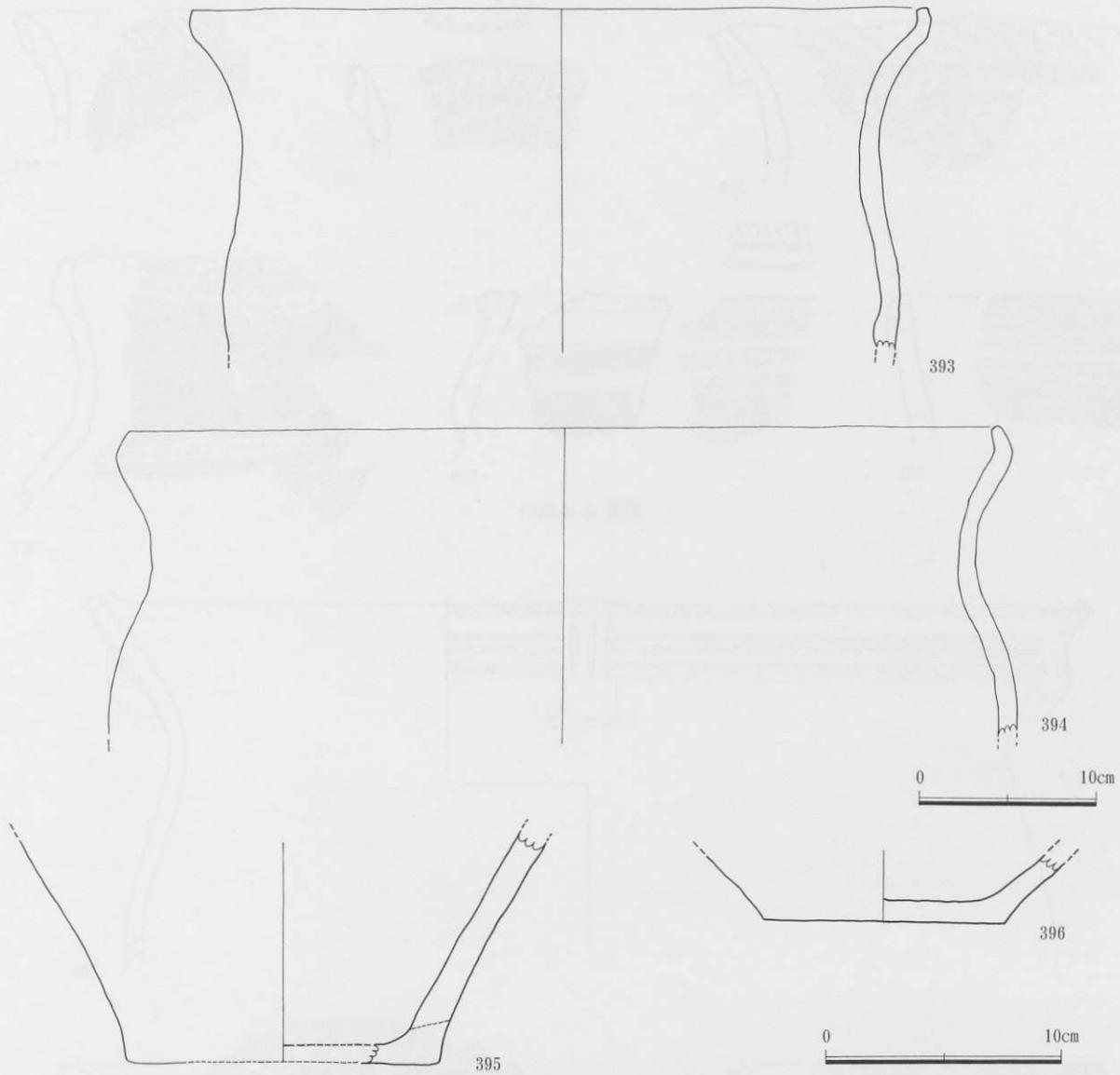
385～390はⅥ類の土器。Ⅵ a類の386は、胴部中央が張り出し、口縁端部が外側に突出する鉢形を呈する。385・388は口縁部が肥厚し、磨消縄文を施すⅥ b類で、後者は胴部中位まで復元できる。口縁部に縦位の沈線を施す橋状把手が付き、口縁部に三条の平行沈線を施す。387・389は口縁部が「く」の字状にやや内湾し、横位の沈線がめぐる。387は頸部と胴部の境に列点文が施され、胴部上位に磨消縄文



第53図 A～Dトレンチ出土層位不明及び遺構埋土出土縄文土器（1／3）



第54図 黒褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器 1（1／3）



第55図 黒褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序Ⅱ層）出土縄文土器2（394のみ1／4、その他は1／3）

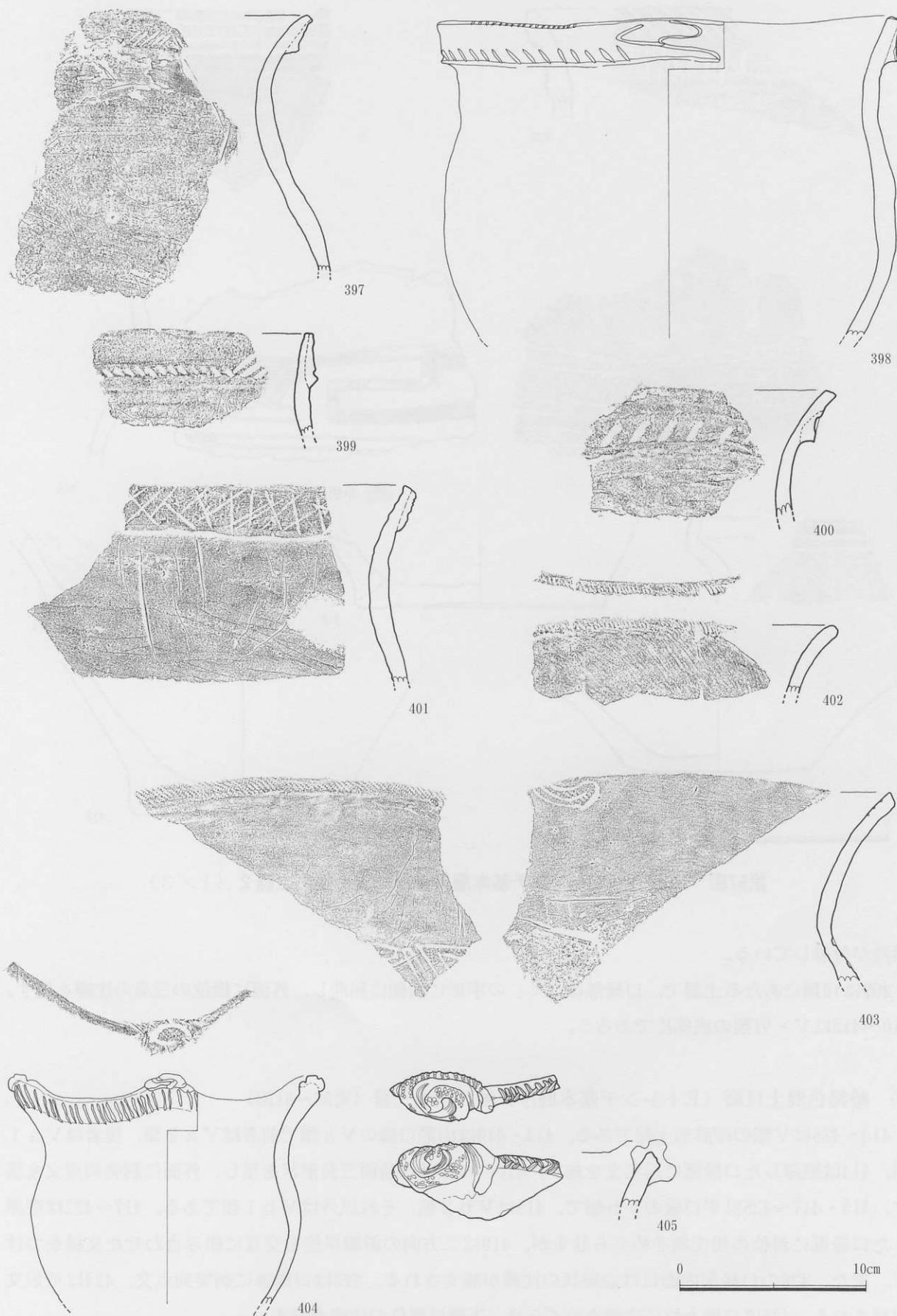
が施される特徴からVI d類の可能性が高い。390は形状から判断して皿と推定され、内面に波状沈線や三条の平行沈線を施す。VI b類に伴うものとみられる。

391～394はVII類に相当する土器である。391は浅鉢で、口縁部が短く外反する。口縁端部に粘土を貼り付けて穿孔を施す。392～394は深鉢で、頸部は内湾し、口縁部は「く」の字形を呈する。

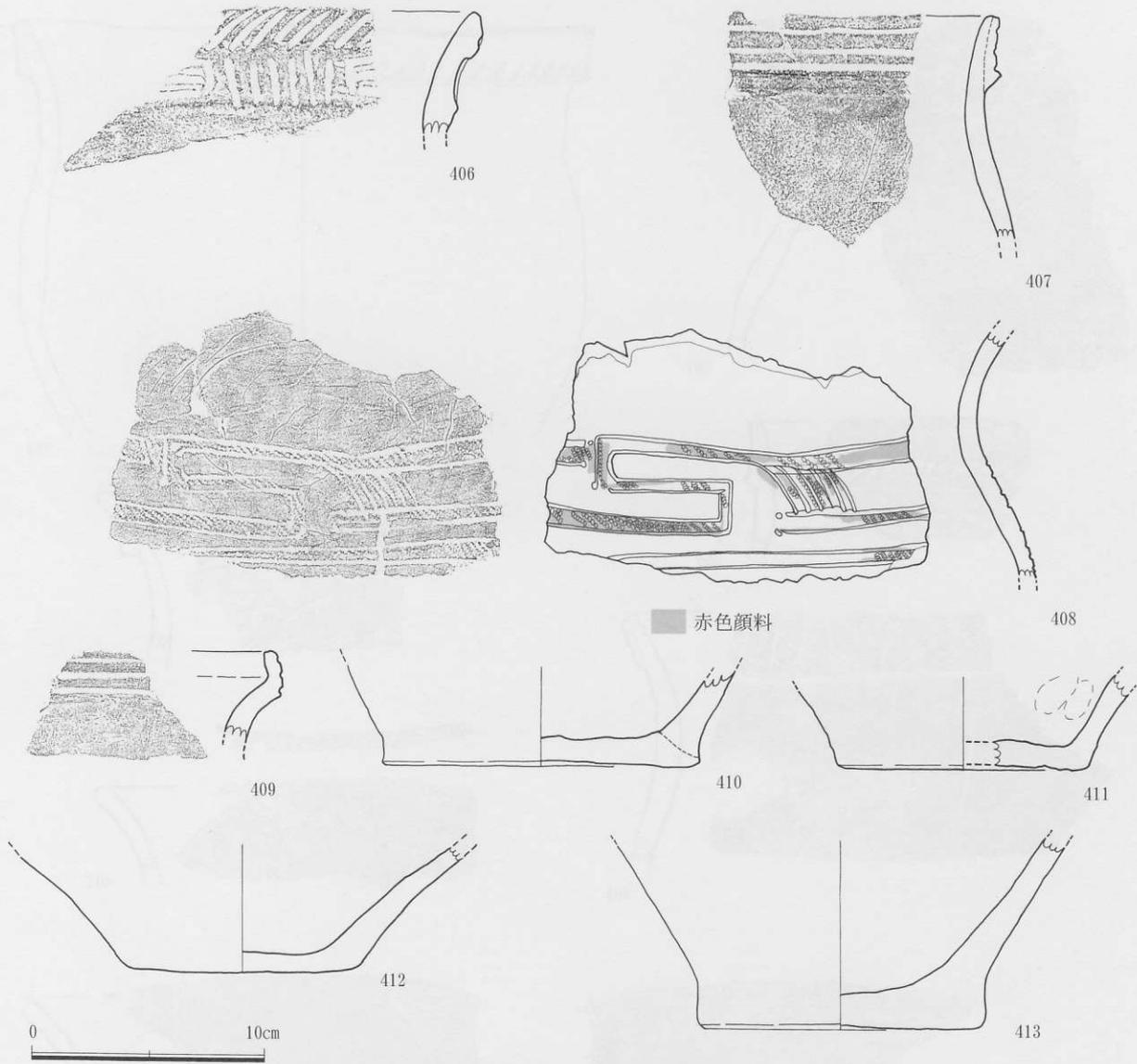
② 純貝層（Eトレンチ基本層序Ⅲ層）出土土器（第56・57図）

397～401・407はV b 1類の深鉢形土器である。口縁部は外反し、粘土帯貼り付けによって肥厚した部分に斜位の短沈線や曲線状の沈線を施す。口縁部の断面形状は三角形を呈する。

402～406・408はVI b類の土器で、いずれも深鉢であろう。402・403は口縁部に磨消縄文を施し、後者には鉤手状の文様が表現されている。404は山形口縁を呈し、やや肥厚した口縁部に縦位の沈線を施す。405は口縁部に渦巻状に粘土紐を貼り付ける。406は外反するやや肥厚した口縁部に斜位の短沈線を施す。408は頸部がしまり、張り出した胴部に二本単位の沈線及び磨消縄文を施す。また、外面に赤色



第56図 純貝層（Eトレンチ基本層序Ⅲ層）出土縄文土器 1（1／3）



第57図 純貝層（Eトレンチ基本層序Ⅲ層）出土縄文土器2（1／3）

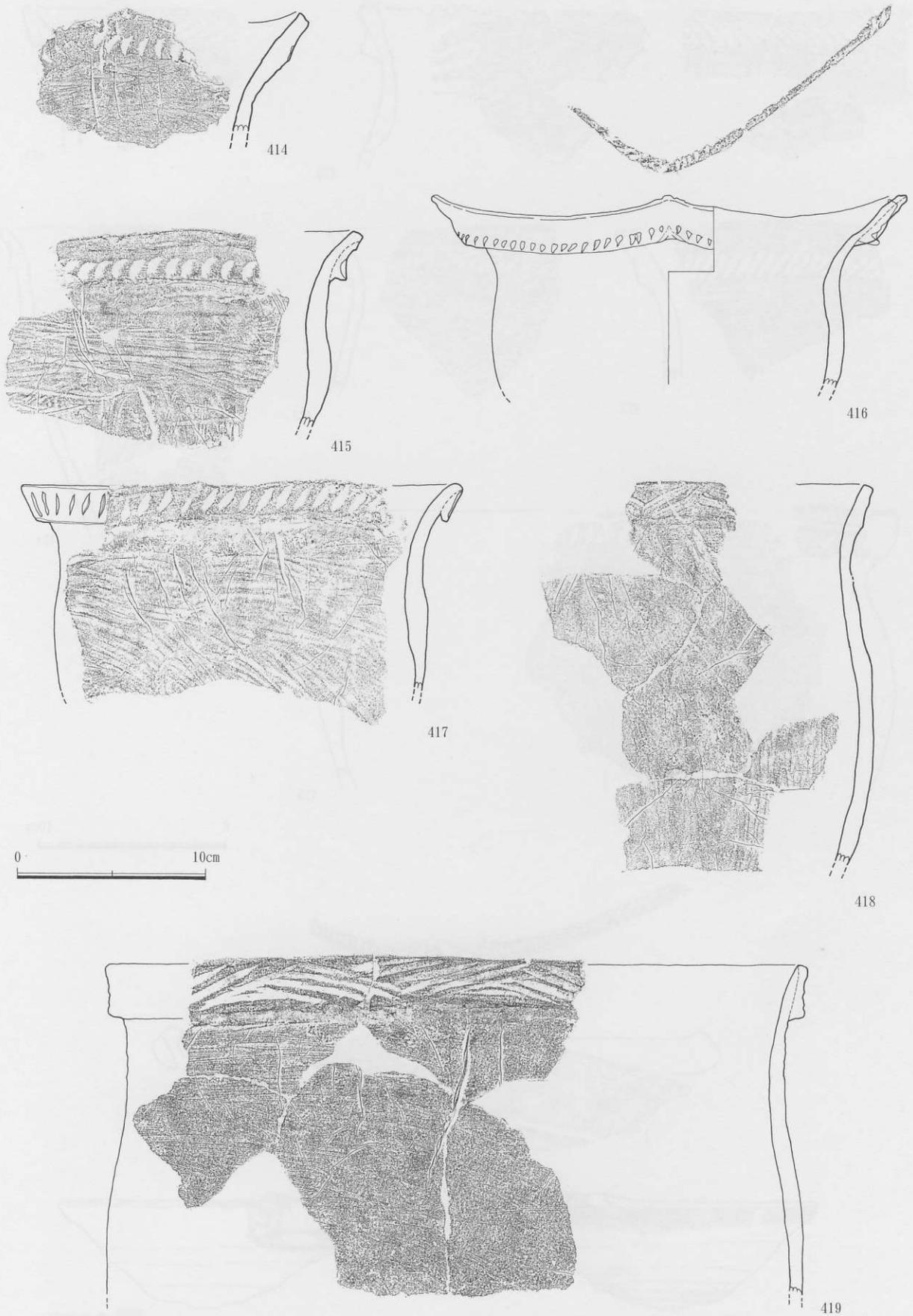
顔料が付着している。

409はⅦ類にあたる土器で、口縁部は「く」の字形に内側に屈曲し、外面に横位の三条の沈線を施す。410～413はⅤ・Ⅵ類の底部片であろう。

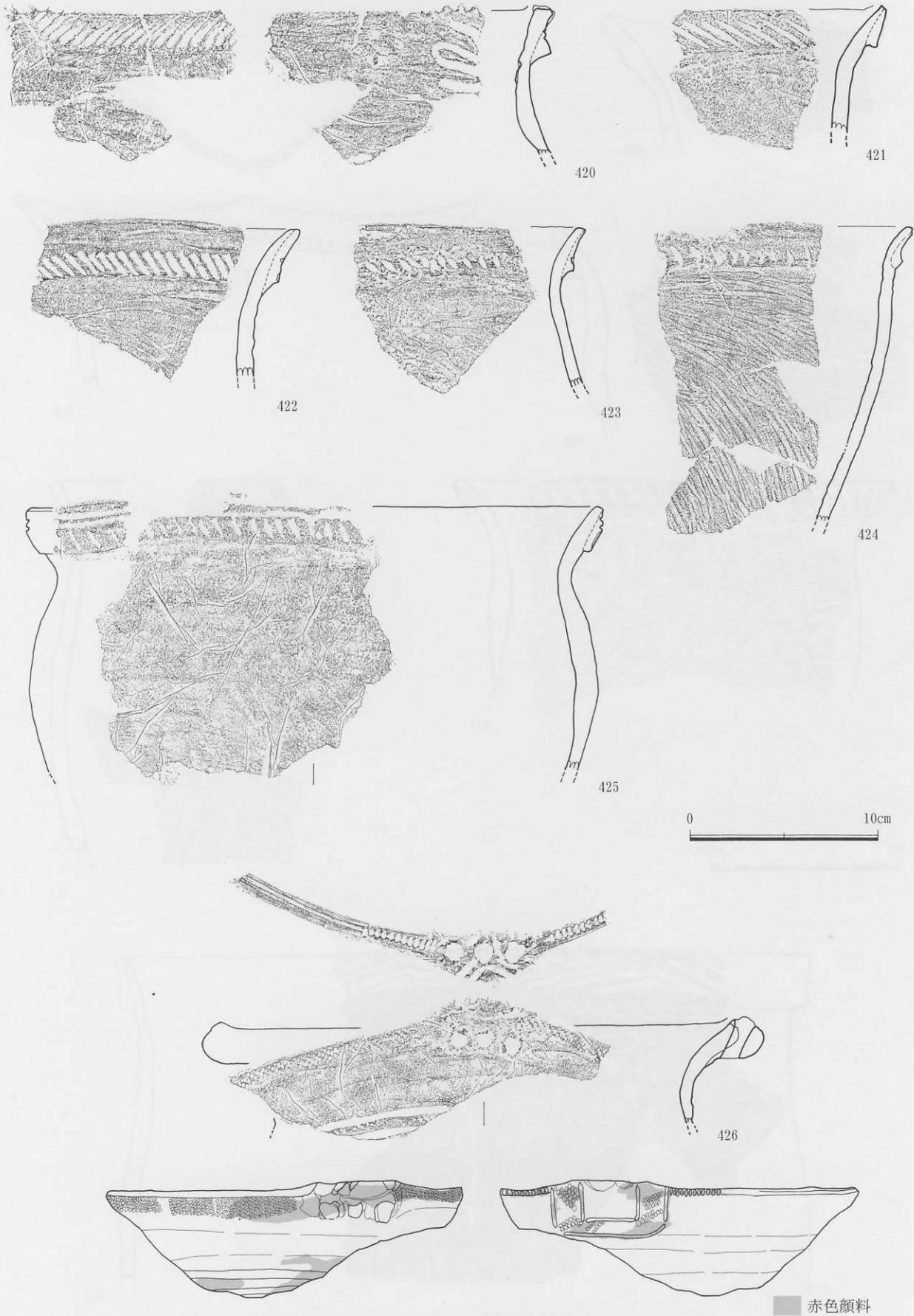
③ 暗褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序Ⅳ層）出土土器（第58～61図）

414～425はⅤ類の深鉢形土器である。414・416は山形口縁のⅤa類で前者はⅤa2類、後者はⅤa1類。414は肥厚した口縁部に爪形文を施す。416の口縁部は断面三角形状を呈し、外面に刺突列点文を施す。415・417～425は平口縁のⅤb類で、418はⅤb2類、それ以外はⅤb1類である。417～422は肥厚した口縁部に斜位の短沈線をめぐらせるが、419は二方向の斜線単位を交互に組み合わせた文様をつける。また、420の口縁部内面には曲線状の沈線が施文される。423は口縁部に刺突列点文、424は爪形文が施される。425は口縁上位に沈線をめぐらせ、下部に斜位の沈線を施す。

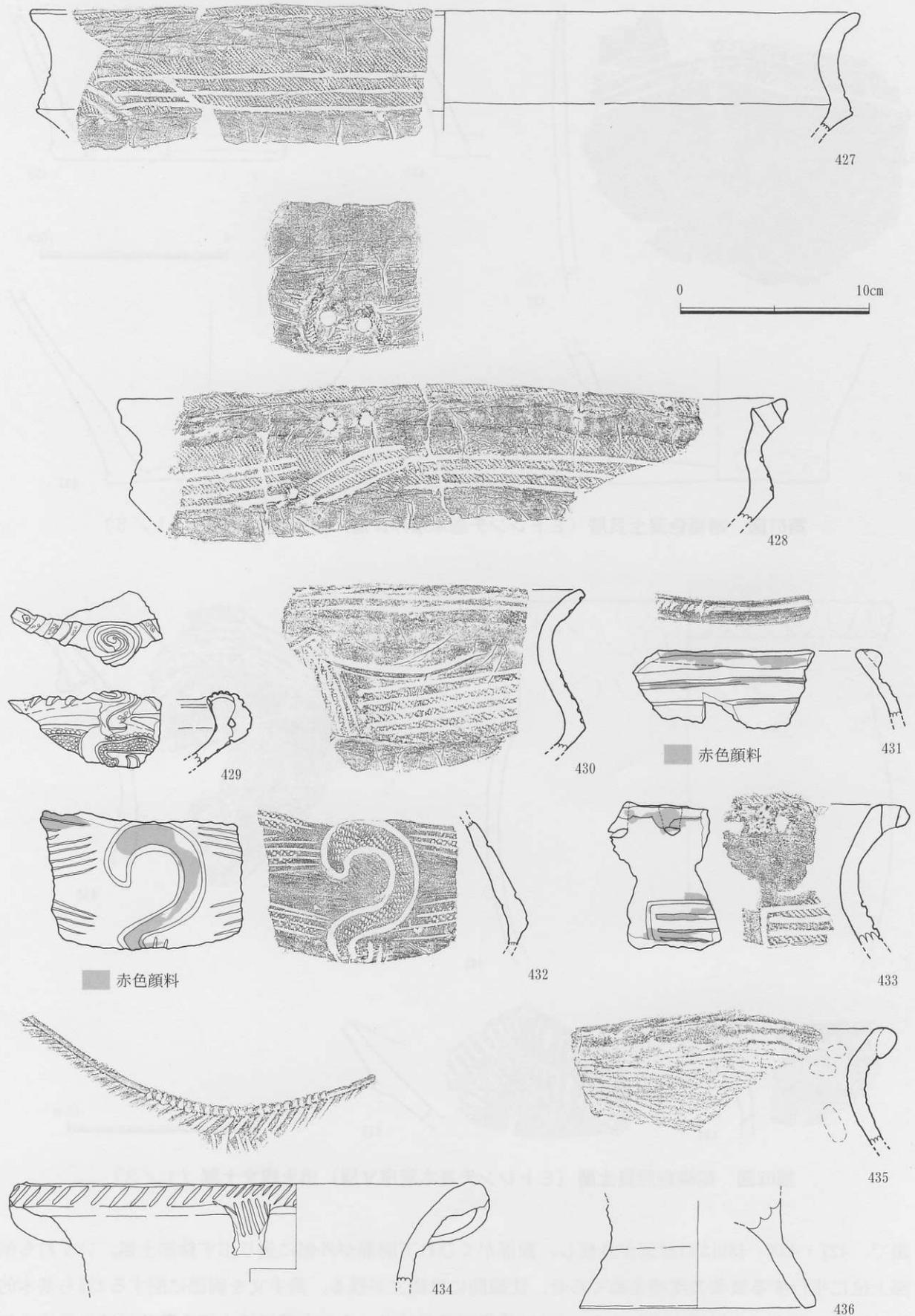
426～437はⅥ類の土器で、426～428、431～433は器表面に赤色顔料が付着している。427～432はⅥa



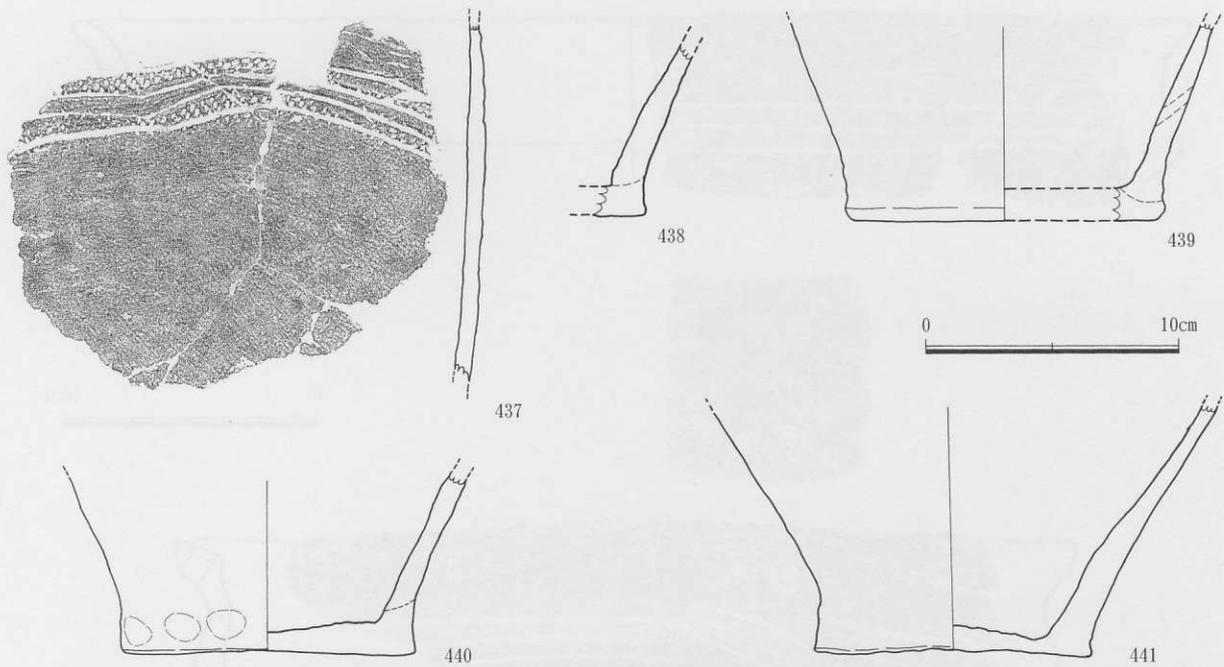
第58図 暗褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器 1（1／3）



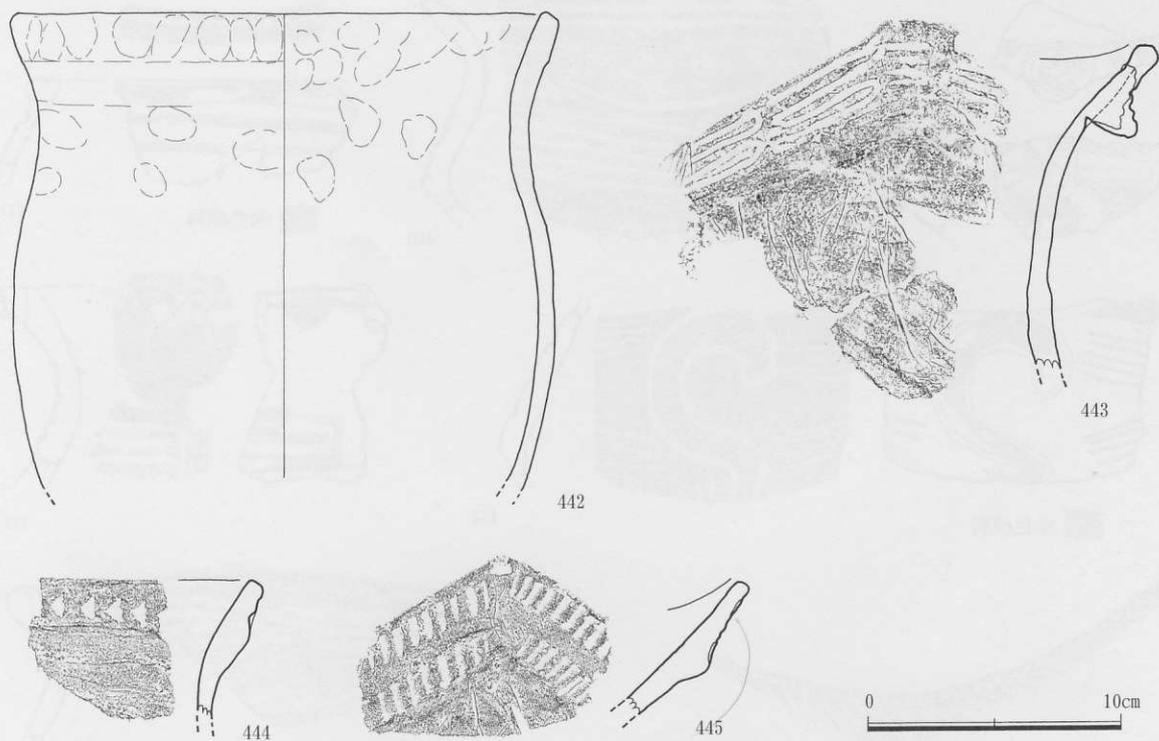
第59図 暗褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器2（1／3）



第60図 暗褐色泥土貝層（Eトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器3（1／3）

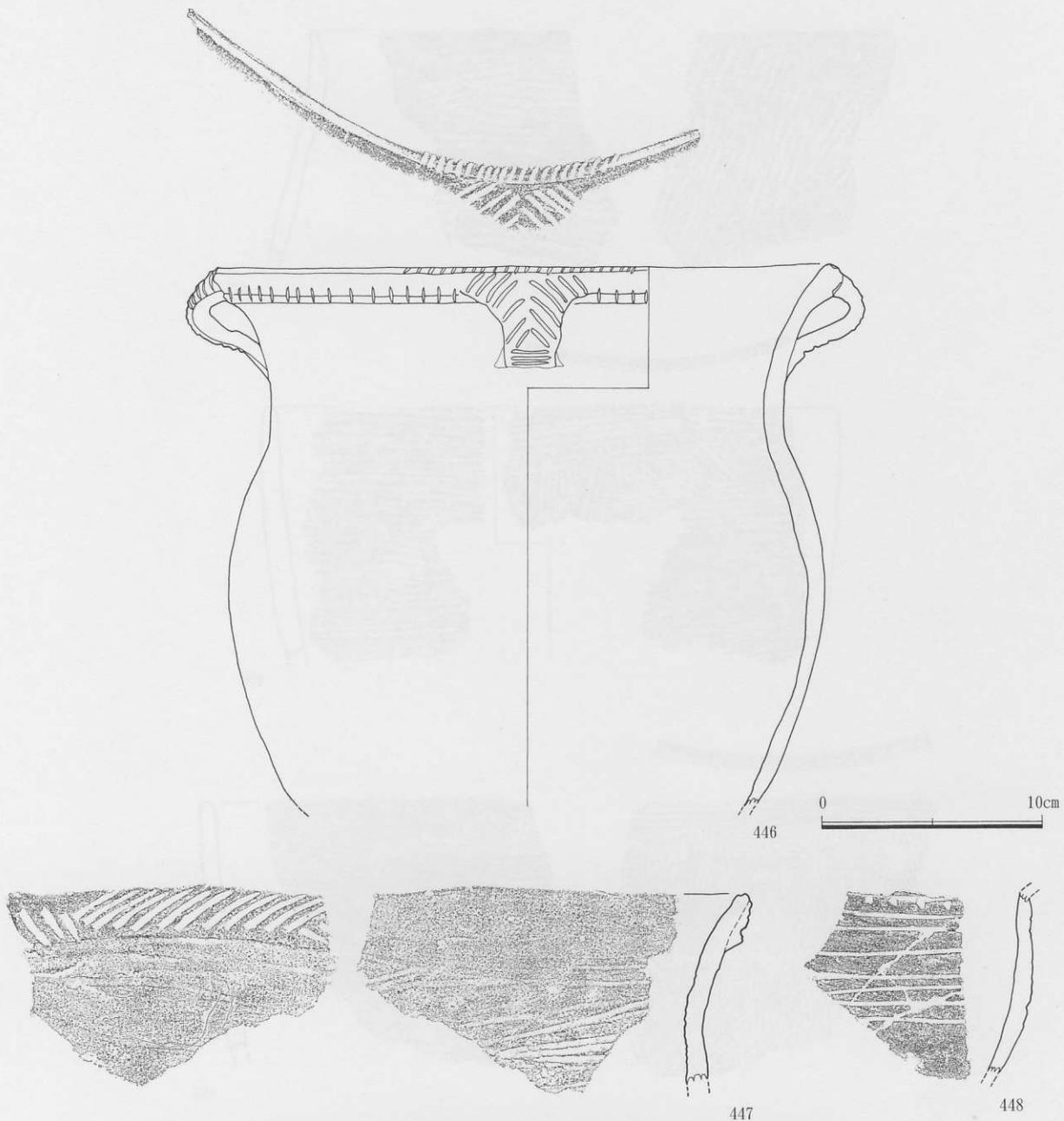


第61図 暗褐色混土貝層（Eトレンチ基本層序IV層）出土縄文土器 4（1／3）



第62図 暗褐色混貝土層（Eトレンチ基本層序V層）出土縄文土器（1／3）

類で、427・428・430は口縁部が外反し、頸部がくびれて胴部が外側に張り出す鉢形土器。いずれも胴部上位に平行する数条の沈線をめぐらせ、沈線間には縄文が残る。鉤手文を胴部に配する432も基本的には同様の器形・文様構成であろう。429は橋状把手が付き、その上部に粘土紐を貼り付け渦巻文を施す。



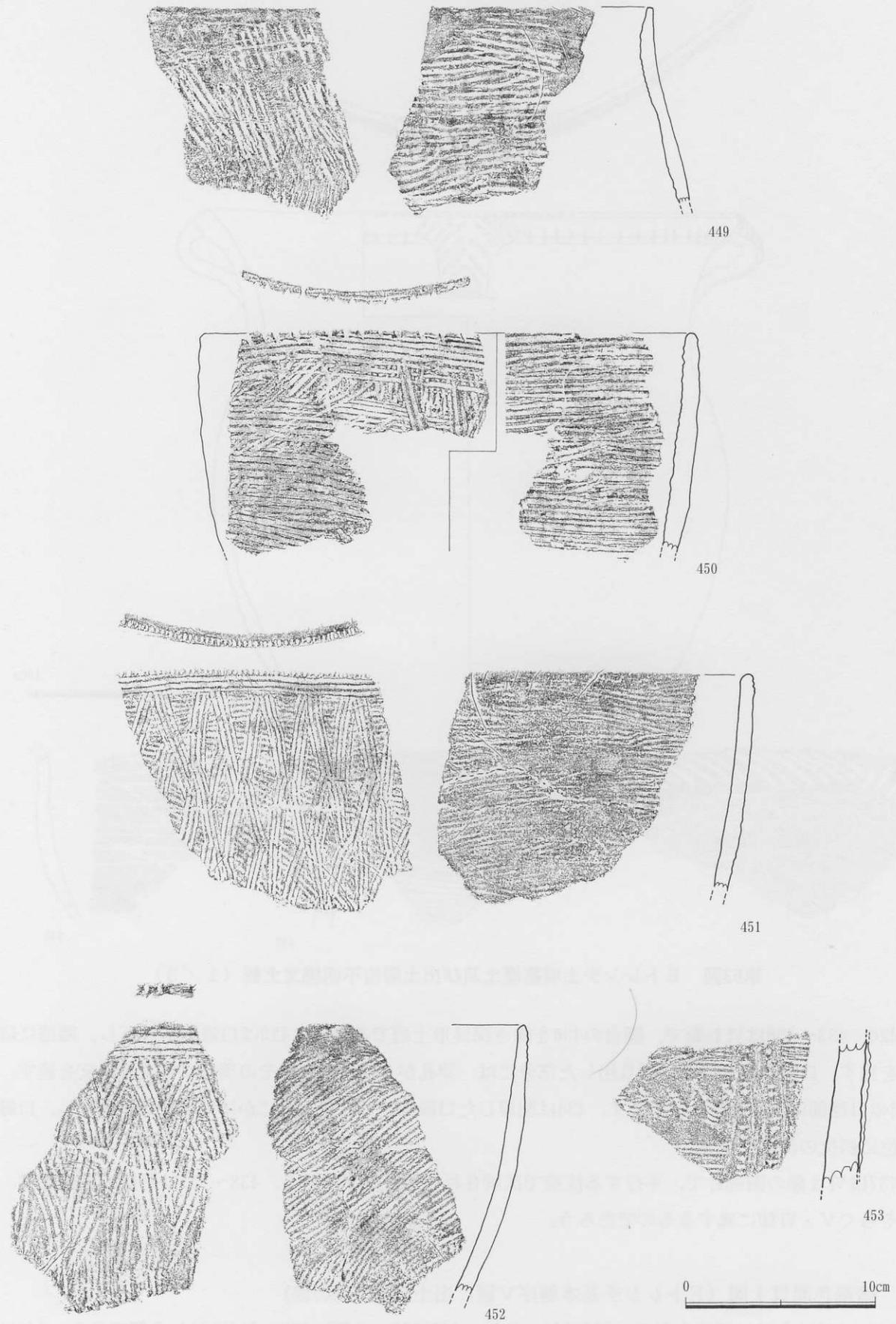
第63図 Eトレンチ土壌墓埋土及び出土層位不明縄文土器(1/3)

426、433～436はVI b類で、脚台の436を除き深鉢形土器であろう。426は口縁部が外反し、端部に縄文を施す。口縁端部が外側に張り出した部分には、穿孔が3ヶ所あり、その周辺に刺突列点文を施す。433の口縁部には穿孔を2ヶ所施す。434は肥厚した口縁部から口縁下部にかけて橋状把手を配し、口縁上位に斜位の沈線を施す。

437はVI d類の胴部片で、平行する沈線で区画された間に縄文が残る。438～441は平底の底部片で、おそらくV・VI類に属するものであろう。

④ 暗褐色混貝土層(Eトレンチ基本層序V層)出土土器(第62図)

442～445は全てV類の土器で、443はV a 1類、445はV a 2類、442・444はV b 2類である。442は肥厚する口縁部に文様はつけられておらず、指オサエの痕跡が残る。443の口縁部の肥厚部分は「く」



第64図 出土地点不明縄文土器 1 (1 / 3)

の字状を呈し、その外面に曲線状の沈線を施文する。444は肥厚した口縁部に刺突文、445は断面三角形状に肥厚した口縁部にヘラ状の施文具で上下二段にわたり押引文を施す。

⑤ その他の出土土器 (第63図)

446・447は8号土壙墓埋土より出土した深鉢形土器で、446はVI b類、447はV b 1類である。446は口唇部に沈線をめぐらせ、肥厚した口縁部下部に刻み目を付け、口縁部から頸部に橋状把手を配する。447は口縁部に粘土帯を貼り付け、ヘラ状工具で斜位の短沈線を施す。また、448はVI d類の胴部で、出土層位は不明である。

(4) 出土地点及び層位不明の縄文土器 (第64～66図)

449～457はⅢ類の深鉢形土器。不定方向の条痕を施すⅢ a 1類は449、Ⅲ a 2類は450～452である。449を除き、口縁端部に刻み目を施す。451・452は地文の貝殻条痕をナデ調整後、口縁部に横方向の条痕、それより下位は綾杉文状の条痕を施す。

453・454はⅢ b類、455・456はⅢ c 1類に該当する。453はⅢ b 5類の胴部片で、刻み目がある縦位の隆起帯文、454はⅢ b 3類で、緩やかに締まった頸部上位から口縁部にかけて、三条の隆起帯文をめぐらせる。455は地文の貝殻条痕上にヘラ状工具で波状文、456は二本単位の沈線で波状文を施文する。457は平底を呈するⅢ類の胴部から底部の破片で、器表面内外に貝殻条痕を施す。

458～460はIV類の土器で、461もその可能性がある。458はIV b 2類で、口縁部に横位の凹線文で文様帯を区画し、内部に渦巻状の文様を施文する。やや口縁部が肥厚する459はIV c 1類、口縁部が肥厚しない460はIV c 2類。459は口唇部に凹点をめぐらせ、口縁部の狭い文様帯に羽状の文様を施す。460は口縁部を横位の凹線文で区画し、連続する弧状の文様を施す。

462は鉢形土器のVI a類で、頸部下位から胴部にかけて、平行する数条の横位や斜位の沈線及び鉤手状文を施文する。463・464はVI d類で頸部から胴部に平行する沈線がめぐる。465は口縁部が「く」の字形に屈曲し、外面に二条の幅広の沈線がめぐるVII類の深鉢形土器である。

第3節 石器・石製品

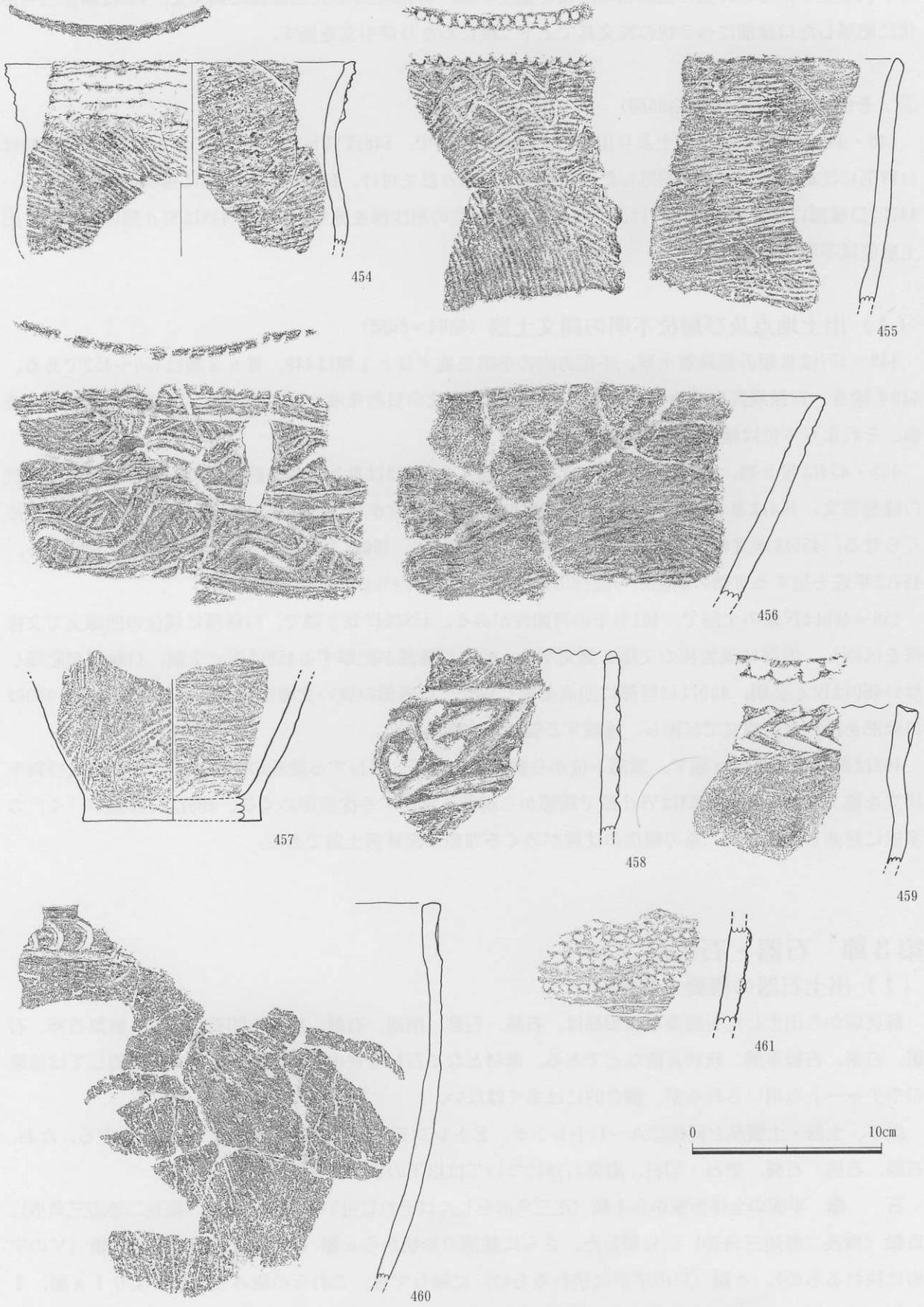
(1) 出土石器の概要と分類

轟貝塚から出土した石器及び石製品は、石鏃、石匙、削器、石錘、磨石・叩石、石皿、磨製石斧、石鋸、石笛、石製垂飾、珠状耳飾などである。素材となる石材は安山岩が最も多く、石鏃に関しては黒曜石やチャートも用いられるが、割合的には多くはない。

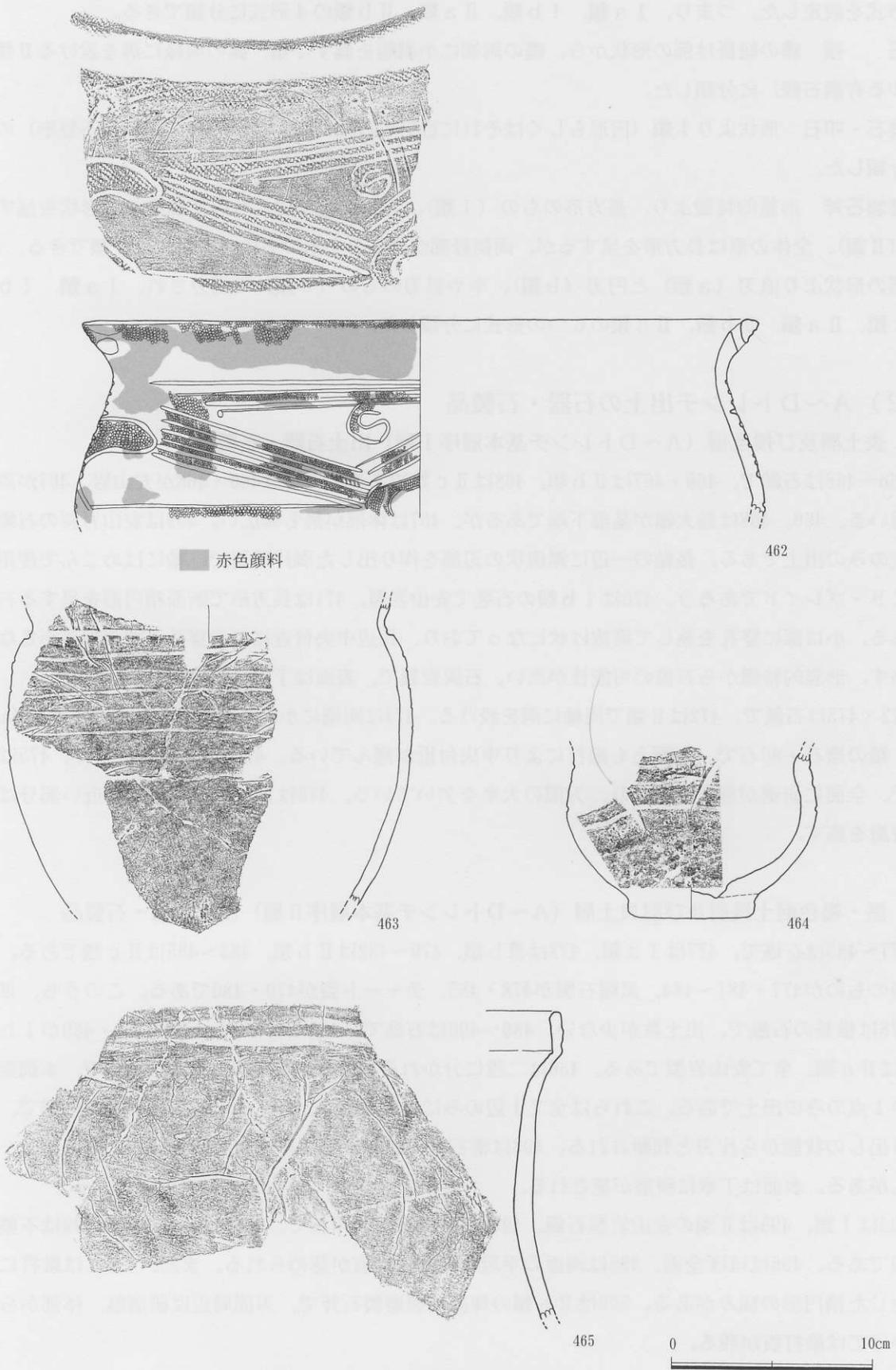
以下、土器・土製品と同様にA～Dトレンチ、Eトレンチに分けて、出土層位ごとに解説する。なお、石鏃、石匙、石錘、磨石・叩石、磨製石斧については以下のように分類した。

石 鏃 平面の全体形態からI類（正三角形もしくはそれに近いもの）とII類（縦長二等辺三角形）、III類（横長二等辺三角形）に分類した。さらに基部の形状からa類（浅く抉れるもの）、b類（Vの字形に抉れるもの）、c類（Uの字形に抉れるもの）に細分でき、これらの組み合わせによりI a類、I b類、I c類、II a類、II b類、II c類の6つの形式に分類した。

石 匙 平面の全体形態よりI類（横長）、II類（縦長）に分類でき、つまみ部の大小から、a類



第65図 出土地点不明縄文土器2 (1/3)



第66図 出土地点不明縄文土器 3 (1/3)

(比較的大きく作り出すもの)、b類(小さく作り出すもの)に細分できる。これらの組み合わせによって形式を設定した。つまり、I a類、I b類、II a類、II b類の4形式に分類できる。

石 錘 礫の紐掛け部の形状から、礫の両端に小剥離を施すI類、礫の周縁に溝を設けるII類(いわゆる有溝石錘)に分類した。

磨石・叩石 形状よりI類(円形もしくはそれに近いもの)、II類(楕円形)、III類(不整形)の3つに分類した。

磨製石斧 形態的特徴より、長方形のもの(I類)、刃部が頭部にくらべて幅広く台形状を呈するもの(II類)、全体の形は長方形を呈するが、両側縁部が膨らみをもつもの(III類)に分類できる。また、刃部の形状より直刃(a類)と円刃(b類)、やや斜刃のもの(c類)に細分され、I a類、I b類、I c類、II a類、II b類、II c類の6つの形式に分類した。

(2) A～Dトレンチ出土の石器・石製品

① 表土層及び攪乱層(A～Dトレンチ基本層序I層)出土石器・石製品

466～468は石鏃で、466・467はII b類、468はII c類である。石材は466・468が安山岩、467が黒曜石を用いる。466、468は最大幅が基部下端であるが、467は体部が最も幅広い。469は安山岩製の石鋸で、1点のみの出土である。長軸の一辺に鋸歯状の刃部を作り出した剥片石器で、軸にはめこんで使用したサイド・ブレードであろう。470はI b類の石匙で安山岩製。471は長方形で断面楕円形を呈する石製品である。小口部に穿孔を施して筒抜け状になっており、長辺中央付近にこの穿孔とつながる小さな穿孔を施す。形態的特徴から石笛の可能性が高い。石灰岩製で、表面は丁寧に研磨されている。

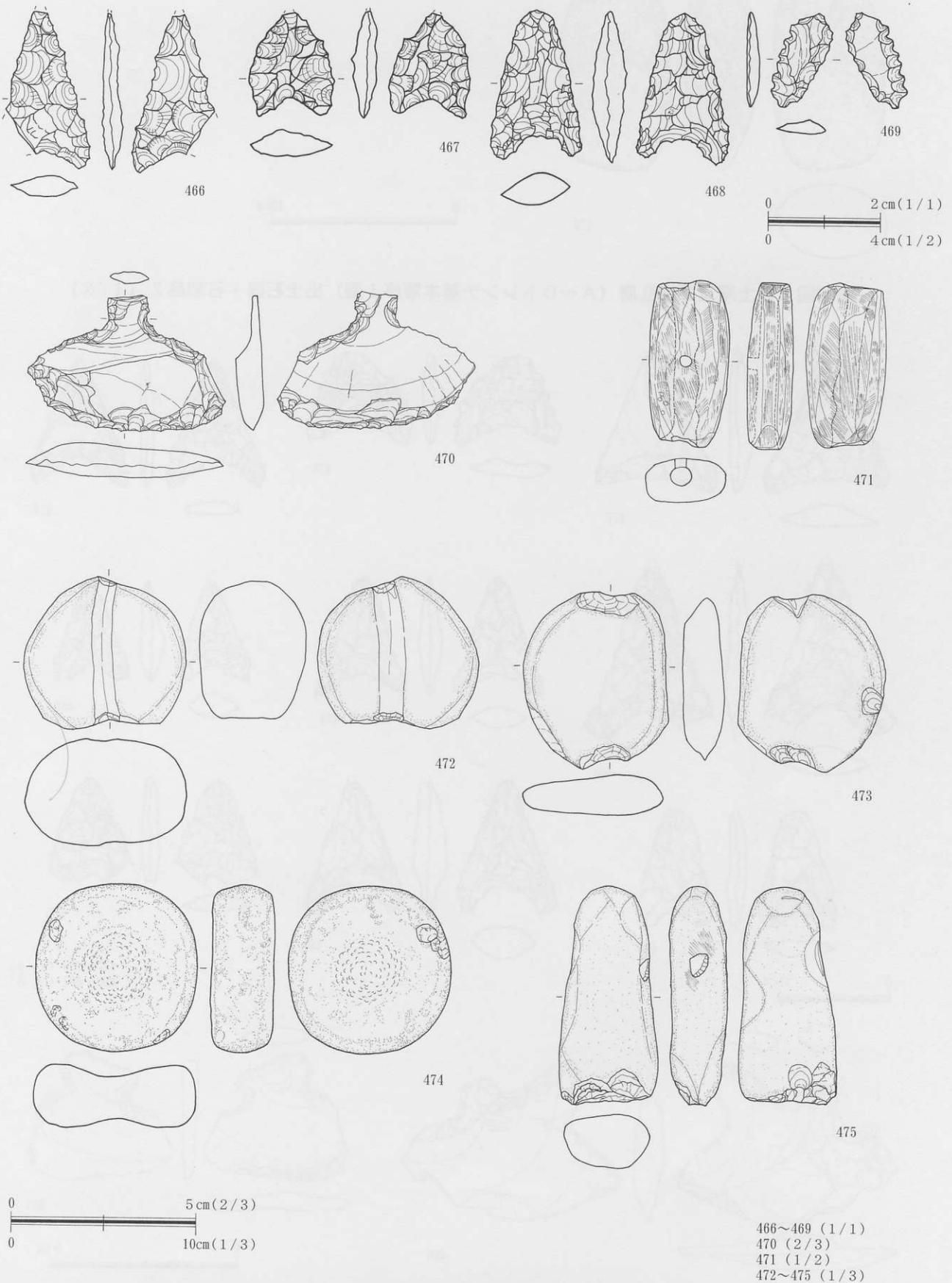
472・473は石錘で、472はII類で周縁に溝を設ける。473は両端に小剥離を施すI類の石錘である。474はI類の磨石・叩石で、両面とも敲打により中央付近が窪んでいる。475・476は磨製石斧。475はII a類で、全面に研磨が施されており、刃部の大半を欠いている。476はIII c類で、刃部に近い部分は丁寧に研磨を施す。

② 黒・褐色混土貝層及び混貝土層(A～Dトレンチ基本層序II層)出土石器・石製品

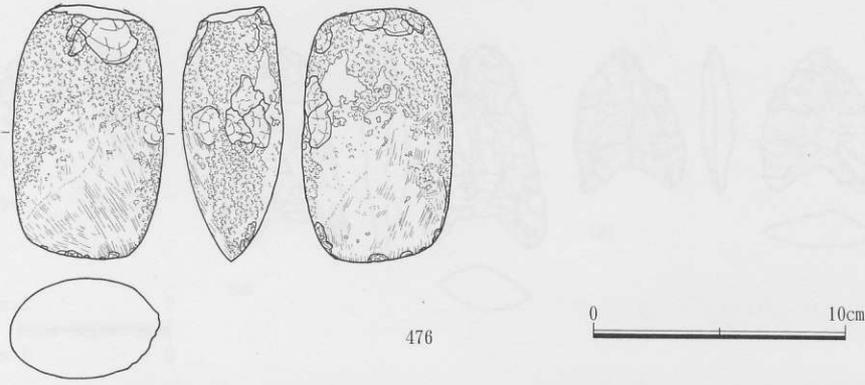
477～485は石鏃で、477はI a類、478はIII b類、479～482はII b類、483～485はII c類である。安山岩製のものが477・481～484、黒曜石製が478・485、チャート製が479・480である。このうち、III b類の478は横長の石鏃で、出土数が少ない。486～490は石匙で、486・487がI a類、488・489がI b類、490はII a類。全て安山岩製である。486は二股に分かれる大きなつまみ部を有するもので、本調査ではこの1点のみの出土である。これらは全て1辺のみに刃部をもつ。491・492は安山岩製の削器で、刃部作り出しの状態から片刃と判断される。493は滑石製垂飾で、平面形は楕円形を呈し、端部の1ヶ所に穿孔がある。表面は丁寧に研磨が施される。

494はI類、495はII類の安山岩製石錘。496～499は磨石・叩石で、496～498はI類、499は不整形のIII類である。496はほぼ全面、498は両面の平坦な部分に磨痕が認められる。また、499には敲打によって生じた楕円形の窪みがある。500はII a類の輝緑岩製磨製石斧で、刃部周辺は研磨痕、体部から頭部にかけては敲打痕が残る。

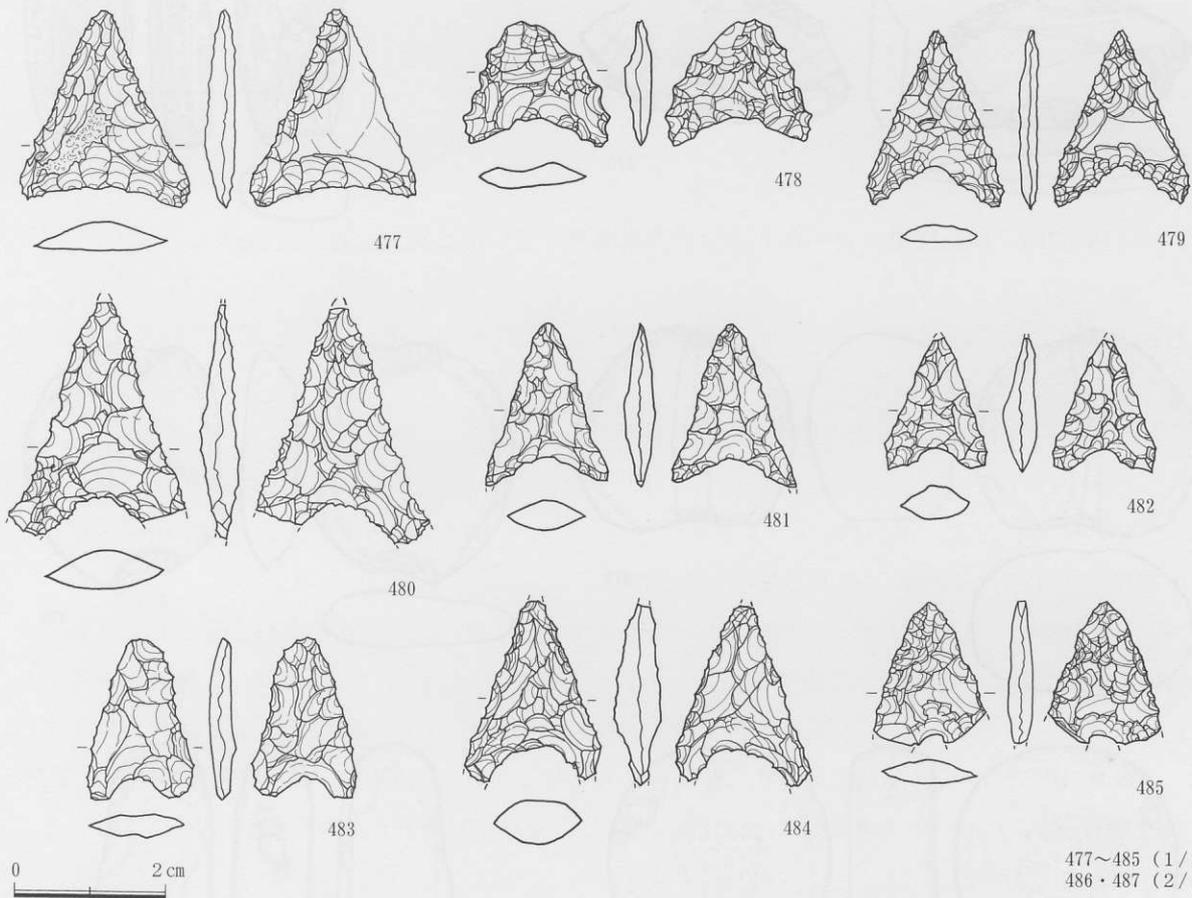
③ 純貝層(A～Dトレンチ基本層序III層)出土石器・石製品



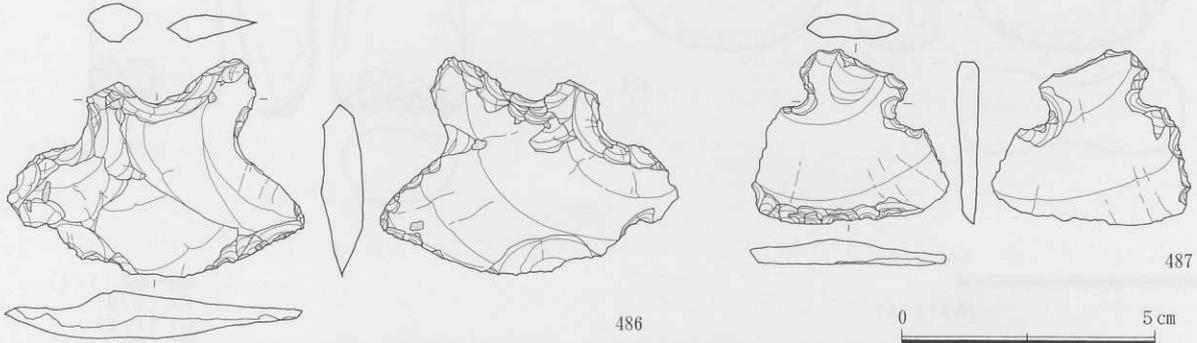
第67図 表土層及び攪乱層(A~Dトレンチ基本層序I層)出土石器・石製品 1 (1/1、2/3、1/2、1/3)



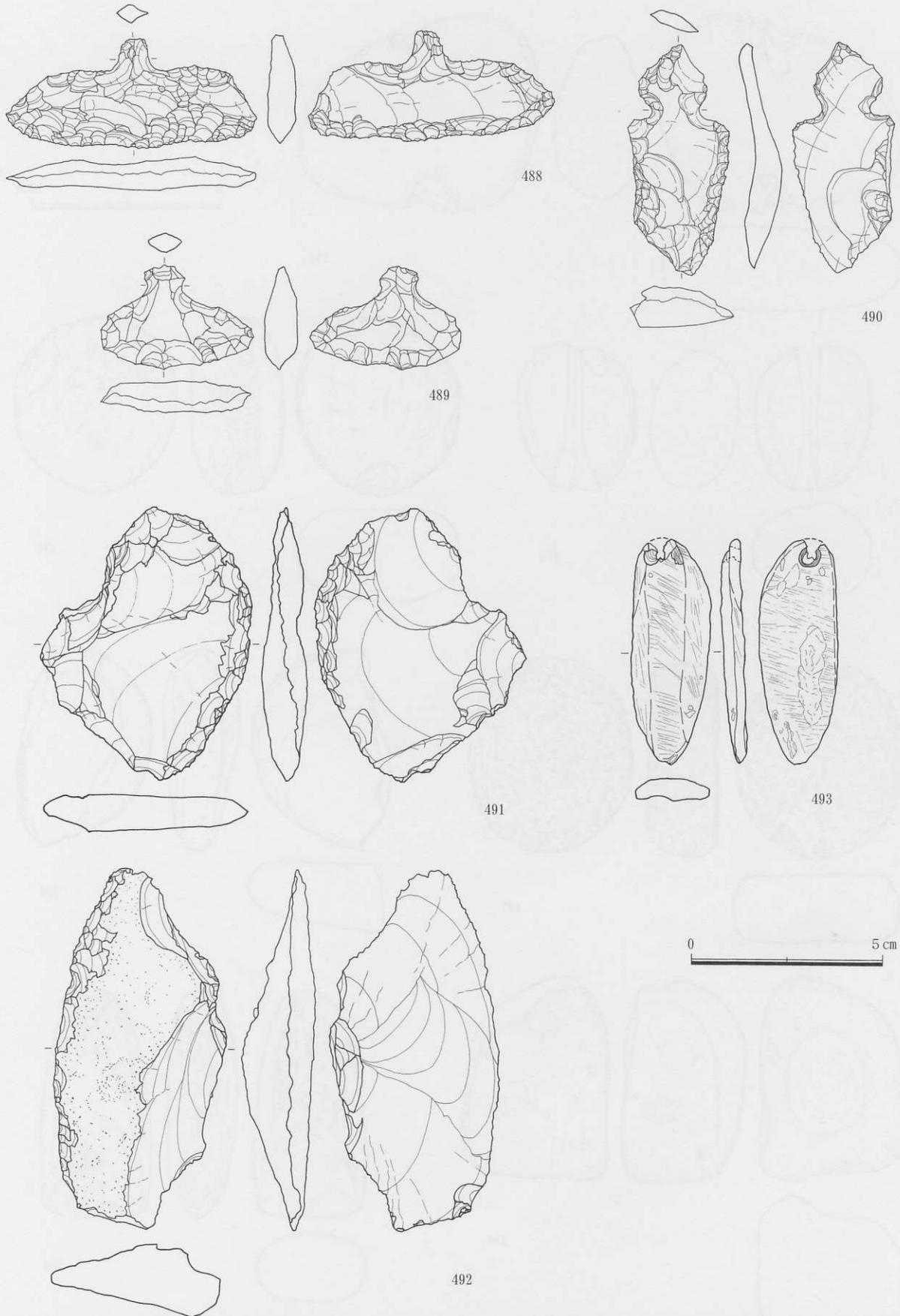
第68図 表土層及び攪乱層（A～Dトレンチ基本層序Ⅰ層）出土石器・石製品 2（1/3）



477～485 (1/1)
486・487 (2/3)



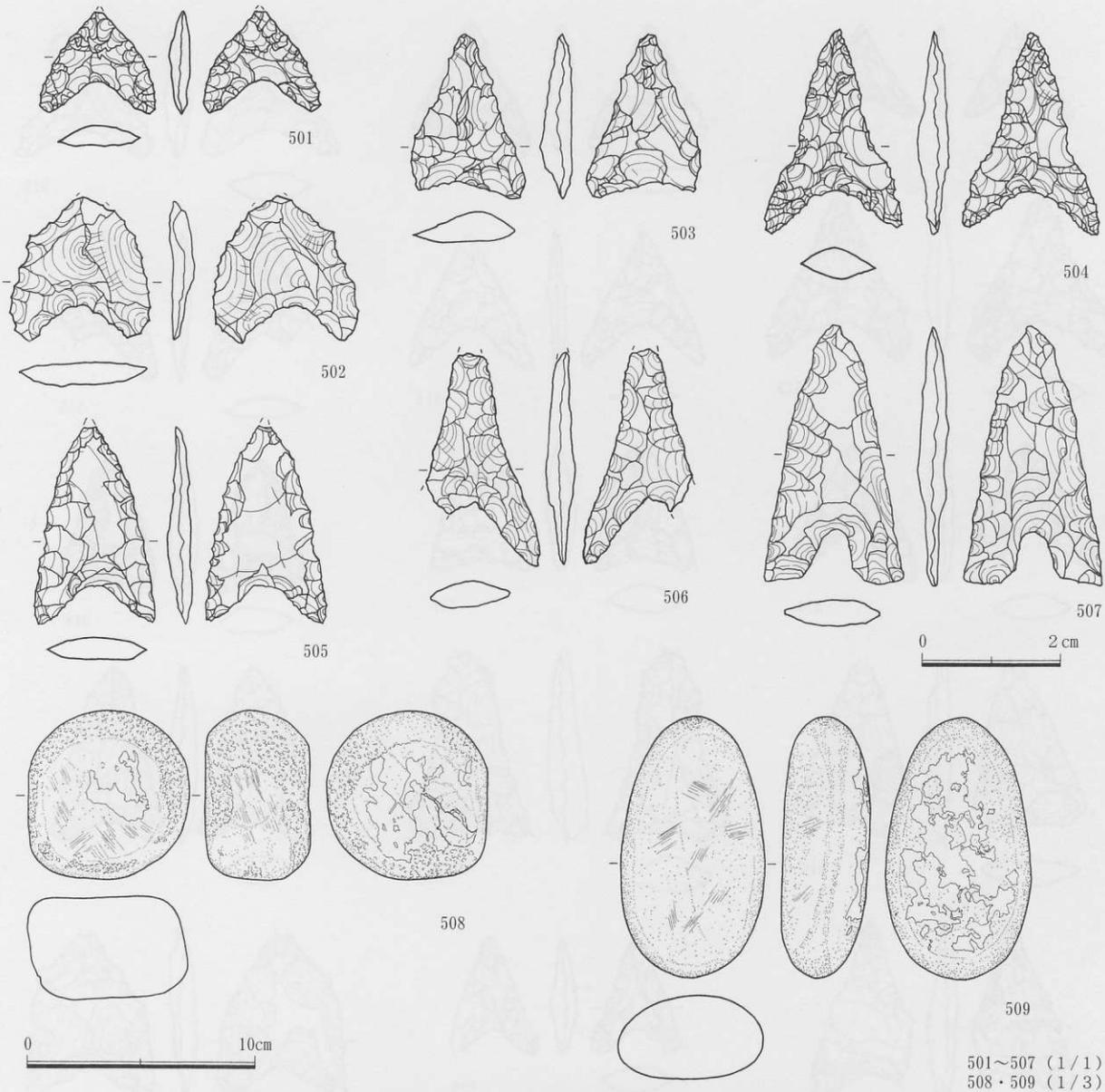
第69図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層（A～Dトレンチ基本層序Ⅱ層）出土石器・石製品 1（1/1、2/3）



第70図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層(A~Dトレンチ基本層序Ⅱ層)出土石器・石製品2 (2/3)



第71図 黒・褐色混土貝層及び混貝土層(A~Dトレンチ基本層序Ⅱ層)出土石器・石製品3 (1/3)

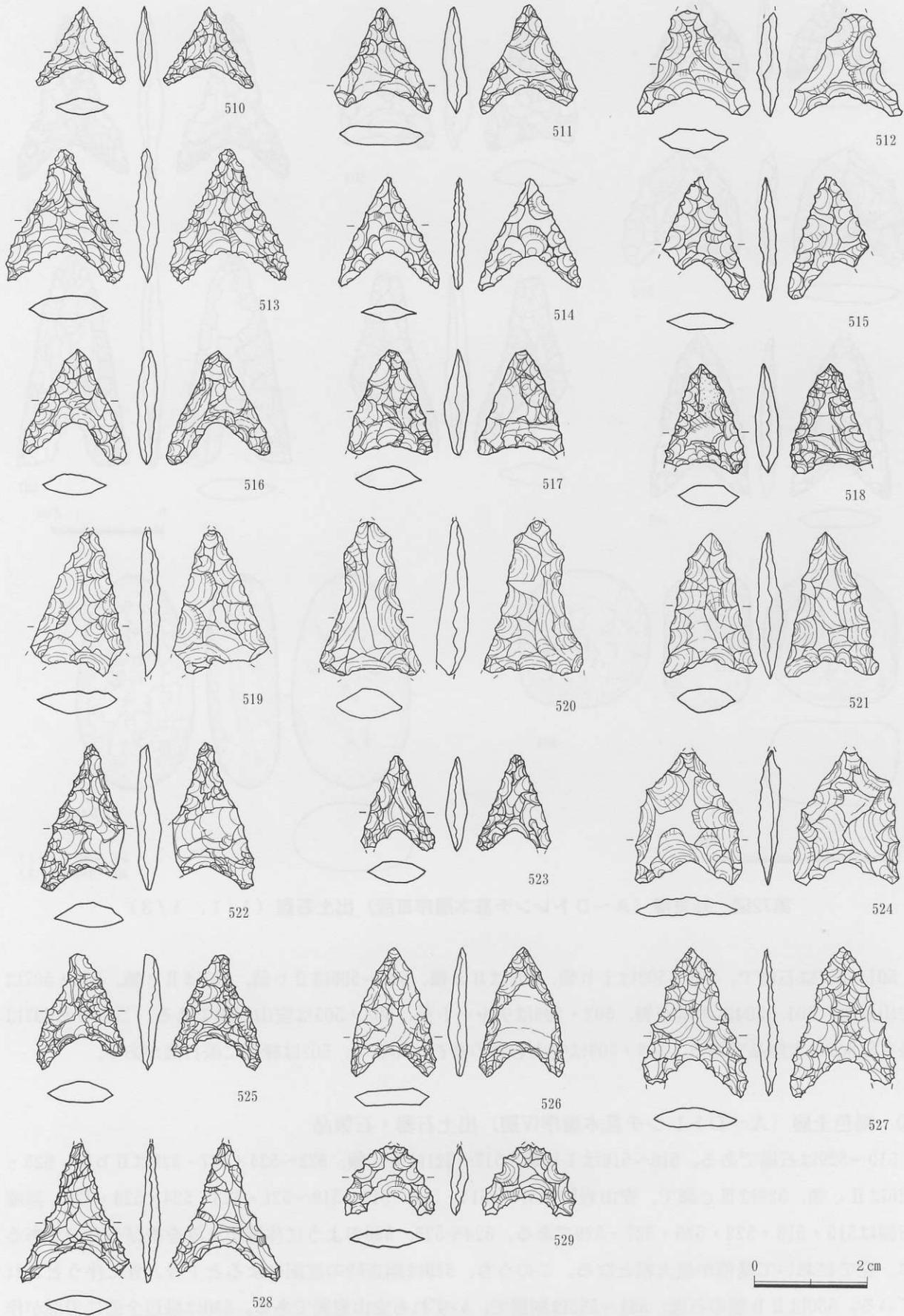


第72図 純貝層 (A~Dトレンチ基本層序Ⅲ層) 出土石器 (1/1、1/3)

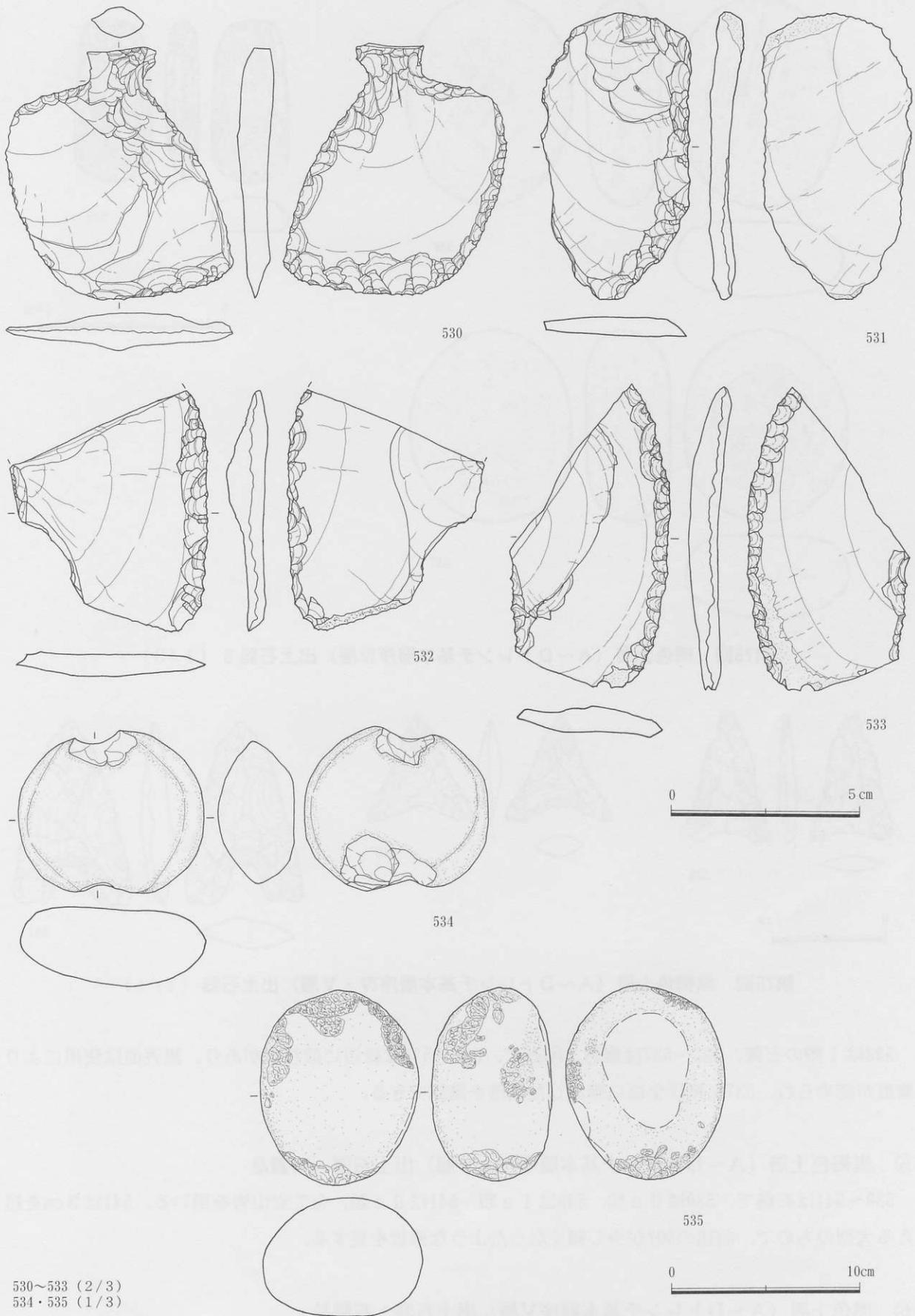
501~507は石鎌で、501・502はI b類、503はII a類、504~506はII b類、507はII c類。505・507は安山岩製、501・504は黒曜石製、502・506はチャート製、503・505は安山岩製である。このうち507は長さ3.8cmの大型品である。508・509は安山岩製の磨石・叩石で、508は縁辺に敲打痕がある。

④ 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序Ⅳ層) 出土石器・石製品

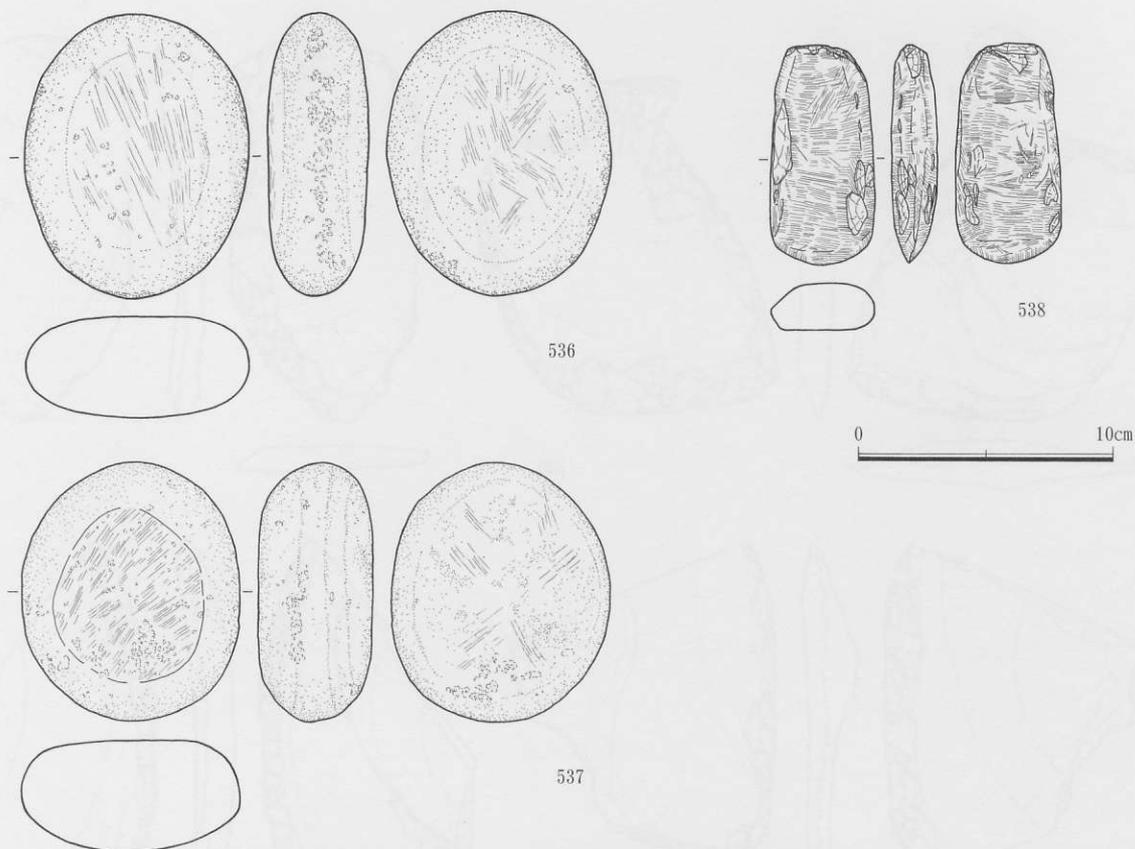
510~529は石鎌である。510~516はI b類、517~521はII a類、522~524・527・528はII b類、525・526はII c類、529はIII c類で、安山岩製は510~514・516・517・519~521・523・524・526・528、黒曜石製は515・518・522・525・527・529である。524や526、529のように体部が丸みを帯びるものもあるが、全てにおいて基部が最大幅となる。このうち、529は調査時の注記によると1号人骨に伴うとされている。530はII b類の石匙、531~533は削器で、いずれも安山岩製である。530は縁辺全面に刃部が作り出されている。また、削器は刃部の作り出しの状態から531は片刃、532・533は両刃である。



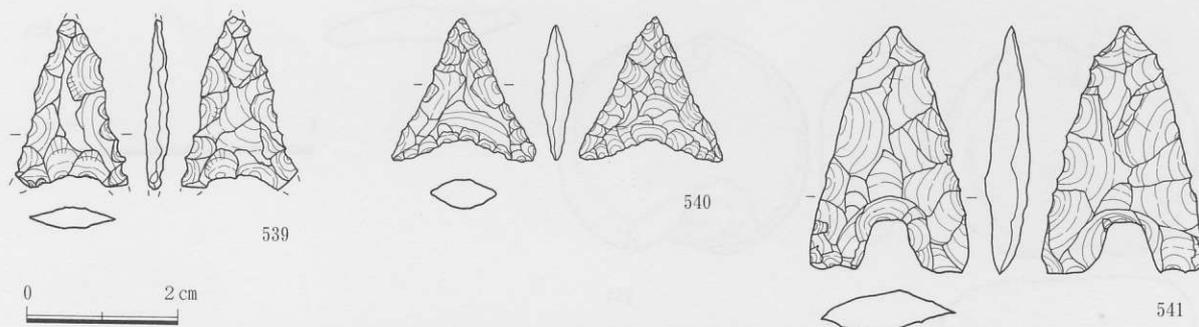
第73図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土石器 1 (1/1)



第74図 褐色土層 (A~Dトレンチ基本層序IV層) 出土石器 2 (2/3、1/3)



第75図 褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV層）出土石器3（1/3）



第76図 黒褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV・V層）出土石器（1/1）

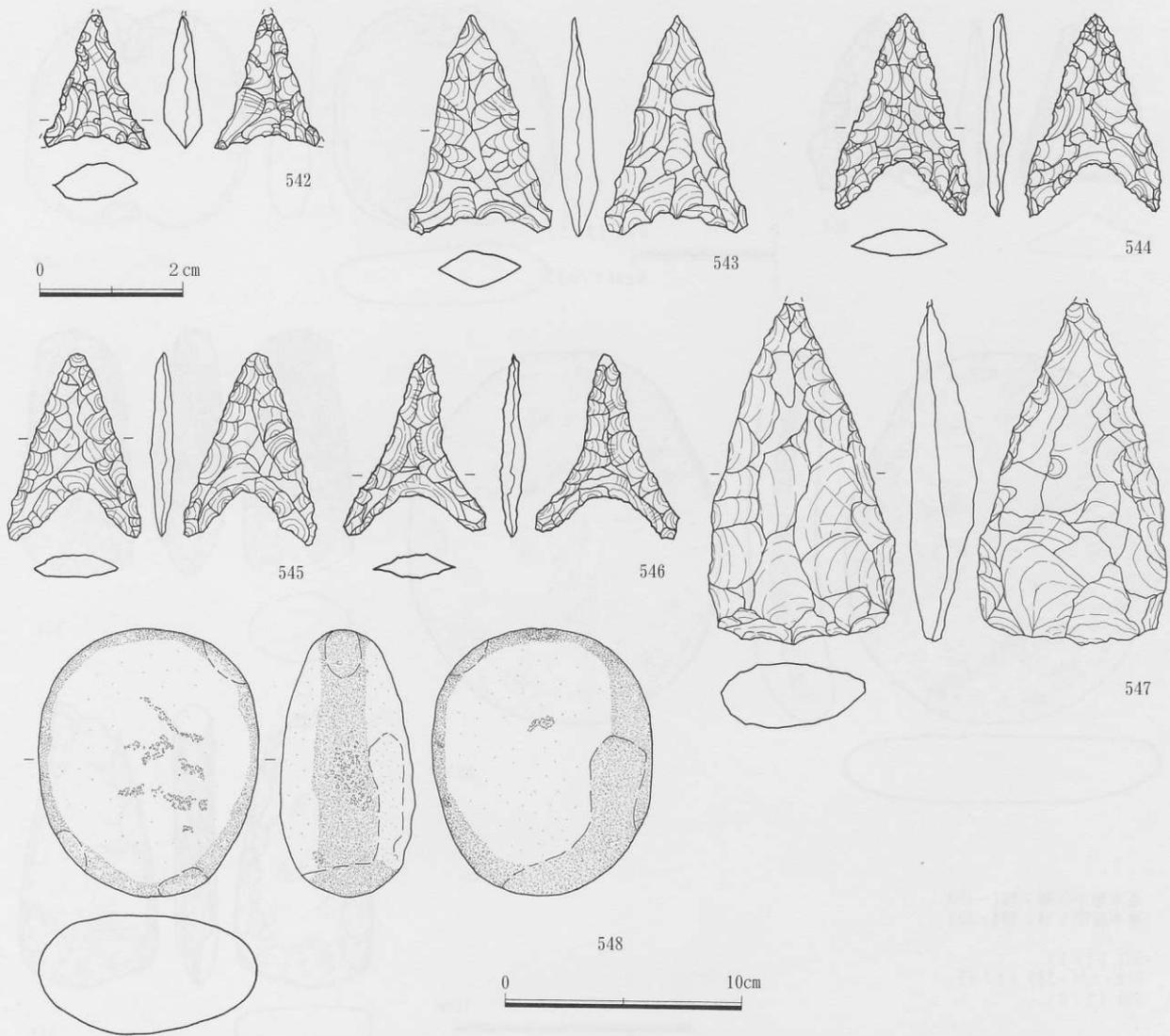
534はI類の石錘、535～537は磨石・叩石で、535・536は縁辺に敲打痕があり、裏表面は使用により磨痕が認められ、537もほぼ全面に摩滅した痕跡を確認できる。

⑤ 黒褐色土層（A～Dトレンチ基本層序IV・V層）出土石器・石製品

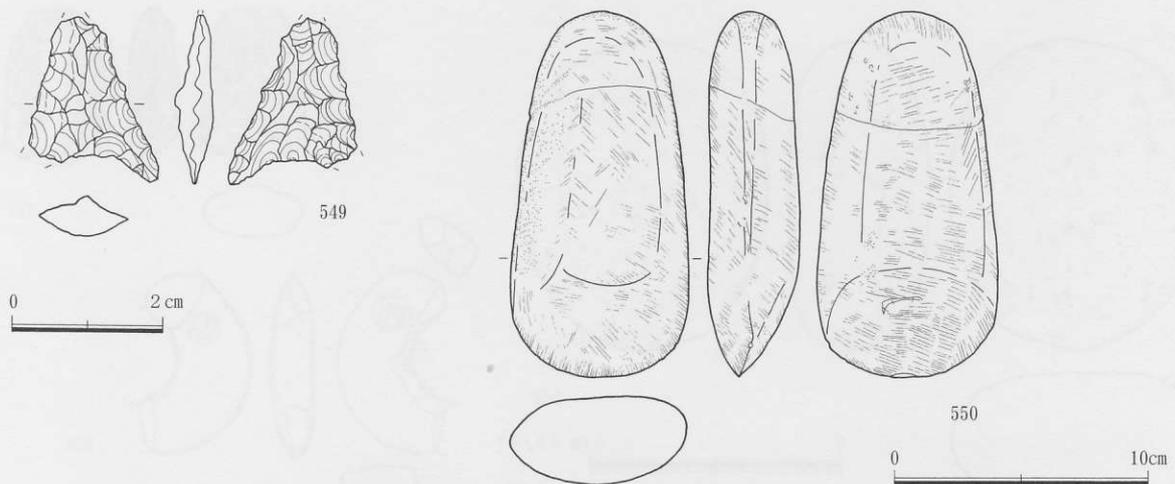
539～541は石鏃で、539はII a類、540はI a類、541はII c類。全て安山岩を用いる。541は3cmを超える大型のもので、前述の507が少し短くなったような形状を呈する。

⑥ 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土石器・石製品

542～546は石鏃で、542・543はII a類、544・545はII b類、546はII c類である。542は黒曜石、543



第77図 黒色土層（A～Dトレンチ基本層序V層）出土石器（1/1、1/3）



第78図 A～Dトレンチ出土層位不明石器（1/1、1/3）



基本層序IV層：551～553
基本層序V層：554・555

551 (1/1)
552・554・555 (1/3)
553 (1/4)

第79図 Eトレンチ出土石器 (1/1、1/3、1/4)



第80図 出土地点不明石器・石製品 (2/3、1/3)

はチャート、544は凝灰岩、545はサヌカイト、546は安山岩で作られている。547は石鏃状を呈するが、復元長約5cmと石鏃とするには疑問が残り、厚さも通常の石鏃の2倍程度であることから、尖頭器と判断した。548はⅡ類の磨石・叩石で、縁辺を中心に敲打痕が残る。

⑦ A～Dトレンチ出土層位不明石器

549はⅡa類の石鏃で安山岩製。550は砂岩（ホルンフェルス）とみられる磨製石斧で、Ⅱb類に分類される。全面わたって丁寧な研磨が施される。

(3) Eトレンチ出土の石器

551～553は混土貝層Ⅱ（基本層序Ⅳ層）から出土した石器である。551は安山岩製のⅡa類の石鏃で、基部は浅く抉れる。552は礫の両端に小剥離を施すⅠ類の石錘。553は楕円形を呈する安山岩製の石皿で、長辺側の両端がやや反り上がっており、使用面は摩滅している。

554・555は混貝土層（基本層序Ⅴ層）から出土した小型の磨製石斧である。554はⅠb類の石斧で、頭部から体部にかけては敲打痕が残り、使用により刃部が摩滅している。555は変成岩のホルンフェルスで製作したⅡb類の石斧で、頭部を欠損する。全体に丁寧な研磨が施される。

(4) 出土地点不明石器・石製品

556は安山岩製の磨石・叩石で、Ⅱ類に分類される。557は体部の一部と刃部を欠損する磨製石斧である。刃部に向かって幅広くなっていることからⅡ類に分類される。表面は丁寧な研磨が施される。558は滑石製の珠状耳飾で、2/3程度を欠損している。裏表両側から施された穿孔が1ヶ所ある。

第4節 骨角器

(1) 獣骨製品

559～563は骨製刺突具で、全て動物の四肢骨を使用しているとみられる。559・560・563は基部側が幅広で先端に向かって尖っており、561・562は幅が狭いまま先端部にいたる。559はAトレンチ混土貝層（基本層序Ⅱ層）より出土したもので、全体を研磨整形して先端を尖らせており、破面も研磨されている。560は先端から基部まで良好に残存する資料で、全体に研磨が施され、基部にかかりを設けている。Dトレンチ純貝層（基本層序Ⅲ層）より出土。561はAトレンチ7グリッドから出土しているが層位不明の資料で、全体に研磨が施されるが基部を欠損している。562はEトレンチ混土貝層Ⅱ（基本層序Ⅳ層）出土で、先端部と基部を欠く。全体に研磨が施される。563は出土地点不明の資料で、基部から先端を欠損するが、それ以外は研磨されている。567は骨製刺突具か簪で、Eトレンチ混土貝層Ⅱ（基本層序Ⅳ層）より出土。これも先端部と基部を欠き、欠損部分以外は研磨が施されている。

568はAトレンチ混土貝層（基本層序Ⅱ層）より出土した骨製簪もしくはヘラとみられ、基部を欠損しているが、先端部が残存する。全体に研磨が施される。骨製刺突具の形状に似るが先端部がやや丸く仕上げられている。569は完形の骨製簪で、末端部に沈線で区画された内部に格子目や斜位の沈線で装飾する。全体的に研磨が施されており光沢を帯びる。Aトレンチ混土貝層（基本層序Ⅱ層）より出土。570もAトレンチ混土貝層（基本層序Ⅱ層）から出土した骨製垂飾で、ほとんど整形を施さず、骨の形を

そのまま利用している。

(2) 魚骨製品

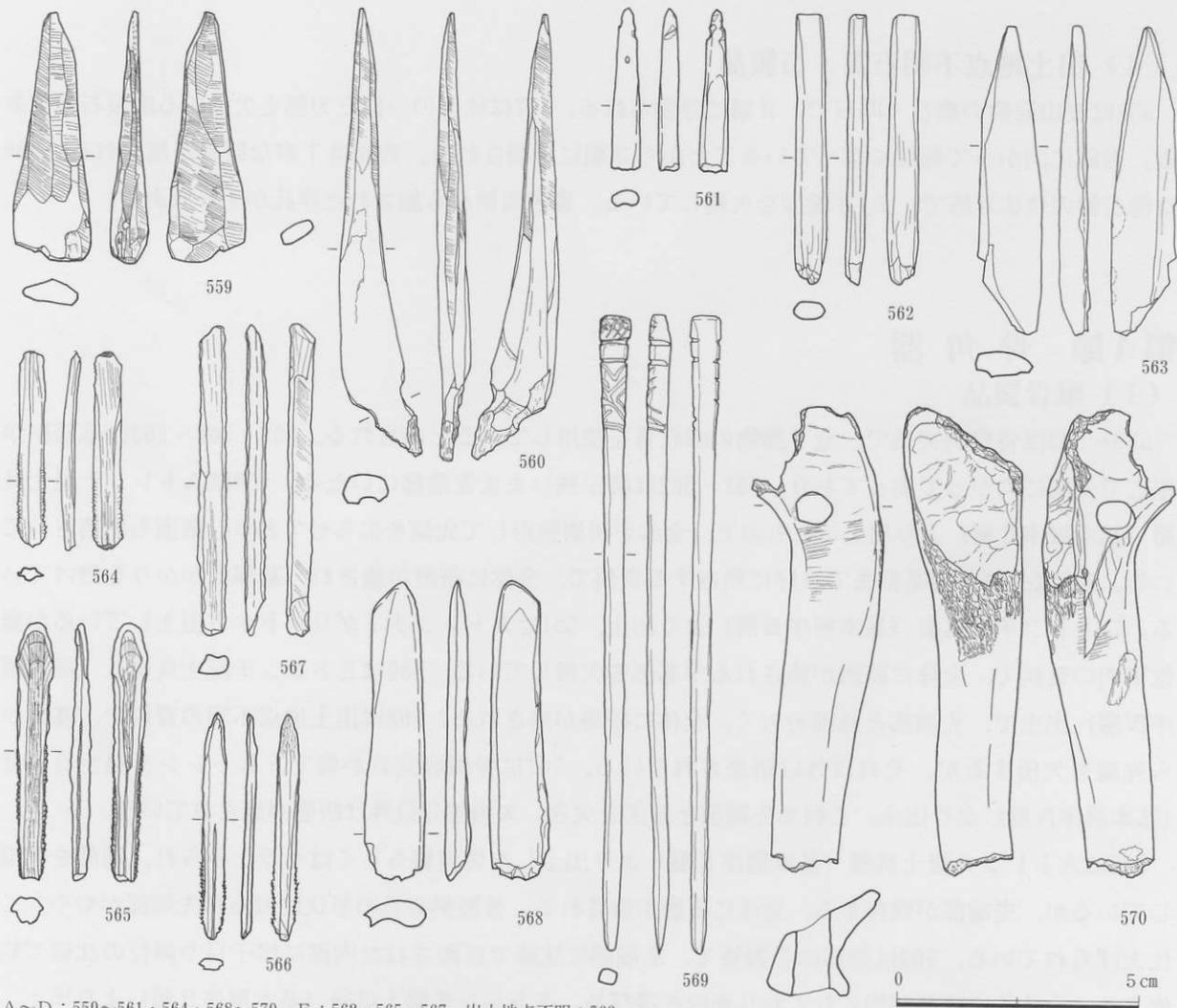
564～566は魚骨製刺突具である。いずれもエイ類尾棘を利用したもので、基部は未加工で鋸歯状の細かな突起が付いている。564はCトレンチ褐色土層（基本層序IV層）から出土したもので、先端部を欠く。565・566はEトレンチ混土貝層II（基本層序IV層）から出土したもので、いずれも先端部が残存する。566は研磨により先端部を尖らせるが、565は先端が丸みを帯びていることから簪の可能性もある。

第5節 貝製品

(1) 貝製品の概要

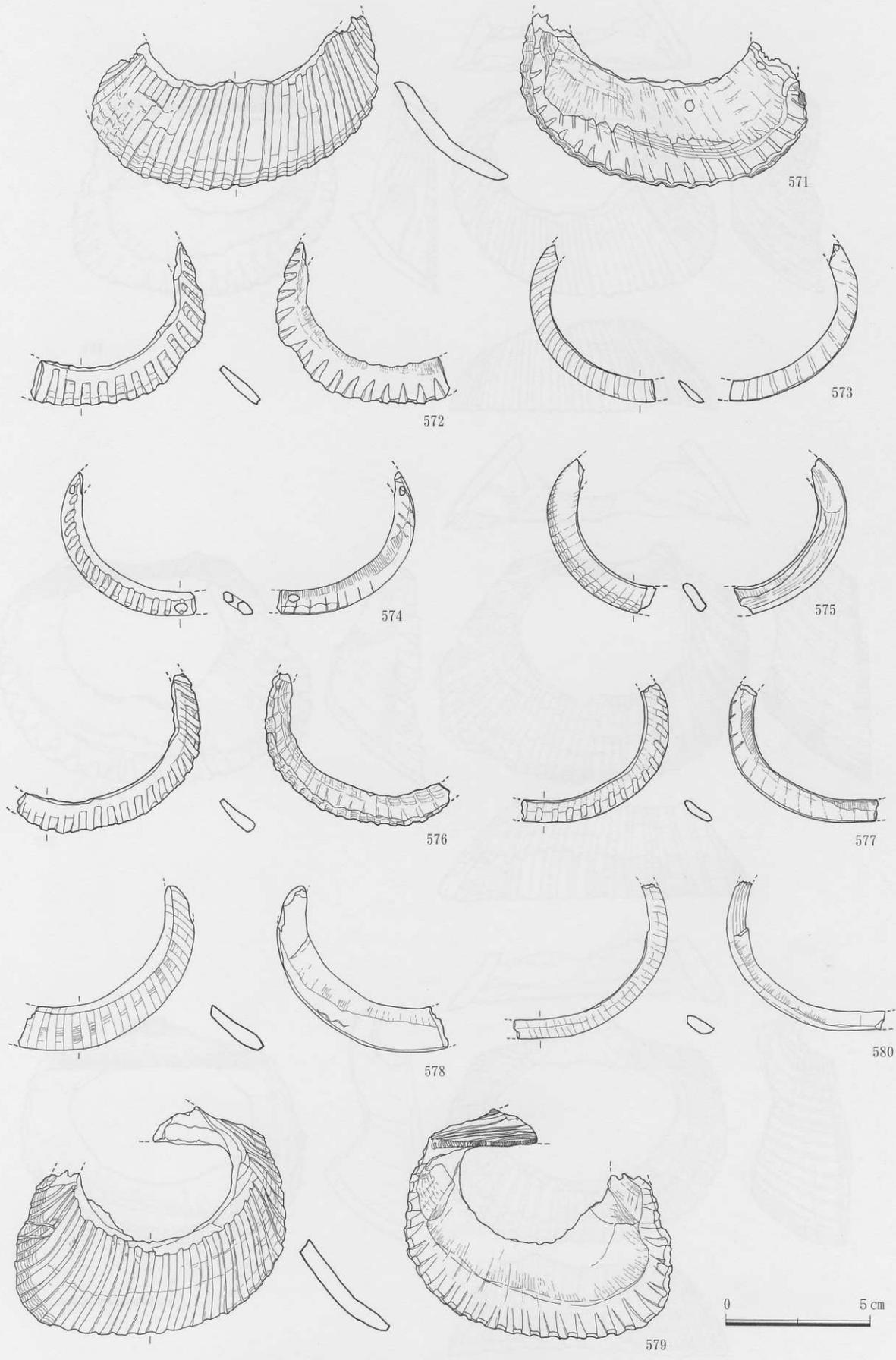
本稿で掲載した貝製品は全て貝輪である。材質はフネガイ科サルボウ、同アカガイ、タマキガイ科ペンケイガイ、アクキガイ科アカニシの4種であり、腹足類（巻貝）のアカニシ以外は全て斧足類（二枚貝）である。割合的にはフネガイ科の2つの貝種が多数を占める。

斧足類の貝輪は形状や加工方法より2種に大別できる。ひとつは、貝輪の素材となる貝殻の中央部に

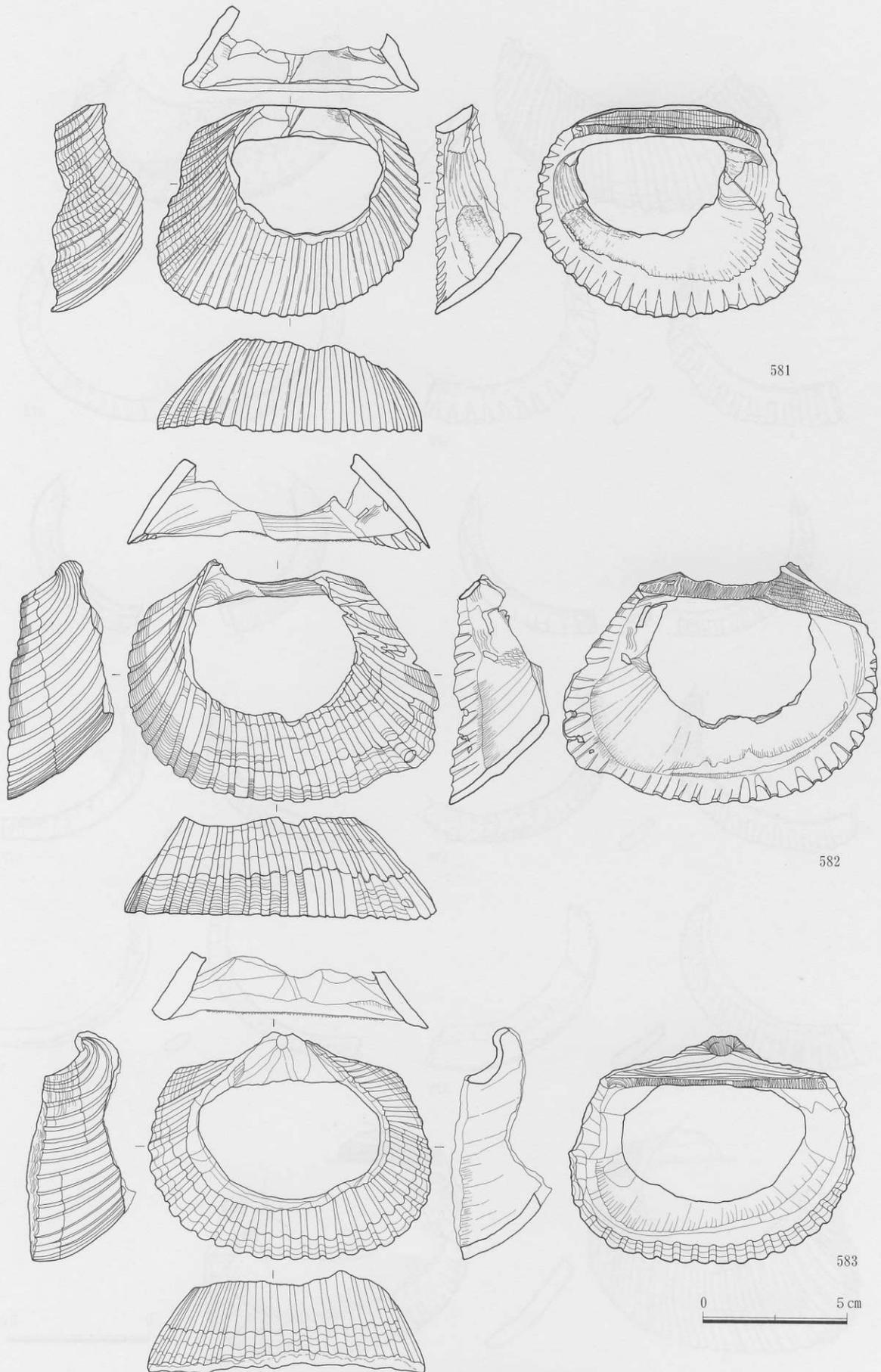


A～D：559～561・564・568～570 E：562・565～567 出土地点不明：563

第81図 出土骨角器 (2/3)

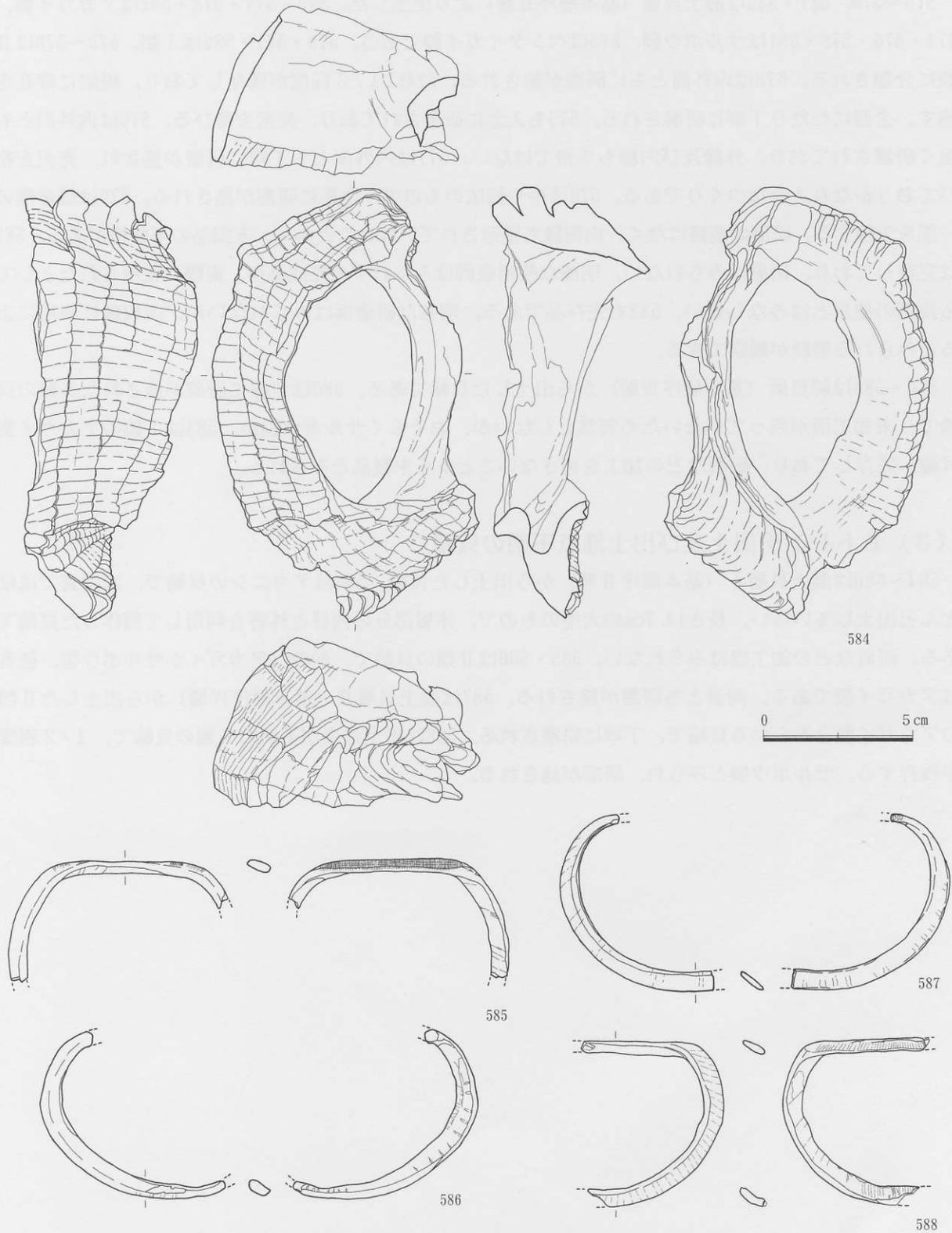


第82図 A~Dトレンチ出土貝製品1 (1/2)



第83図 A~Dトレンチ出土貝製品2 (1/2)

孔をあけるが、表面を研磨などの加工を行わないもので、これをⅠ類とする。この形式は総じて貝の幅が広い。もうひとつは、貝殻の中央部に孔をあけた後、研磨を施すもので、貝の幅が狭く鉤状を呈する。これをⅡ類とする。571～583はA～Dトレンチ、584～587まではEトレンチから出土した貝輪で、588は出土地点が不明のものである。



第84図 Eトレンチ出土及び出土地点不明貝製品 (1/2)

(2) A～Dトレンチ出土の貝輪

571・572は攪乱層（基本層序Ⅰ層）から出土したもので、いずれもサルボウ製。571はⅠ類で研磨が施されておらず、内周縁も明確な整形痕がみられないことから未製品とみられる。572はⅡ類で外面は粗い研磨が施される。内周縁もわずかながら研磨もしくは磨耗している。

573～579、581・582は混土貝層（基本層序Ⅱ層）より出土した。573・577・578・582はアカガイ製、574・576・579・581はサルボウ製、575はベンケイガイ製である。579・581・582はⅠ類、573～578はⅡ類に分類される。573は内外面ともに研磨が施される。574は1/3程度が残存しており、両端に穿孔を施す。全面にわたり丁寧に研磨される。575も入念に研磨されており、光沢を帯びる。576は内外面とも粗く研磨されており、外縁及び内縁も平滑ではない。577は内外面とも丁寧に研磨が施され、光沢を帯びておりかなり入念なつくりである。578はやや幅広のもので、全面に研磨が施される。579は蝶番部の一部を欠損する。研磨の痕跡はなく、内周縁も整形されていないことから、未製品の可能性がある。581は完存しており、研磨はみられない。明確な使用痕跡はみられず未完成品か。実際に使用されたとしても長期の使用とはみなし難い。582も完存品である。明確な研磨痕はみられないが、内周縁に使用によるとみられる磨耗が観察できる。

580・583は純貝層（基本層序Ⅲ層）から出土した貝輪である。580は全体に研磨が施されたⅡ類の貝輪で、未加工面が残っていないため判然としないが、おそらくサルボウ製か。583はⅠ類のアカガイ製貝輪。完存しており、研磨などの加工を施さないことから未製品とみられる。

(3) Eトレンチ出土及び出土地点不明の貝輪

584～586は混土貝層Ⅰ（基本層序Ⅱ層）から出土した貝輪。584はアカニシの貝輪で、本調査ではほとんど出土していない。長さ14.7cmの大型のもので、体層部分の内唇と外唇を利用して製作した貝輪である。研磨などの加工痕はみられない。585・586はⅡ類の貝輪で、前者はアカガイかサルボウ製、後者はアカガイ製である。両者とも研磨が施される。587は混土貝層Ⅱ（基本層序Ⅳ層）から出土したⅡ類のアカガイ製とみられる貝輪で、丁寧に研磨される。588は出土地点不明のⅡ類の貝輪で、1/2程度が残存する。サルボウ製とみられ、研磨が施される。

第2表 縄文土器・土製品観察表1

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
1	90	A19	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	-	6.4	I b	
2	368	A6	攪乱層	I	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、長石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	7.9	I a	
3	365	A17	攪乱層下部	I	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	-	7.5	III b5	
4	353	A19	攪乱層	I	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい赤褐	-	6.5	III c2	
5	168	B2	攪乱層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	7.4	III c1	
6	164	B3	攪乱層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/褐灰	-	5.4	III d1	
7	187	C5	攪乱層	I	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	5.0	III d1	
8	290	D1	表土層	I	鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕?	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	4.8	III d1	
9	263	B7	攪乱貝層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒褐/黒褐	-	4.4	III d1	
10	378	A12	攪乱層	I	鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい褐	-	6.4	III e2	
11	568	A12	攪乱層	I	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	7.6	III g	
12	68	A1	表土層	I	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/橙	-	5.5	III	底径8.9cm
13	217	C14	攪乱層	I	鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1~3mm程度の砂粒	やや不良	灰黄褐/明赤褐	-	5.5	III	
14	216	B7	攪乱貝層	I	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	滑石多量に含む	良好	にぶい橙/褐灰	-	7.7	IV a	
15	446	A2	攪乱層	I	鉢	口縁部~胴部	ナデ/ナデ	滑石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	10.7	IV b1	
16	314	C2	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/明赤褐	-	7.0	IV b1	
17	108	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ケズリ→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	5.8	IV b2	
18	204	C3	攪乱層	I	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	6.0	IV b2	
19	324	A19	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm以下の砂粒	良好	灰褐/黒褐	-	6.6	IV b2	
20	149	C5	攪乱層	I	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	6.0	IV b2	
21	145	D18	攪乱貝層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/黒褐	-	6.2	IV b2	
22	191	D20	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい橙	-	5.8	IV b2	
23	258	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	6.2	IV c2	
24	443	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	明赤褐/にぶい赤褐	-	4.4	IV c2	
25	436	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/橙	-	6.5	IV c2	
26	305	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	褐/にぶい赤褐	-	6.8	IV b2	
27	285	A12	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	4.5	IV c2	
28	115	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、長石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	-	8.2	IV d	
29	299	A2	攪乱層	I	鉢	口縁部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰褐	-	5.5	IV d	
30	325	B3	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1mm以下の砂粒	良好	黒褐/にぶい赤褐	-	4.9	IV b2	
31	427	A2	攪乱層	I	鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	3.5	IV d	
32	437	A2	攪乱層	I	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	5.4	IV d	
33	449	A19	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	-	5.2	IV d	
34	221	A2	攪乱層	I	深鉢	底部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	5.3	IV	復元底径10.4cm、底面に鯨脊椎骨痕
35	122	C15	攪乱層	I	深鉢	底部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、長石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	-	8.0	IV	底径8.0cm
36	345	D13	表土層	I	鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい黄橙	-	2.4	IV	底径9.8cm
37	336	A2	攪乱層	I	深鉢	底部	ナデ/ケズリ、ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	-	4.0	IV	復元底径14.7cm、底面に鯨脊椎骨痕
38	347	C5	攪乱層	I	深鉢	底部	ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	-	2.8	IV	底径14.3cm
39	337	B7	攪乱貝層	I	深鉢	底部	ナデ/ケズリ、ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	2.9	IV	底径14.0cm、底面に木葉と鯨脊椎骨痕

第3表 縄文土器・土製品観察表2

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
40	334	A2	攪乱層	I	鉢	口縁~胴部	ミガキ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒/黒褐	—	6.5	VIa	赤色顔料付着
41	98	C5	攪乱層	I	鉢?	底部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	1~4mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰褐	—	3.8	VIc	復元底径13.9cm
42	445	C15	攪乱層	I	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、長石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい黄褐	—	5.2	VII	
43	556	C15	攪乱層	I	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	7.2	VII	
44	257	C14	攪乱層	I	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、長石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	6.9	VII	
45	479	C4	攪乱層	I	浅鉢	口縁部~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	4.8	VII	
46	478	C15	攪乱層	I	浅鉢	口縁部~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	浅黄橙/にぶい黄橙	—	4.3	VII	
47	350	A9	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	6.4	IIa	
48	487	A9	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	—	4.5	IIb	
49	138	A14	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄/にぶい黄橙	—	9.8	III?	
50	364	A24	混貝土層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	6.0	IIIa1	
51	387	D1-A20	混土貝層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	暗灰黄/にぶい橙	—	7.7	IIIa1	
52	123	A13	混土貝層	II	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	—	5.6	IIIa1	底径2.4cm
53	276	A14	混土貝層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	6.4	IIIa1	
54	497	D22	混土貝層	II	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	—	3.2	IIIb2	
55	244	A20	混土貝層	II	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	—	4.9	IIIb2	
56	229	A10	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm以下の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	—	7.8	IIIb6	
57	434	B7	混土貝層	II	深鉢	口縁部~胴部	ナデ→貝殻条痕/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	—	7.3	IIIb2	
58	243	A24	混貝土層	II	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい黄褐	—	3.5	IIIb2	
59	367	A19	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/黒褐	—	13.8	IIIb1	
60	390	A20	混土貝層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	—	6.3	IIIb4	
61	238	A20	混土貝層	II	深鉢?	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	黄灰/にぶい橙	—	4.4	IIIc1	
62	114	A9	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい橙	—	10.9	IIIc1	
63	483	A12	第1混土貝層	II	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	6.6	IIIc1	
64	554	A10	混貝土層	II	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	—	8.0	IIIc1	
65	262	B5	混土貝層	II	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	—	4.0	IIId1	
66	477	D1	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/褐灰	—	3.9	IIId1	
67	275	A11	混土貝層	II	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	5.2	IIId2	
68	50	A3	混土貝層	II	深鉢?	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい赤褐	—	7.3	IIIa2	
69	481	B5	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	—	3.5	IIId1	
70	489	D1	混土貝層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕/ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	—	3.3	IIId3	
71	490	B5	混土貝層	II	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	5.8	IIId2	
72	165	A24	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	—	4.8	IIId2	
73	474	A24	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	3.9	IIId1	
74	475	A9	混貝土層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	3.7	IIId1	
75	184	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	5.5	IIId1	
76	185	A20	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰褐	—	4.2	IIId1	
77	169	A20	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	4.2	IIId1	
78	172	A20	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	4.0	IIId1	

第4表 縄文土器・土製品観察表3

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
79	266	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	6.2	III d1	
80	231	B7・8	混貝土層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	7.0	III d2	
81	567	B7	混土貝層	II	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	-	8.0	III d1	
82	174	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰褐/褐灰	-	6.0	III f	
83	292	B5	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ→貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	3.8	III g2	
84	188	A11	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/暗灰黄	-	5.5	III g1	
85	179	A13	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	-	2.8	III g2	
86	228	B7	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	10.0	III g2	
87	186	A10・11	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	8.9	III g1	
88	564	B5	混土貝層	II	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	4.4	III g2	
89	180	A13	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	8.1	III g2	
90	600	B5	混土貝層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ、貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	-	5.5	III g2	
91	327	B3	混土貝層	II	鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	3.5	III	底径0.7cm
92	131	A3	混土貝層	II	深鉢	胴~底部	ケズリ、ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、雲母、1~5mmの砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	10.3	III	復元底径12.0cm
93	381	A13	混土貝層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	17.8	III a1	
94	130	A19	混土貝層	II	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	8.4	III	復元底径10.0cm
95	341	A11	混土貝層	II	深鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄/にぶい黄橙	-	6.7	III	復元底径11.0cm
96	431	A13	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい赤橙	-	3.2	IV a1	
97	146	A1	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、1~2mmの砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	9.6	IV b2	
98	214	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	指オサエ、ナデ/ケズリ→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐・黒褐	-	6.9	IV b2	
99	304	D19	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm以下の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	7.1	IV b1	
100	300	B2	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	7.1	IV b1	
101	200	B6	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい褐	-	8.0	IV b2	
102	302	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	暗赤褐/にぶい黄褐	-	5.8	IV b2	
103	203	B7	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	6.9	IV b2	
104	205	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	-	4.6	IV b1	
105	201	A13	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	暗灰黄/黒褐	-	6.0	IV b1	
106	208	A24	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	7.3	IV b1	
107	142	B7・8	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	10.3	IV b1	
108	215	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ケズリ→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	6.5	IV b2	
109	560	D17	混土貝層	II	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰褐	-	5.2	IV b2	
110	309	A20・200	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	5.2	IV b1	
111	303	B6	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/黒褐	-	5.0	IV b2	
112	256	C3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	5.5	IV b1	
113	234	D22	混土貝層	II	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	9.6	IV b1	
114	193	D22	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ、指オサエ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	-	4.4	IV b2	
115	117	A11	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	-	5.7	IV b2	
116	150	A18	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	8.2	IV b2	
117	73	D17	混土貝層	II	鉢	胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰黄褐	-	4.5	IV b2	

第5表 縄文土器・土製品観察表 4

※()は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
118	148	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	-	6.8	IVb2	
119	310	B6	混貝土層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰褐	-	5.6	IVc2	
120	76	D17	第1混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/黄灰	-	5.3	IVc2	
121	74	D17	第1混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒褐/褐灰	-	10.9	IVc2	
122	95	A24	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	18.9	IVc1	
123	399	A4	混貝土層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい赤褐	-	4.3	IVc2	
124	287	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	4.0	IVc2	
125	349	A4	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	-	5.0	IVc1	
126	105	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄/黄灰	-	10.9	IVc2	
127	286	A17	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	4.2	IVc2	
128	301	B6	混貝土層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/赤褐	-	4.6	IVc1	
129	107	A12	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	滑石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	6.3	IVc1	
130	206	D22	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	明赤褐/灰赤	-	7.7	IVc2	
131	194	A1	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	3.3	IVc2	
132	284	A3	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	4.7	IVd	
133	147	B2	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/橙	-	7.7	IVd	
134	339	C2	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	暗灰色/灰褐	-	4.8	IV	復元底径13.3cm、底面に鯨脊椎骨痕
135	120	A1	混土貝層	II	深鉢	底部	指頭圧痕、ナデ/ナデ	角閃石、長石?、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	6.6	IV	底径11.2cm
136	133	B6	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ケズリ→ナデ	1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	5.4	IV	底径13.7cm
137	124	D17	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ハケメ→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	6.8	IV	底径9.6cm、底部に縄状圧痕
138	335	D9	褐色土層直上面	II	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、滑石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	4.6	IV	復元底径14.2cm
139	220	D22	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	-	2.9	IV	復元底径13.2cm、底面に鯨脊椎骨痕
140	129	B5	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい橙	-	7.3	IV	復元底径18.4cm、底面に木葉痕
141	219	A1	混土貝層	II	鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	3.5	IV	復元底径14.8cm、底面に木葉痕
142	135	D18	混土貝層	II	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	赤褐/にぶい赤褐	-	4.1	IV	復元底径13.6cm
143	106	A4	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	5.1	Vb2	
144	493	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	5.0	Vb1	
145	557	A4	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	4.6	Vb1	
146	249	A4	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	雲母、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	7.3	Vb1	
147	246	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	暗灰黄/にぶい黄橙	-	10.8	Vb1	
148	252	A3	混土貝層	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	-	6.4	Va2	
149	254	A4	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	4.8	Va1	
150	170	A1	混土貝層	II	浅鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/縄文→ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黄灰/暗黄灰	-	5.3	VIa	赤色顔料付着
151	553	A3	混土貝層	II	鉢	口縁部	ミガキ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒褐/灰褐	-	5.6	VIa	赤色顔料付着
152	144	A3	混土貝層	II	浅鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	6.6	VIa	
153	250	B15	混土貝層	II	鉢	口縁部	ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒褐/黒褐	-	3.1	VIa	
154	153	A3・4	混貝土層・混土貝層	II	深鉢	口縁~底部	ナデ→ミガキ/縄文→ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	(35.7)	18.9	VIa	復元胴部径38.2cm、赤色顔料付着
155	329	A3	混土貝層	II	浅鉢?	口縁部	ミガキ/ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒褐/灰褐	-	4.1	VIa	
156	442	A4	混土貝層	II	鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄褐	-	5.7	VIa	

第6表 縄文土器・土製品観察表5

※ () は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
157	176	B	混土貝層	II	鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	5.6	VIb	
158	432	A1	混土貝層	II	鉢	口縁部~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒/褐灰	-	4.3	VIa	
159	495	A1	混土貝層	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	橙/橙	-	4.5	VIb	
160	593	A4	混土貝層	II	浅鉢	口縁部	ナデ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	4.2	VIb	外面に赤色顔料付着
161	111	A3	混土貝層	II	鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	16.8	8.4	VIb	
162	272	A3	混土貝層	II	鉢	口縁部	縄文→ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	黒褐/灰黄褐	-	4.7	VI	
163	330	A3	混土貝層	II	鉢?	胴部	ナデ/縄文	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	浅黄橙/灰黄褐	-	5.8	VI	
164	343	D17	第I混土貝層	II	鉢	底部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	3.1	VI	底径13.7cm
165	448	D24	純貝層	III	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	やや不良	にぶい赤褐/赤灰	-	8.7	IIIa2	
166	268	D20	純貝層	III	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	4.5	IIIb3	
167	426	D18-19	純貝層	III	鉢	口縁部	貝殻条痕/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	-	4.1	IIIb3	
168	242	D24	純貝層	III	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	4.2	IIIc1	
169	57	D24	純貝層	III	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/褐灰	-	17.2	IIIc2	
170	173	B3	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	橙/にぶい橙	-	4.6	III d3	
171	190	B3	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	4.8	III d1	
172	392	D24	純貝層	III	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	4.5	III d1	
173	476	A17	貝層上部	III	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/褐灰	-	4.8	III d2	
174	295	D13	貝層最下部	III	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	-	3.8	III d3	
175	118	D9	純貝層	III	深鉢?	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、長石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	4.8	III d3	
176	293	D20	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/にぶい褐	-	4.6	III f	
177	382	B3	純貝層	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	7.4	III e	挿図番号179・300と同一個体
178	566	A21	貝層下部	III	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	-	9.8	III e	
179	383	D20	純貝層	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/褐灰	-	4.5	III e	
180	236	B3	純貝層	III	深鉢	胴~底部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰・にぶい赤褐	-	6.4	III e	
181	267	D20	純貝層	III	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	-	3.2	III	
182	28	D20	純貝層	III	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	4.9	III	
183	338	D23	純貝層	III	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	-	2.2	III	復元底径8.1cm
184	233	D23	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	13.1	IVb1	
185	192	D23	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	4.4	IVb2	
186	306	D18	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1mm以下の砂粒	良好	灰赤/黒褐	-	4.3	IVb2	
187	140	D23	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	(35.2)	15.1	IVb1	
188	112	D17	純貝層	III	鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	-	8.0	IVb2	
189	307	D18	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	-	9.3	IVb1	
190	141	D18	純貝層	III	鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい褐	-	12.4	IVb2	
191	207	D23	貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	-	3.8	IVb	
192	312	D13	貝層直下層	IV?	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	明赤褐/暗褐	-	7.2	IVb2	
193	323	D23	褐色貝層	III	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	7.9	IVb1	
194	202	D23	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	6.6	IVb2	
195	311	D23	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	褐/黒褐	-	7.9	IVb1	

第7表 縄文土器・土製品観察表6

※()は復元値

挿入 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整(内面/外面)	胎土	焼成	色調(内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
196	326	D18	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	明赤褐/赤褐	—	5.8	IVb2	
197	308	D22	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	褐/にぶい赤褐	—	6.4	IVb2	
198	75	D18-19	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	—	5.5	IVc2	
199	313	C2	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/赤褐	—	6.4	IVb2	
200	482	D17	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/ナデ、ケズリ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	9.3	IVb2	
201	86	D17	純貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	23.4	IVc1	
202	77	D18	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	(35.6)	20.0	IVc2	
203	435	D18	純貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	—	4.4	IVb2	
204	400	D13	貝層直下層	Ⅲ?	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	明赤褐/赤褐	—	5.7	IVd	
205	94	D20	純貝層	Ⅲ	深鉢?	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	14.0	12.5	IVd	
206	121	D18	純貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/褐灰	—	10.1	IV	底径13.5cm、底面に鯨脊椎骨痕
207	342	C1	純貝層	Ⅲ	深鉢	胴~底部	ナデ/ケズリ→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	—	8.1	IV	復元底径20.0cm
208	346	D23	褐色土層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい褐	—	2.6	IV	底径14.9cm
209	143	D18	純貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ、指頭圧痕/ケズリ→ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい褐	—	3.5	IV	底径13.5cm、底面に鯨脊椎骨痕
210	385	A5	褐色土層	IV	深鉢	胴部	ナデ/押型文	角閃石、1~5mm程度の砂粒	やや不良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	10.5	Ia	
211	612	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	5.5	IIb	
212	569	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	やや不良	にぶい褐/褐	—	6.8	IIIa1	
213	359	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	赤褐/赤褐	—	6.5	IIIa1	
214	9	A22	褐色土層下部	IV	鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	(16.0)	10.4	IIIa1	
215	356	A22	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	9.4	IIIa2	
216	494	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	—	7.5	IIIa1	
217	4	D22	黒色土層直上	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、石英、長石、1~4mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	—	20.2	IIIa1	
218	239	D19	褐色土層上部	IV	深鉢?	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	5.3	IIIa1	
219	280	A22	褐色土層	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	4.6	IIIa1	
220	6	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	1~2mm程度の砂粒	良好	黄灰/にぶい黄橙	—	18.0	IIIa2	
221	20	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	—	19.9	IIIa1	
222	620	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	4.7	IIIa1	
223	240	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、長石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	—	6.2	IIIa1	
224	393	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、長石、1~3mm程度の砂粒	良好	黄灰/橙	—	3.4	IIIa2	
225	10	A23	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黄灰/灰褐	—	11.0	IIIa2	
226	388	A23-24	褐色土層最下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1~2mm程度の砂粒	良好	黄灰/黄灰	—	7.5	IIIa	
227	386	C2	褐色土層	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	7.4	IIIa1	
228	38	D18-19	褐色土層上部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	—	15.2	IIIa2	
229	245	A19-D23	褐色土層	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	—	4.8	IIIb2	
230	369	C3	褐色土層	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm以下の砂粒	良好	褐灰/にぶい褐	—	4.0	IIIb2	
231	396	B9	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	—	7.3	IIIb2	
232	230	D20-24	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	8.4	IIIb2	
233	360	D9	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	赤褐/にぶい赤褐	—	5.3	IIIb2	
234	398	D9	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	—	3.7	IIIb2	

第8表 縄文土器・土製品観察表7

※()は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整(内面/外面)	胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
235	271	A23	褐色土層	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	長石、1~2mmの砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	5.1	IIIb3	
236	283	D24	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	5.7	IIIb3	
237	54	D22・23	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰樹褐/にぶい橙	-	12.1	IIIb3	
238	2	D13・24	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	-	8.8	IIIb3	
239	623	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	3.4	IIIb4	
240	281	D24	褐色土層下部	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	4.5	IIIb3	
241	282	A23・24	褐色土層最下部	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	-	3.5	IIIb4	
242	247	D23	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい褐	-	11.5	IIIb3	
243	391	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	9.1	IIIb3	
244	603	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰黄褐	-	7.1	IIIb1	
245	486	A23・24	褐色土層最下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	6.5	IIIb1	
246	561	D19	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	-	5.7	IIIb3	
247	237	B3	褐色土層	IV	深鉢?	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	-	5.4	IIIb1	
248	439	D17	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい橙	-	5.9	IIIb5	
249	616	D22	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	3.6	IIIb5	
250	17	D23	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	-	8.5	IIIb5	
251	177	D24	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄褐	-	7.7	IIIb5	
252	16	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	-	18.8	IIIb3	
253	601	D9	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	-	4.9	IIIb5	
254	227	D24	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~2mm程度の砂粒	やや不良	にぶい橙/にぶい黄褐	-	5.2	IIIb6	
255	366	B2	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	6.0	IIIb6	
256	85	D18	褐色土層上部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	-	7.1	IIIb5	
257	53	C2	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~4mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい褐	-	23.5	IIIe1	野口・阿多タイプ
258	51	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	(11.3)	13.0	IIIc1	復元底径5.8cm
259	358	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	5.7	IIIc1	
260	113	D19	褐色土層最下部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	-	7.4	IIIc1	
261	573	D19・23	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	-	9.4	IIIc1	
262	59	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	(24.1)	21.9	IIIc2	
263	13	D24・C3	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/黄灰	-	13.5	IIIc1	
264	3	D19・23	褐色土層最下部	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	-	19.1	IIIc1	
265	41	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	胴~底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	25.2	IIIc1	
266	270	D19	褐色土層最下部	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	4.9	IIIc1	
267	614	D13	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	5.4	IIIc1	
268	27	D19・22地	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	-	11.3	IIIc1	
269	163	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/黒褐	-	5.9	III d1	
270	261	D17	褐色土層	IV	鉢	口縁部	ナデ、貝殻条痕/ナデ、貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	3.8	III d1	
271	269	D23	褐色土層	IV	鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	3.4	III d1	
272	12	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	-	5.9	III d1	
273	166	D17	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/貝殻条痕跡→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	8.6	III d1	

第9表 縄文土器・土製品観察表8

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
274	277	A22	褐色土層	IV	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	3.7	Ⅲd1	
275	289	A23	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	—	3.1	Ⅲd2	
276	167	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	—	4.9	Ⅲd1	
277	428	A23	褐色土層	IV	鉢	口縁部	ナデ/ナデ→文様条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい黄褐	—	3.6	Ⅲd2	
278	617	A23	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	3.1	Ⅲd2	
279	373	D24	褐色土層上部	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰色	—	2.9	Ⅲd1	
280	480	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	—	4.0	Ⅲd1	
281	372	D22	褐色土層上部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/褐灰	—	3.5	Ⅲd1	
282	438	D18	褐色土層上部	IV	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい黄橙	—	2.8	Ⅲd1	
283	605	C1	貝層直下層	IV	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰褐	—	6.7	Ⅲd1	
284	294	D22	黒色土層直上	V	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	灰褐/にぶい褐	—	3.0	Ⅲd3	
285	570	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	11.1	Ⅲd3	
286	84	D17	褐色土層	IV	深鉢?	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	雲母、角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい橙	—	11.0	Ⅲd3	
287	119	A22	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	—	6.9	Ⅲd3	
288	81	D13	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい褐	—	10.3	Ⅲd3	
289	82	D13	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	15.5	Ⅲd3	
290	71	D13	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄/灰黄褐	—	10.0	Ⅲd3	
291	613	A24	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	—	3.7	Ⅲd3	
292	602	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/黄灰	—	5.7	Ⅲd1	
293	189	D9	褐色土層直上面	Ⅲ・IV	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	—	7.5	Ⅲd1	
294	433	C3	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	—	10.8	Ⅲd1	
295	441	A22	褐色土層	IV	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	滑石、1mm以下の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	7.3	Ⅲ	ⅢdもしくはⅢf類
296	109	A22	褐色土層	IV	深鉢?	口縁部	貝殻条痕/ナデ	滑石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄/褐灰	—	5.3	Ⅲ	ⅢdもしくはⅢf類
297	376	D19	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	6.5	Ⅲe	
298	183	A23	褐色土層	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	—	11.3	Ⅲe	
299	397	D9	褐色土層下部	IV	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	—	10.2	Ⅲe	
300	384	D18	混貝褐色土層	IV	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	7.0	Ⅲe	
301	87	A24	褐色土層	IV	鉢?	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	—	4.2	Ⅲg	
302	80	A24	褐色土層	IV	深鉢?	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	—	8.9	Ⅲg	
303	89	A24	褐色土層	IV	鉢?	胴部?	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/褐灰	—	6.6	Ⅲg	
304	88	A24	褐色土層	IV	鉢?	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	—	4.8	Ⅲg	
305	488	D17	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	—	4.5	Ⅲa	
306	351	A21	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄橙	—	4.2	Ⅲa	
307	264	D23	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	5.3	Ⅲa	
308	352	D20	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/褐灰	—	4.9	Ⅲa	
309	279	D18-19	褐色土層上部	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/橙	—	4.5	Ⅲa	
310	241	A21	褐色土層	IV	鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	1~3mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	—	4.4	Ⅲa	人骨付近で出土
311	484	D1	褐色土層	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	黒褐/にぶい黄橙	—	4.0	Ⅲ	ⅢcもしくはⅢd類
312	116	D18-23	褐色土層下部	IV	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰黄褐	—	5.6	Ⅲ	ⅢcもしくはⅢd類

第10表 縄文土器・土製品観察表 9

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
313	64	D19	褐色土層	IV	深鉢	胴～底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい褐	—	7.1	Ⅲ	底径9.3cm、底面に簾状?圧痕
314	61	B9	褐色土層	IV	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	4.5	Ⅲ	底径6.9cm
315	65	C1・2	褐色土層	IV	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/橙	—	3.2	Ⅲ	底径7.8cm
316	66	B2	褐色土層	IV	深鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	雲母、角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	5.7	Ⅲ	底径8.1cm、簾状?圧痕
317	63	D19	褐色土層上部	IV	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/橙	—	3.9	Ⅲ	底径9.9cm
318	70	A24	褐色土層	IV	深鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1～5mm程度の砂粒	良好	橙/にぶい黄橙	—	3.7	Ⅲ	底径8.6cm
319	371	C2	褐色土層	IV	鉢	底部	ナデ/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい黄褐	—	4.2	Ⅲ	底径2.5cm
320	563	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	底部～胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1～2mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい褐	—	5.4	IV?	底径11.6cm
321	562	D20	褐色土層上部	IV	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1～3mm程度の砂粒	良好	灰褐/にぶい橙	—	3.2	IV?	底径10.0cm
322	370	A5	黒褐色土層	IV・V	深鉢	胴部	ナデ/押型文	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.0	I a	
323	615	D9	黒褐色土層	IV・V	浅鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい褐	—	3.3	II a	
324	39	324-24	黒褐色土層	IV・V	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1～4mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい赤褐	—	17.7	III a1	
325	624	D19	褐色・黒色土層	IV・V	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	—	5.0	III b4	
326	363	D18	黒褐色土層	IV・V	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	やや不良	黒褐/灰褐	—	6.1	III b6	
327	278	D18	黒褐色土層	IV・V	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	—	3.2	III b6	
328	611	A20	黒褐色土層	IV・V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	—	3.2	III c1	
329	622	A20	黒褐色土層	IV・V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒褐/黒褐	—	4.3	III c1	
330	14	A20	黒褐色土層	IV・V	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	—	8.8	III d1	
331	291	A5	黒褐色土層	IV・V	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	4.5	III d1	
332	574	D19	褐色・黒色土層	IV・V	鉢	胴部	ナデ/ナデ	雲母、1～5mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい黄橙	—	4.9	Ⅲ	
333	22	D18	黒褐色土層	IV・V	深鉢?	胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	雲母、1～3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	—	7.0	Ⅲ	
334	571	A20	黒褐色土層	IV・V	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	11.8	III a1	
335	5	D19	褐色・黒色土層	IV・V	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕	角閃石、1～5mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐色/にぶい褐	—	17.7	III a1	
336	67	D23	褐色・黒色土層	IV・V	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、2mm程度の砂粒	良好	橙/橙	—	7.2	Ⅲ	底径9.2cm
337	125	D20	黒褐色土層	IV・V	深鉢	底部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	1～5mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	—	8.4	Ⅲ	底径8.5cm
338	592	B3	黒色土層	V	深鉢	胴部	押型文→ナデ/押型文	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	浅黄橙/灰褐	—	3.9	I a	
339	559	D23	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.4	II b	
340	395	D5	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	6.5	II a	
341	379	D23	黒色土層	V	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、石英、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	—	6.7	II	
342	232	D12	黒色土層	V	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	—	12.2	III a1	
343	55	D22	黒色土層直上	V	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、長石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	—	18.3	III a2	
344	58	115-23	黒色土層	V	深鉢	胴～底部	貝殻条痕/貝殻条痕	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/橙	—	12.9	III a1	
345	273	D18	黒色土層上部	V	鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい赤褐	—	3.7	III b5	
346	447	C2	黒色土層	V	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、長石、1～3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.7	III b5	
347	380	A23・24	黒色土層上部	V	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～2mm程度の砂粒	やや不良	にぶい黄褐/灰褐	—	11.1	III e1	野口・阿多タイプ
348	440	D19	黒色土層	V	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	—	3.9	III b5	
349	357	D23	黒色土層	V	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1～3mm程度の砂粒	やや不良	黒褐/黒褐	—	11.3	III b5	
350	361	A23・24	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条混→ナデ	1～2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	4.1	III b3	
351	178	A23・24	黒色土層下部	V	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	やや不良	灰褐/にぶい褐	—	5.0	III b3	

第11表 縄文土器・土製品観察表10

※()は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整(内面/外面)	胎土	焼成	色調(内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
352	619	D24	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい橙	-	3.8	IIIb3	
353	555	C2	黒色土層	V	深鉢	口縁部~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	-	5.6	IIIb2	
354	625	A23-24	黒色土層上部	V	深鉢	胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰褐/橙	-	7.6	IIIb	
355	274	D22	黒色土層下部	V	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい褐	-	7.5	IIIb5	
356	91	C1	4層上	V	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい褐	-	9.7	IIIb5	
357	265	D23	黒色土層	V	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	-	6.8	IIIb6	
358	362	D1	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	-	5.2	IIIb6	
359	606	D5	黒色土層	V	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい黄橙	-	9.3	IIIb	
360	226	A23-24	黒色土層上部	V	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/黒褐	-	8.6	IIIc1	
361	288	D19	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	3.5	IIIc1	
362	15	D18	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、雲母、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	-	5.7	IIIc1	
363	296	D19	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	4.6	IIIc3	
364	60	D19-23	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm以下の砂粒	良好	明赤褐/橙	-	8.2	IIIc1	
365	354	C2	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰黄褐	-	6.7	IIIc1	
366	618	D1	黒色土層	V	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ、貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	橙/橙	-	5.0	IIIc2	
367	575	B3	黒色土層	V	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	-	10.5	IIIc	
368	25	D18	黒色土層上部	V	深鉢?	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	雲母、1~2mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい黄橙	-	3.6	IIIc	
369	558	C3	黒色土層	V	深鉢	口縁部~胴部	ナデ/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	橙/にぶい橙	-	7.1	IIIa?	
370	621	D20	黒色土層	V	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、長石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	5.1	III	
371	69	D23	黒色土層	V	深鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕	1~3mm程度の砂粒	良好	赤褐/赤褐	-	5.0	III	底径10.2cm
372	62	A23-24	黒色土層上部	V	深鉢	底部	貝殻条痕/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	明赤褐/橙	-	2.7	III	底径8.4cm
373	223	C2	黒色土層	V	土鉢	2/3程度	-/ナデ	1mm以下の砂粒	良好	黒褐/黒褐	-	-	-	残存長3.4cm、最大直径1.0cm
374	47	A	不明	-	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、石英、長石、1~5mm程度の砂粒	良好	橙/褐灰	-	6.6	IIIa2	
375	37	B3	不明	-	深鉢	胴~底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	橙/橙	-	11.6	IIIa1	底部径9.0cm
376	49	D1-B3	不明	-	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい褐	(21.6)	21.1	IIIb3	
377	1	B	不明	-	深鉢	口縁部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	(21.0)	8.5	IIIc1	
378	96	D18	不明	-	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	12.9	IIIc2	
379	132	A8	不明	-	深鉢	底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	4.2	III	復元底径10.8cm
380	429	A	不明	-	浅鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	角閃石、石英、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/橙	-	2.6	VIa	
381	175	A8	ピット埋土	-	深鉢	口縁部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰褐	-	5.8	IIIc1	
382	155	E3	混土貝層I	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	6.2	Vb1	
383	197	E1	混土貝層I	II	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	3.6	Vb1	
384	198	E1	混土貝層I	II	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	4.8	Vb1	
385	297	E1	混土貝層I	II	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/縄文→ナデ、ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/褐灰	-	5.5	VIb	
386	260	E3	混土貝層I	II	鉢	口縁~胴部	ナデ/縄文→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	6.1	VIa	赤色顔料付着
387	331	E2	混土貝層I	II	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ、ミガキ	角閃石、長石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰褐	-	10.5	VIc	
388	594	E1	混土貝層I	II	深鉢	口縁部~胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	42.8	15.2	VIb	
389	255	E2	混土貝層I	II	深鉢	口縁部	ナデ/縄文→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/褐灰	-	6.5	VIc	
390	99	E3	混土貝層I	II	鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰黄褐	-	4.1	VIb	

第12表 縄文土器・土製品観察表11

※()は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
391	328	E1	混土貝層 I	II	浅鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ、ミガキ	1mm以下の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	5.8	VII	
392	181	E2	混土貝層 I	II	鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰黄褐	-	5.6	VII	
393	93	E2	混土貝層 I	II	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ・ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、石英、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	14.0	VII	
394	100	E2	混土貝層 I	II	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ、ミガキ/ミガキ	角閃石、石英、1~3mmの砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	(48.7)	17.7	VII	
395	128	E3	混土貝層 I	II	深鉢	底~胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰褐/橙	-	10.0		復元底径13.4cm
396	348	E2	混土貝層 I	II	鉢	底部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/黒褐	-	3.0		底径10.1cm
397	158	E1	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ、ミガキ/ナデ→ミガキ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	14.1	Vb1	
398	104	E1	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ハケメ→ナデ/ハケメ→ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	(24.8)	16.9	Vb1	
399	196	E3	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	5.6	Vb1	
400	318	E1	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	黒/黒褐	-	7.2	Vb1	
401	211	E2	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ、指頭圧痕	雲母、1~4mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/灰黄褐	-	9.8	Vb1	
402	171	E2	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/縄文→ナデ→ミガキ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/褐灰	-	3.6	VIIb	
403	213	E1	純貝層	III	鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/縄文→ナデ→ミガキ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい黄褐	-	10.2	VIb	
404	319	E1	純貝層	III	鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	暗赤褐/にぶい黄橙	-	12.3	VIb	
405	498	E1	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/橙	-	3.5	VIb	
406	315	E1	純貝層	III	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	黒褐/黒褐	-	5.5	VIb	
407	156	E2	純貝層	III	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~4mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	9.6	Vb1	
408	374	E2	純貝層	III	鉢	口縁~胴部	ナデ、ミガキ/ナデ、ミガキ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	黒/黒	-	10.6	VIb	赤色顔料付着
409	182	E2	純貝層	III	浅鉢	口縁部	ナデ、ミガキ/ケズリ→ナデ、ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	4.0	VII	
410	134	E2	純貝層	III	深鉢	底部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	-	4.1		底径13.9cm
411	224	E1	純貝層	III	鉢	底部	指オサエ、ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	-	4.1		復元底径10.7cm
412	218	E1	純貝層	III	鉢	底部	ナデ→ミガキ/ミガキ	角閃石、雲母、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/黒	-	5.4		底径9.3cm
413	127	E1	純貝層	III	深鉢	底部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1~4mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	-	8.1		復元底径11.6cm
414	253	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	雲母、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい赤褐	-	7.1	Va2	
415	320	E3	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄褐/にぶい黄橙	-	10.3	Vb1	
416	161	E1	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい黄橙	(25.1)	10.2	Va1	
417	321	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	(23.2)	11.0	Vb1	
418	333	E3	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/灰褐	-	20.1	Vb2	
419	92	E3	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	-	17.4	Vb1	
420	157	E3	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1~4mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	-	8.1	Vb1	
421	199	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	-	7.0	Vb1	
422	316	E3	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm以下の砂粒	良好	褐灰/黒褐	-	7.8	Vb1	
423	317	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	褐灰/褐灰	-	8.6	Vb1	
424	212	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1mm程度の砂粒	良好	灰褐/にぶい褐	-	15.8	Vb1	
425	322	E2	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄橙	(30.5)	14.2	Vb1	
426	152	E1	混土貝層 II	IV	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒/褐灰	(29.9)	5.7	VIb	内外面に赤色顔料付着
427	136	E1・2	混土貝層 II	IV	鉢	口縁~胴部	ミガキ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒褐/暗灰黄	(43.9)	6.5	VIa	外面に赤色顔料付着
428	139	E2・3	混土貝層 II	IV	鉢	口縁~胴部	ミガキ/ナデ→ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	(35.6)	6.6	VIa	外面に赤色顔料付着
429	499	E2	混土貝層 II	IV	浅鉢	口縁部	ミガキ/ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒/褐灰	-	4.0	VIa	

第13表 縄文土器・土製品観察表12

※()は復元値

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	※ 口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
430	151	E2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	8.6	Ⅵa	
431	259	E2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	口縁部	ミガキ/ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	褐灰/黒褐	—	3.7	Ⅵa	外面に赤色顔料付着
432	235	E2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	鉢	胴部	ナデ/縄文→ナデ、ミガキ	1~3mm程度の砂粒	良好	黒褐/褐灰	—	6.7	Ⅵa	赤色顔料付着
433	332	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	口縁~胴部	ナデ、ミガキ/ナデ、ミガキ	1mm程度の砂粒	良好	黒/黒褐	—	12.6	Ⅵb	赤色顔料付着
434	101	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	口縁部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	(25.6)	5.4	Ⅵb	
435	154	E2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	口縁部	ハケメ→ナデ/ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	褐灰/灰黄褐	—	6.2	Ⅵb	
436	102	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	胎付鉢	脚台部	ナデ/ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	5.8	Ⅵb	底径12.5cm
437	97	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	雲母、1~2mm程度の砂粒を施す	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	—	14.3	Ⅵd	
438	248	E2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	底部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	褐灰/にぶい橙	—	6.9		
439	225	E1・2	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	底部	ナデ/ナデ	雲母、角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄褐	—	7.8		復元底径12.6cm
440	126	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	底部	ナデ/指オサエ、ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい橙	—	7.3		底径11.8cm
441	160	E1	混土貝層Ⅱ	Ⅳ	深鉢	胴~底部	ケズリ→ナデ/指オサエ・ナデ→ミガキ	1~4mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	9.9		底径11.0cm
442	159	E3	混貝土層	Ⅴ	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ→ミガキ	雲母、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	(21.6)	18.9	Vb2	
443	162	E3	混貝土層	Ⅴ	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ、指オサエ/ナデ、指オサエ	1~2mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	13.4	Va1	
444	195	E3	混貝土層	Ⅴ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	—	5.6	Vb2	
445	251	E3	混貝土層	Ⅴ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい赤褐/にぶい褐	—	6.0	Va2	
446	103	E3	土壇墓埋土	—	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ、ミガキ/ナデ→ミガキ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰褐/にぶい褐	(27.3)	24.5	Ⅵb	
447	210	E3	土壇墓埋土	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/ナデ	角閃石、雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰黄褐	—	8.8	Vb1	
448	21	E	不明	—	深鉢	胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/にぶい赤褐	—	8.4	Ⅵd	
449	7	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい橙	—	10.5	Ⅲa1	
450	8	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/灰黄褐	(26.0)	11.2	Ⅲa2	
451	48	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕	角閃石、1~4mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい褐	(18.6)	11.4	Ⅲa2	
452	52	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕	角閃石、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/灰褐	—	14.1	Ⅲa2	
453	389	不明	不明	—	深鉢	胴部	ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~3mm程度の砂粒	やや不良	灰黄褐/褐灰	—	7.9	Ⅲb5	
454	11	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	灰褐/灰黄褐	(18.5)	9.7	Ⅲb3	
455	46	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	角閃石、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰赤	—	13.1	Ⅲc1	
456	56	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	貝殻条痕→ナデ/貝殻条痕→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	にぶい橙/灰褐	—	11.0	Ⅲc1	
457	491	不明	不明	—	深鉢	胴部~底部	貝殻条痕/貝殻条痕→ナデ	1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい黄橙	—	7.5	Ⅲ	復元底径9.4cm
458	79	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、石英、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/褐灰	—	9.9	Ⅳb2	
459	110	不明	不明	—	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	雲母、1~3mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい赤褐	—	8.4	Ⅳc1	
460	78	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ケズリ→ナデ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	にぶい褐/灰黄褐	—	20.0	Ⅳc2	
461	572	不明	不明	—	鉢	胴部	ナデ/ナデ	角閃石、長石、石英、1~5mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい赤褐	—	5.2	Ⅳ?	
462	137	不明	不明	—	鉢	口縁~胴部	ナデ→ミガキ/ナデ→ミガキ	1~3mm程度の砂粒	良好	黒/黒褐	—	9.3	Ⅵa	外面に赤色顔料付着
463	18	不明	不明	—	深鉢	胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、1mm程度の砂粒	良好	灰黄褐/にぶい赤褐	—	15.0	Ⅵd	
464	19	不明	不明	—	鉢	胴~底部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、石英、1~5mm程度の砂粒	良好	灰褐/褐灰	—	8.2	Ⅵd	
465	355	不明	不明	—	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ→ミガキ	角閃石、石英、1~2mm程度の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい橙	—	15.5	Ⅶ	

第14表 石器・石製品観察表 1

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	分類	石 材	計 測 値				備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
466	456	A17	攪乱層	I	石鏃	IIb	安山岩	2.8	1.5	0.4	1.2	
467	450	A2	攪乱層	I	石鏃	IIb	黒曜石	1.8	1.5	0.5	1.1	
468	508	A16	攪乱層	I	石鏃	IIc	安山岩	2.7	1.7	0.6	2.1	
469	521	D19	攪乱層	I	石鋸	—	安山岩	1.7	1.1	0.2	0.3	
470	537	A19	攪乱層	I	石匙	Ib	安山岩	3.7	5.3	1.0	13.1	
471	423	B7	攪乱貝層	I	石笛	—	石灰岩	6.0	2.9	1.6	44	
472	403	B1	攪乱層	I	石錘	II	安山岩	8.3	8.7	5.7	590	
473	404	C15	攪乱層	I	石錘	I	安山岩?	9.6	7.8	2.2	254	
474	550	C14	攪乱層	I	磨石・敲石	I	安山岩	9.1	8.8	3.5	427	
475	421	C15b	攪乱層	I	磨製石斧	IIa	玄武岩	11.8	5.3	3.9	280	
476	544	A2	攪乱層	I	磨製石斧	IIIc	安山岩	10.1	6.0	4.0	355	
477	522	D9	第2貝層	II?	石鏃	Ia	安山岩	2.6	2.3	0.4	1.6	
478	503	A23	混土貝層	II	石鏃	IIIb	黒曜石	1.7	1.9	0.4	0.8	
479	526	D5	混土貝層	II	石鏃	IIb	チャート	2.3	1.8	0.3	0.8	
480	509	A20	混土貝層	II	石鏃	IIb	チャート	3.1	2.3	0.5	2.0	
481	506	B7	混土貝層	II	石鏃	IIb	安山岩	2.1	1.6	0.4	0.8	
482	523	A21	混土貝層	II	石鏃	IIb	安山岩	1.8	1.4	0.4	0.9	
483	515	B15	混土貝層	II	石鏃	IIc	安山岩	2.2	1.4	0.4	0.7	
484	510	A20	混土貝層	II	石鏃	IIc	安山岩	2.4	1.8	0.6	1.7	
485	505	B9	混土貝層	II	石鏃	IIc	黒曜石	1.9	1.5	0.3	0.8	
486	540	D17	混土貝層	II	石匙	Ia	安山岩	4.8	5.9	1.0	17.7	
487	539	A11	混土貝層	II	石匙	Ia	安山岩	3.5	4.9	0.5	6.8	
488	536	A13	混土貝層	II	石匙	Ib	安山岩	2.9	6.5	0.9	13.7	
489	408	D1	混土貝層	II	石匙	Ib	安山岩	2.7	4.0	0.8	8.0	
490	541	A20	混土貝層	II	石匙	IIa	安山岩	6.1	2.7	1.1	11.2	
491	532	A20	混土貝層	II	削器	—	安山岩	7.3	5.6	1.2	41.6	
492	531	A18	混土貝層	II	削器	—	安山岩	9.6	4.6	2.0	58.4	
493	467	A11	混土貝層	II	石製垂飾	—	滑石	6.0	2.1	0.6	11.1	
494	401	A3	混土貝層	II	石錘	I	安山岩	7.7	6.1	4.6	270	
495	406	A2	混土貝層	II	石錘	II	安山岩	10.5	12.7	4.7	542	
496	548	A1	混土貝層	II	磨石・敲石	I	安山岩	9.4	8.6	4.9	600	
497	463	A2	混土貝層	II	磨石・敲石	I	安山岩	10.3	8.6	3.7	410	
498	462	A13	第5貝層	II	磨石・敲石	I	安山岩	10.6	7.0	3.9	389	
499	466	D17	混土貝層	II	磨石・敲石	III	安山岩	10.9	6.6	6.7	842	
500	419	A3	混土貝層	II	磨製石斧	IIa	輝緑岩	12.0	5.9	3.7	410	
501	527	D24	純貝層	III	石鏃	Ib	黒曜石	1.5	1.7	0.3	0.5	
502	452	B9	貝層	III	石鏃	Ib	チャート	2.1	2.0	0.3	1.4	
503	530	D17	純貝層	III	石鏃	IIa	安山岩	2.4	1.7	0.5	1.2	
504	524	D20	純貝層	III	石鏃	IIb	黒曜石	3.0	2.0	0.5	1.2	
505	517	A20	純貝層	III	石鏃	IIb	安山岩	2.9	1.8	0.3	1.3	
506	417	D23	純貝層	III	石鏃	IIb	チャート	3.1	1.7	0.4	1.2	
507	411	C1	貝層(最下層)	III	石鏃	IIc	安山岩	3.8	2.0	0.4	2.5	
508	551	D13	純貝層	III	磨石・敲石	I	安山岩	7.4	7.1	4.1	434	
509	547	D9	純貝層	III	磨石・敲石	II	安山岩	11.4	6.3	3.8	390	
510	529	A22	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	1.4	1.6	0.3	0.3	
511	520	A23	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	1.9	1.8	0.4	0.8	
512	455	D9	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	1.8	2.0	0.4	0.9	
513	511	C3	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	2.4	2.1	0.4	1.2	
514	458	D19	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	2.0	1.8	0.3	0.5	
515	460	D19	褐色土層	IV	石鏃	Ib	黒曜石	2.2	1.5	0.3	0.7	
516	528	D22	褐色土層	IV	石鏃	Ib	安山岩	2.0	1.8	0.4	0.7	
517	504	C2	褐色土層	IV	石鏃	IIa	安山岩	1.9	1.5	0.4	0.8	
518	507	C3	褐色土層	IV	石鏃	IIa	黒曜石	2.0	1.4	0.4	0.9	
519	454	D13	褐色土層	IV	石鏃	IIa	安山岩	2.6	1.7	0.4	1.3	
520	415	C2	褐色土層	IV	石鏃	IIa	安山岩	2.7	1.8	0.5	1.7	
521	413	D17	褐色土層	IV	石鏃	IIa	安山岩	2.6	1.6	0.4	1.3	
522	516	C3	褐色土層	IV	石鏃	IIb	黒曜石	2.6	1.5	0.5	1.1	
523	514	A24	褐色土層	IV	石鏃	IIb	安山岩	1.7	1.3	0.3	0.5	
524	451	C3	褐色土層	IV	石鏃	IIb	安山岩	2.3	1.9	0.3	1.6	
525	501	C2	褐色土層	IV	石鏃	IIc	黒曜石	2.1	1.6	0.4	0.8	
526	500	A22	褐色土層	IV	石鏃	IIc	安山岩	2.3	1.5	0.3	0.9	

第15表 石器・石製品観察表 2

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	器種	分類	石材	計測値				備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
527	512	C3	褐色土層	IV	石鏃	IIb	黒曜石	2.7	1.9	0.4	1.1	
528	525	B3	褐色土層下部	IV	石鏃	IIb	安山岩	2.5	1.9	0.4	0.8	
529	459	A21-22	褐色土層	IV	石鏃	IIIc	黒曜石	1.3	1.6	0.3	0.4	1号人骨に伴う
530	538	A24	褐色土層	IV	石匙	IIb	安山岩	6.7	6.0	1.0	33.3	
531	534	C3	褐色土層	IV	削器	-	安山岩	7.7	3.9	0.9	23.3	
532	535	D20	褐色土層上部	V	削器	-	安山岩	5.3	6.4	1.1	27.9	
533	533	C1	褐色土層	IV	削器	-	安山岩	8.2	4.3	6.1	29.8	
534	405	D19	褐色土層	IV	石錘	I	安山岩	8.7	9.9	4.0	393	
535	465	A24	褐色土層	IV	磨石・敲石	II	安山岩	10.5	8.5	6.4	820	
536	549	D17	褐色土層	IV	磨石・敲石	II	安山岩	11.2	8.9	4.1	630	
537	552	C3	褐色土層	IV	磨石・敲石	II	安山岩	10.3	8.7	4.6	632	
538	546	D1	褐色土層	IV	磨製石斧	Ib	砂岩泥岩	8.7	4.1	1.8	106	ホルンフェルス
539	457	A20	黒褐色土層	IV・V	石鏃	IIa	安山岩	2.2	1.5	0.3	0.7	
540	418	D20	黒褐色土層	IV・V	石鏃	Ia	安山岩	1.8	1.9	0.4	0.8	
541	513	A19	黒褐色土層	IV・V	石鏃	IIc	安山岩	3.3	2.1	0.6	2.7	
542	518	A24	黒色土層	V	石鏃	IIa	黒曜石	1.9	1.5	0.5	0.8	
543	410	D20	黒色土層	V	石鏃	IIa	チャート	3.1	2.0	0.5	1.9	
544	519	A24	黒色土層	V	石鏃	IIb	凝灰岩	2.8	1.9	0.4	1.1	
545	412	D20	黒色土層	V	石鏃	IIb	サヌカイト	2.6	1.9	0.3	1.0	
546	453	D20	黒色土層	V	石鏃	IIc	安山岩	2.6	2.0	0.4	0.8	
547	409	D19	黒色土層上部	V	尖頭器	-	安山岩	4.8	2.6	0.9	9.9	
548	461	C3	黒色土層	V	磨石・敲石	II	安山岩	11.3	9.2	5.2	775	
549	416	D19	不明	-	石鏃	IIa	安山岩	2.2	1.7	0.5	1.1	
550	543	A8	不明	-	磨製石斧	IIb	砂岩か	14.6	7.1	3.6	570	ホルンフェルス
551	414	E3	混土貝層II	IV	石鏃	IIa	安山岩	2.4	1.9	0.6	1.9	
552	402	E1	混土貝層II	IV	石錘	I	安山岩?	9.4	9.3	2.5	302	
553	542	E1	混土貝層II	IV	石皿	-	安山岩	20.9	17.6	4.8	2100	
554	422	E1	混貝土層	V	磨製石斧	Ib	安山岩	10.2	4.6	2.9	225	
555	545	E3	混貝土層	V	磨製石斧	IIb	変成岩	11.8	5.8	1.8	191	ホルンフェルス
556	464	不明	不明	-	磨石・敲石	II	安山岩	12.4	10.0	5.2	1026	
557	420	不明	不明	-	磨製石斧	II	安山岩	6.2	4.2	2.0	74	
558	469	不明	不明	-	球状耳飾	-	滑石	3.7	1.5	0.9	7.6	

第16表 骨角器観察表

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	種別	材質	計測値				備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
559	645	A14	混土貝層	II	骨製刺突具	動物の四肢骨	4.2	1.6	0.8	3.6	
560	644	D1	純貝層	III	骨製刺突具	動物の四肢骨	9.3	1.7	0.7	4.6	
561	646	A7	不明	-	骨製刺突具	動物の四肢骨	3.4	0.6	0.5	0.8	
562	424	E1	混土貝層II	IV	骨製刺突具	動物の四肢骨	5.6	0.7	0.4	1.9	
563	643	不明	不明	-	骨製刺突具	動物の四肢骨	6.4	1.3	0.7	4.0	ヤス?
564	425	C3	褐色土層	IV	魚骨製刺突具	エイ類尾棘	4.1	0.5	0.3	0.6	
565	471	E3	混土貝層II	IV	魚骨製刺突具	エイ類尾棘	5.4	0.8	0.4	1.4	
566	473	E3	混土貝層II	IV	魚骨製刺突具	エイ類尾棘	4.7	0.5	0.2	0.5	
567	470	E3	混土貝層II	IV	骨製刺突具か簪	動物の四肢骨	6.5	0.6	0.4	2.0	
568	472	A3	混土貝層I	II	骨製簪?	動物の四肢骨	6.3	0.3	0.5	3.7	
569	642	A11	第5貝層	II	骨製簪?	動物の四肢骨	13.3	0.6	0.5	3.0	
570	647	A11	第5貝層	II	骨製垂飾	動物の四肢骨	9.8	2.7	2.4	18.8	

第17表 貝製品観察表

挿入 番号	実測 番号	調査 地点	層位	基本 層序	種別	分類	材質	計測値				備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
571	632	A21	攪乱層	I	貝輪	I	フネガイ科サルボウ	6.0	10.0	4.0	67.4	未製品
572	640	A24	攪乱層	I	貝輪	II	フネガイ科サルボウ	5.6	6.1	1.6	10.2	内外面粗く研磨
573	626	B	混土貝層	II	貝輪	II	フネガイ科アカガイ	5.5	4.3	0.8	4.8	内外面研磨
574	628	B5	混土貝層	II	貝輪	II	フネガイ科サルボウ	5.0	4.8	0.8	7.2	内外面研磨、2ヶ所穿孔
575	639	A13	混土貝層	II	貝輪	II	タマキガイ科ベンケイガイ	4.5	3.8	0.8	5.0	内外面研磨
576	634	B7	混土貝層	II	貝輪	II	フネガイ科サルボウ	5.5	6.3	1.2	11.4	内外面粗く研磨
577	636	D19	混土貝層	II	貝輪	II	フネガイ科アカガイ	4.8	5.0	1.0	8.0	内外面研磨
578	630	A3	混土貝層	II	貝輪	II	フネガイ科アカガイ	5.8	6.0	1.8	16.2	内外面研磨
579	627	B5	混土貝層	II	貝輪	I	フネガイ科サルボウ	8.0	9.5	4.4	65.2	未製品か
580	641	D1	純貝層	III	貝輪	II	フネガイ科サルボウ?	5.3	5.5	1.0	8.2	内外面研磨
581	629	B7	混土貝層	II	貝輪	I	フネガイ科サルボウ	7.4	9.3	3.2	68.8	
582	485	A21	混土貝層	II	貝輪	I	フネガイ科アカガイ	10.9	3.4	8.5	72.2	内周縁磨耗
583	430	D20	純貝層	III	貝輪	I	フネガイ科アカガイ	9.9	8.0	3.8	108	未製品か
584	631	E1	混土貝層 I	II	貝輪	—	アケキガイ科アカニシ	14.7	9.0	5.8	209.4	
585	633	E3	混土貝層 I	II	貝輪	II	フネガイ科アカガイかサルボウ	4.1	7.4	0.8	6.2	内外面研磨
586	637	E3	混土貝層 I	II	貝輪	II	フネガイ科アカガイ	5.7	6.2	0.8	6.4	内外面研磨
587	635	E2	混土貝層 II	IV	貝輪	II	フネガイ科アカガイ?	6.0	5.1	0.7	4.8	内外面研磨
588	638	不明	不明	—	貝輪	II	フネガイ科サルボウ	5.6	4.8	0.9	7.2	内外面研磨

